

世田谷若者総合支援センター  
メルクマールせたがや  
事業報告書

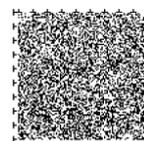
令和6年度



メルクマールせたがや

CHANCE・CHALLENGE・CHANNEL

事業運営 公益社団法人 青少年健康センター【茗荷谷クラブ】





# 目次

<b>I. はじめに</b>	2
<b>II. 事業概要</b>	4
1. メルクマールせたがやの理念・体制	
2. 活動内容	
3. 世田谷区の若者支援ネットワーク	
<b>III. 活動実績</b>	14
1. 実績数値	
2. 利用状況	
3. 相談登録ケースに関する分析	
4. ティーンズサポート事業	
<b>IV. 支援効果</b>	40
1. 方法	
2. 結果と考察	
<b>V. 世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」</b>	46
1. 概要	
2. 「リンク」における活動実績	
3. メルクマールせたがやから「リンク」登録となったケースの特徴	
<b>VI. 事例報告</b>	54
1. 過去の人間関係に傷ついていた本人が居場所利用につながった事例	
2. 家族面接から本人への訪問相談を導入した事例	
3. 長期にひきこもっていた本人が居場所利用を通して変化のあった事例	
4. 家族面接を通して、家族と本人の変化がみられた事例	
5. 困窮した高齢の親から「リンク」相談につながり、本人の自立を促した事例	
<b>VII. メルクマールせたがや利用者の声</b>	60
1. アンケート結果	
2. 本人の声	
3. 家族・その他の声	
<b>VIII. 広報・啓発活動</b>	68
1. 広報・啓発活動	
2. 視察・見学対応	
<b>IX. 支援方針に基づく取組みの進行状況</b>	72
1. 令和6年度の取組み状況	
2. 今後の課題と展望	



I

はじめに

---

## I. はじめに

メルクマールせたがやは、平成 26 年 9 月の開所から 10 年が経ちました。開所当初から、せたがや若者サポートステーションと共に若者総合支援センターの 1 機関として、若者一人ひとりが望む自分らしい社会参加に向けた準備支援に取り組んできました。また、令和 4 年 4 月からは、生活困窮者自立相談支援センターであるぷらっとホーム世田谷と共同で、区内に新たに設置された世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」(以下、「リンク」と記す)を運営することとなりました。「リンク」の開設に伴い、太子堂にある STK ハイツに前述の 3 機関で入所し、複合施設となって若者支援・ひきこもり支援を複数機関で支援できる体制が整備されました。

しかしながら、昨今の若者の現状は、文部科学省の調査によると令和 5 年度の全国の不登校児童生徒数が約 34 万 6 千人と過去最多を更新し続けています。また、厚生労働省から発表された令和 6 年の自殺の状況では、小中高生の自殺者数は 529 人と過去最多を更新したと報告されています。いずれも子どもの人口数は減少しているにもかかわらず不登校者数や自殺者数は過去最多を更新しているという由々しき事態です。現代の子ども・若者にとって、今の社会は大変生きづらい社会、明るい希望や展望が描けない社会になっているのではないかと考えます。

令和 6 年度のメルクマールせたがやの活動実績は、延べ相談対応件数は 6,300 件を超え、前年度より約 500 件増となりました。過去最多の相談対応件数を更新し続けており、継続的な支援が展開できていると言えます。一方、新規相談登録件数は減少したため、新規登録に向けたつなぎの支援が課題でしょう。加えて、子ども・若者支援協議会における個別ケース検討会の開催数が年間で 4 件と少なかったことも、今後の課題ととらえています。今後は、他機関と一堂に会して情報交換や支援方針を検討できる個別ケース検討会議の活用について、所管課をはじめ区内の関係機関から意見を伺いながらより良い会議体のあり方を検討してまいります。

令和 6 年度の世田谷区の動向をみると、多機関協働事業者に 5 地域の保健福祉センターが加わり、重層的支援体制整備事業が区内全域で展開されました。ぷらっとホーム世田谷が主催する支援会議だけでなく地域で開催される会議に参加させていただく機会も増えました。多くの機関と関わる中で、改めてメルクマールせたがやにおける活動内容や利用対象者について考えさせられる機会が増えています。心理や福祉の専門資格を有する職員構成であることから、従来の支援や制度の狭間の部分に専門職への期待が寄せられているものと理解していますが、ひきこもり相談窓口「リンク」における支援も含めて活動内容の整理が必要だと感じております。縦割りだった制度に横串を通す取組みは容易ではありません。あらゆる機関、支援者が同じ目的を共有して、多角的な視点で世帯を理解すること、必要な支援や関われるタイミングを図りながら各機関の強みを持ち寄ること、多機関協働が実践できると考えます。また、キーパーソンとなる支援者を支える仕組みも整えることによって、継続可能な見通しの持てる支援が実施できると感じています。多機関協働事業が動き始めたことによって、見えてきた課題もあることと思います。成果と課題を持ち寄りながら、引き続き世田谷区の重層的支援体制整備事業に寄与できるよう尽力いたします。

令和 7 年度は、STK ハイツから世田谷区役所三軒茶屋分庁舎 5 階に移転しました。ぷらっとホーム世田谷、せたがや若者サポートステーションとともに 3 機関が同じフロアに横並びになり、これまで以上に連携が取りやすい環境になりました。生きづらさを抱えた方が自分らしく人や社会とつながれるよう活動してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

令和 7 年 5 月 メルクマールせたがや施設長 廣岡武明

## Ⅱ

### 事業概要

---

1. メルクマールせたがやの理念・体制
2. 活動内容
3. 世田谷区の若者支援ネットワーク

## II. 事業概要

### 1. メルクマールせたがやの理念・体制

メルクマールせたがやは、一人ひとりの相談者を大切にするその理念として、3つのCHAを掲げ、ひきこもりなどの様々な理由から社会との接点を持たず、生きづらさを抱えた方及びその家族に対して、多様な自立や相談者の望む生き方をサポートすることを目的に、相談支援(来所・訪問)、居場所支援、家族支援(家族会・出張セミナー)、他機関連携を実施している。

#### 3つのCHA –メルクマールせたがやの理念–

##### CHANCE –きっかけ作り–

不登校やひきこもりなどで生きづらさを抱えた方やその家族を対象に、変化に向けた一歩を踏み出す・動き出すきっかけを作るための支援をします。

##### CHALLENGE –挑戦・動き出し–

活動やプログラムを通じて、新たなものに挑戦していくことをサポートします。  
また、利用を重ねることで、自信をもって自立に向かえるよう支援します。

##### CHANNEL –つながり–

他の支援機関とつながり、連携をします。人とのつながり、関係性が生まれることにより、メルクマールせたがやを利用された方が再び社会とつながることができるよう支援します。

#### 【対象】

区内在住の中高生世代以上の方とその家族。

なお令和3年度まで、本人(p.76 用語解説参照)が39歳までの方とその家族を継続的な支援の対象としていたが、令和4年度からは、①メルクマールせたがや利用者で40歳を迎えた方、②「リンク」を経てメルクマールが継続的な相談を行う方、について年齢上限を撤廃し相談支援を行っている。相談者が18歳未満の場合、利用登録には保護者の了承を必要とする。協定大学に在籍する学生は、住所地に関わらず利用できる(p.9)。

#### 【開室日・時間】

月曜日～土曜日(祝日、年末年始は除く) 10:00～18:00

#### 【料金】

無料。ただし、本人に精神疾患、発達障害などの診断があり、医療機関を利用している場合は、居場所利用にあたって主治医の意見書が必要であり、その費用は自己負担となる。また、居場所のプログラムにおいて、材料費の実費負担として参加費を徴収するものもある。

#### 【職員】

公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士、社会福祉士等の有資格者もしくは若者・ひきこもり支援の専門性を有する者で構成される。令和6年度は職員28名(常勤8名、非常勤20名)、開室日平均12～13名の人員体制であった。

## 2. 活動内容

### 1) 相談支援

相談支援は、来所相談、訪問相談、出張相談を展開している。インテーク(初回面接)にて相談者の話を丁寧に聴き、本人及び家族の悩みや心配事、要望などの相談内容を把握する。相談を継続する中で問題・課題の解消に向けた適切な支援を行っている。来所による個別相談は担当制で実施しており、家族からのみの相談も行う。



訪問相談は、原則本人・同居家族の了解を前提とし、家族から本人の状態、家庭での生活状況などの情報収集を行い、本人とつながることを目的として実施している。必要に応じて、他機関と連携して訪問を検討し、実施する。

出張相談は、メルクマールせたがやの相談員が区内関係機関・公共施設に出張し、区内遠方地域での相談支援、他機関とのより円滑な連携を目的に行っている。令和2年6月より区内5つの総合支所の区民相談室を利用した出張相談会を開始したが、三軒茶屋駅近隣に移転して交通の利便性が高まったことから、令和6年度からは世田谷地域を除く4地域(北沢・玉川・砧・烏山)で実施している。また希望丘青少年交流センター「アップス」における出張相談は、平成31年2月より開始し、毎月第2木曜日に実施している。いずれの出張相談も1回30分程度の相談を受けている。ひきこもりなど生きづらさを抱え遠方からの利用を負担に感じる方にとって、身近な場所で相談できる機会となっている。

メルクマールせたがや  
令和6年度  
～出張相談会～  
◎総合支所区民相談室

メルクマールせたがやの職員が各地域の総合支所に出張し、相談をお受けします。学校のこと、友達のこと、家のこと、生活や仕事のことなど、公認心理師等に無料で相談ができます。

日程(開閉 14:00～16:30)	北沢	玉川	砧	烏山
4月	1日(月)	23日(火)	17日(水)	4日(木)
5月	26日(月)	28日(火)	15日(水)	2日(木)
6月	3日(月)	25日(火)	19日(水)	6日(木)
7月	3日(月)	23日(火)	17日(水)	4日(木)
8月	4日(月)	27日(火)	21日(水)	1日(木)
9月	2日(月)	24日(火)	18日(水)	5日(木)
10月	7日(月)	29日(火)	16日(水)	3日(木)
11月	18日(月)	26日(火)	20日(水)	7日(木)
12月	2日(月)	24日(火)	18日(水)	5日(木)
令和7年	6日(月)	28日(火)	15日(水)	9日(木)
1月	3日(月)	25日(火)	19日(水)	6日(木)
2月	3日(月)	25日(火)	19日(水)	6日(木)
3月	3日(月)	25日(火)	19日(水)	6日(木)

**対象**  
世田谷区内在住の  
①中高生世代から30代の方とその家族  
②40歳以上の方とその家族

**申込方法**  
相談は予約制です。  
下記申込みまでご連絡ください。  
対象者の氏名：メルクマールせたがや  
TEL：03-3414-7867  
受付：月～土 10:00～18:00(祝日除く)  
対象者の氏名：ひまこもり相談窓口「リンク」  
TEL：03-5431-5354  
受付：月～金 9:00～17:00(祝日除く)  
電話の他に「出張相談会希望」とお伝えください。  
※世田谷地域にお住いの方は、去来室にあるメルクマールせたがや「リンク」への来所相談をご利用ください。申込先は上記の電話番号になります。

**【注意事項】**  
前日までに事前予約がない場合、出張相談会は中止となります。

※当日は来店をご希望ください。

(総合支所出張相談会)

メルクマールせたがや  
令和6年度  
出張相談会  
◎希望丘青少年交流センター「アップス」

メルクマールせたがやの職員が出張し、相談をお受けします。学校のこと、友達のこと、家のこと、生活や仕事のことなど、公認心理師等に無料で相談ができます。

**日程(毎月第2木曜日 14:00～16:30)**

令和6年 4月11日、5月9日、6月13日、7月11日、8月8日、  
9月12日、10月10日、11月14日、12月12日  
令和7年 1月9日、2月13日、3月13日

**申込方法**  
相談は予約制です。  
メルクマールせたがやまでご連絡ください。(TEL：03-3414-7867)  
電話の他に「アップスでの出張相談会希望」とお伝えください。  
受付：月～土 10:00～18:00(祝日除く) ※毎日12時までお申込み可能  
※事前予約がない出張相談会は中止となります。職員は待機いたしませんのでご注意ください。  
対象：世田谷区内在住の中高生から30代の方、もしくはそのご家族  
※40歳以上の方とそのご家族は、ひまこもり相談窓口「リンク」(TEL：5431-5354)に  
お問い合わせください。※世田谷地域の希望者も、出張相談会参加の申し込みが可能です。  
※お問い合わせは希望日をご希望ください。  
時間：1回30分程度

メルクマールの職員が定期的に希望丘青少年交流センター「アップス」にて出張相談会を開催し、相談者の方々の悩みや心配事、要望などの相談内容を把握し、必要に応じて他機関と連携して訪問を検討し、実施する。

※当日は来店をご希望ください。

(アップス出張相談会)

## 2)居場所支援

居場所は社会参加のきっかけづくりのために通うことのできる交流の場である。居場所への参加は、グループ登録制としている。登録制の居場所にする事で、ひきこもりなどの生きづらさを抱えた若者が安心・安全感を持ちながら他者との交流体験を積み重ねていく場となっている。



### 【対象】

メルクマールせたがや利用者で、居場所登録をした 39 歳までの若者  
※居場所登録をせずに参加できるオープンプログラムも月 8 回程度開催(メルサポ 2 回含む)

### 【開室日・時間】

月曜日～土曜日(祝日、年末年始は除く)

午前の回 10:30～12:30

午後の回 14:00～16:00 ※イベントの際はこの限りではない

### 【活動グループ】

グループ名	活動日	説明
Morning グループ	火 AM 金 PM	人数制限のないグループ。活動日は週 1～2 回。
Day グループ	金 AM 火 PM	人数制限のないグループ。活動日は週 1～2 回。
First Step グループ①	水 PM(隔週)	定員 5 名程度の少人数グループ。活動日は隔週 1 回。
First Step グループ②	月 PM(隔週)	定員 5 名程度の少人数グループ。活動日は隔週 1 回

令和 6 年度は 4 つのグループで活動した。利用者は登録の際にいずれかのグループに所属する。メンバーが固定されている活動グループの他に、グループ制限のないフリータイム、イベントや居場所登録者以外でも参加可能なオープンプログラムを実施している。

### 【オープンプログラム】

グループ登録前に参加可能なプログラム。居場所登録を検討しているが参加している利用者の様子や居場所の雰囲気がわからなかったり、どのように過ごしたらいいか不安を抱えていたりする方向けに、簡単な運動、座学形式の講座、クラフトや近所の散策など、興味・関心のあるものから参加しやすいようプログラム内容を工夫し実施している。

### 【メルサポ】

若者の中には、「支援」「相談」に対して構えのある方がいる。そこで、相談を経ずに予約もなしで「気軽にふらっと立ち寄れる居場所」として、平成 30 年度より世田谷若者総合支援センターをともに担う就労支援機関のせたがや若者サポートステーションと共同で実施している。毎月祝日を除いた第 1、4 土曜日に実施した。主に 2 機関の利用者が集う場所となり、様々な段階にいる参加者同士の交流が図られている。なお、令和 7 年度からは第 2、4 土曜日に実施日を調整している。

世田谷若者総合支援センター  
若者のための居場所  
**メルサポ**



**どんなところ？**  
気軽に立ち寄れて、交流できる居場所を提供しています。事前申し込みは不要。おしゃべりやボードゲームなど、自分のペースでゆったり過ごせるスペースです。

**利用できる方**  
世田谷区在住の中高生世代から39歳までの方

色んな人の話を聞いてみたい！  
定期的に逢える場所が欲しい  
コミュニケーションの練習をしたい

※メルサポは世田谷若者総合支援センターのメルマルセタがやとせたがや若者サポートステーションが併設して運営しているプログラムです。

開室時間：毎月第1・第4土曜日  
(祝日、年末年始を除く)  
13:00～16:00 (入退室自由)

お問い合わせ先  
メルサポ担当はせたがや  
TEL: 03-3414-7867  
FAX: 03-6453-4750

会場：メルマルセタがや  
活動ルーム  
(世田谷区太子堂4-3-1  
STKハイツ5階)

(メルサポチラシ表)

メルサポQ&A

Q.利用料金はかかりませんか？  
A.無料でご利用ができます。事前予約も不要ですのでお気軽にお越しください。

Q.何名くらい参加していますか？  
A.ばらつきはありますが、10名程度である場合が多いです。

Q.スタッフはどのような方ですか？  
A.メルマルセタがやとせたがや若者サポートステーションのスタッフが複数常駐しています。

Q.スタッフに相談できますか？  
A.スタッフの人数や参加者の状況にもよりますが、その場でじっくり話すこともできます。より専門的な相談をご希望の場合は、メルマルセタがやへ登録し、個人面談の機会を設けることをお勧めします。

Q.興味があるけど、いきなり行くのはちょっと…。まずは話を聞きたい。  
A.メルマルセタがやにお問い合わせください。TEL:03-3414-7867

世田谷若者総合支援センターについて

うまく人と話せない、何をやってもうまくいかない、家に居づらさ、孤独を感じる・・・等、生きづらさを抱えていた方メルマルセタがやへ、随分の心遣い、経験豊富な社会者の専門スタッフが丁寧に話を聞き、一緒に考えます。安心して過ごせる居場所もあります。

開室時間：月～土曜日  
10:00～18:00  
休室日：年末年始を除く  
対象：15歳から49歳までの方とその保護者の方  
TEL: 03-3414-7867  
FAX: 03-6453-4750  
MAIL: y-setajoyo@tokyoyo.jp

世田谷若者総合支援センター・アクセス  
メルマルセタがや  
(世田谷区太子堂4-3-1 STKハイツ5階)

電車 東武東上線太子堂駅「駅南東」下車徒歩3分  
バス 東武/小田急バス「五軒茶屋」バス停徒歩1分

(メルサポチラシ裏)

【居場所スケジュール】

イベントやプログラム名を記載した居場所スケジュールは、毎月作成して利用者に配布・周知している。

令和6年 11月号  
メルマルセタがや  
居場所スケジュール

居場所開室時間  
午前(上段) 10:30～12:30  
午後(下段) 14:00～16:00  
※一部開室時間が異なります

月	火	水	木	金	土
4 振替休日	5 オープン Morning Group オープンクラフト	6 First Step合同	7 オープン レクタイム 「Let's Dance」 (14:00-15:30) 持ち物：汗拭きタオル	8 Day Group Morning Group	9 オープン メルサポ (13:00-16:00) Teen's Time 「公園へ行こう！ ～秋の世田谷公園編～」
11 フリー First Step②	12 オープン Morning Group 火曜日企画 「メルクdeモルック」	13 First Step① メルク集合、現地解散 ※雨天決行(詳細裏面)	14 オープン こころば 「アンガー マネジメント入門」	15 オープン Day Group 第3金曜プログラム 「メルクピンポン」	16 居場所 お休み
18 オープン 趣味の時間 「秋のイントロクイズ スペシャル」	19 オープン 予約制 Morning Group メルサポ特製プログラム 「生成AIと一緒に ゲームをつくろう！」	20 オープン 予約制 食プロ 「めるくのおつかい」 参加費：無料	21 オープン 予約制 ファーストクラフト	22 オープン Day Group Teen's Time	23 勤労感謝の日
25 フリー First Step②	26 Morning Group Day Group	27 First Step①	28 オープン おさんぽくらぶ 「農大博物館」 メルク集合、現地解散	29 オープン 予約制※ Day Group イベントプログラム 「メルカラ ～私の歌を聴け～」	30 フリー 予約は22日まで、 カラオケ到着55分は自費、 ドリンク持ち込み可 メルク集合、現地解散。

□居場所活動はグループ登録制です。4つのグループがあります。  
・Morning Group  
・Day Group  
・First Step①  
・First Step②

□グループでは、雑談・ボードゲーム・まったり...と自由に過ごせます。企画を立ててみんなで何かを行うこともあります。

□居場所登録前にお試しで参加できるオープンプログラムは、**オープン**のマークが目印です。気になるプログラムがあれば、担当相談員にお声がけください。

□**Teen's Time**は10代の方(20歳になる年度未まで)向けのお時間です。メルマルセタがやに登録されている方は居場所登録なしでご利用できます。

□**予約制**のマークがついているプログラムは、前日までにスタッフにお声がけください。

【世田谷若者総合支援センター メルマルセタがや】 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-3-1 STKハイツ5階 ☎: 03-3414-7867  
開室日：祝日を除く月曜～土曜 10:00～18:00 居場所開室時間：10:30～12:30/14:00～16:00 (一部の活動を除く)

(令和6年11月号)

### 3) 家族支援(家族会)

家族会には、講演会による「学び」、家族同士の「交流」の2つの要素がある。特に、家族同士の交流は家族会特有の機能であり、家族のピアサポート(p.76 用語解説参照)の場となっている。基本的に家族会の前半が本人理解や接し方などの心理面をはじめとした家族セミナー、後半が同じ悩みを抱える家族同士の交流会で構成される。令和3年度より休止していた交流会は、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことを受け、再開した。他支援機関とつながりがなく、悩みながらも個別相談へのハードルが高いと感じて孤立しがちなご家族に向けて、聴講で参加できる家族会は支援機関へとつながる入口機能となり、孤立防止と早期介入を目的に行っている。

#### 【対象】

区内在住のひきこもりなど生きづらさを抱えた方の家族(年齢は問わない)

#### 【開催日・時間】

毎月第3土曜日 10:30~12:30 (※8月を除く)

#### 【令和6年度家族支援実施内容】

令和6年度

**「メルクマールせたがや 家族会」**  
**「世田谷若者総合支援センター 出張セミナー」のご案内**

令和6年  
12月改訂

メルクマールせたがや 家族会 【実施場所：太子堂4-3-1 STKハイウ 4階 セミナールーム】

不登校やひきこもり等に悩むご家族向けの会です。  
 この日曜からでも参加可能です。  
 ＊原則予約制です。  
 お電話かFAXで受け付けております。  
 ＊8月の家族会はお休みです。  
 ＊内容は急遽変更になる場合があります。

「うちの状況にあてはまるかも」  
 『対応方法や知識を知りたい』など、  
 気になるテーマがございましたら、  
 お気軽にどうぞお問合せください

講演だけでなく、ご家族同士で交流の場や、悩みを分かち合っていることなどを話していただける交流会も企画しています

日付	時間	テーマ	講師	ご予約
第1回 4月20日	10:30~ 12:00	どうして子どもがひきこもるのか？ ～支援を利用したお金の変化～	メルクマールせたがや 相談員	4月1日～
第2回 5月18日	10:30~ 12:00	家族ができる関わり方の工夫	NPO法人 育て上げネット 森祐子氏	5月1日～
第3回 6月15日	10:30~ 12:30	気になるお金の問題 ～さまざまな制度のご紹介～	ぷらっとホーム世田谷 小嶋穂江氏	6月1日～
第4回 7月20日	10:30~ 12:30	ひきこもりを脱する家族のセルフケア ～ストレスとの付き合い方を学ぶ～	メルクマールせたがや 相談員	7月1日～
第5回 9月21日	10:30~ 12:30	思春期と不登校、ひきこもりの関係 ～精神科医の視点から～	国立病院機構 精神科医 程野健也氏	9月2日～
第6回 10月19日	10:30~ 12:30	ひきこもりの経過に合わせた考え方 ～変化が起きる家族の関わり方のヒント～	メルクマールせたがや 相談員	10月1日～
第7回 11月16日	10:30~ 12:30	ひきこもり支援の現場から ～家族だからできること、できないこと～	NPO法人/ノラマ 石井正菜氏	11月1日～
第8回 12月21日	10:30~ 12:00	親の支援について考える ※講演後、個別相談あり(要予約)	せたがや若者サポートステーション 八田綾子氏	12月2日～
第9回 3月18日	10:30~ 12:30	ひきこもりのファイナンシャルプラン ～将来の生活し方を持つために～	ファイナンシャルプランナー 森中優子氏	1月6日～
第10回 2月15日	10:30~ 12:30	自立ごっこはる親子関係 ～関わり方で変わるよさ、減らすこと～	メルクマールせたがや 相談員	2月1日～
第11回 3月15日	10:30~ 12:30	世間さまの声を聞く ～私が一歩踏み出すまでの道のり～	メルクマールせたがやご利用者	3月1日～

**世田谷若者総合支援センター 出張セミナー**

せたがや若者サポートステーション会場で「世田谷若者総合支援センター出張セミナー」を開催しております。  
 ＊各回の内容や開催場所につきましては、原則開催月の日のお知らせ「せたがや」に掲載されます。

日付	場所	ご対象
第1回 6月29日(土)	鳥山地域	テーマにご関心のある方(出張セミナーは区外在住の方もご参加いただけます)
第2回 9月14日(土)	砧地域	
第3回 11月30日(土)	北沢地域	
第4回 3月15日(土)	玉川地域	

【お問合せ先】  
 世田谷若者総合支援センター  
 メルクマールせたがや  
 Tel: 03-5414-7667  
 Fax: 03-5453-4750  
 月曜～土曜日 10:00～18:00  
 (祝日、年末年始は除く)

メルクマールせたがやは、区内在住のひきこもりの生きづらさを脱した方と、そのご家族への支援を行っている機関です。最新情報や最新活動の他に、家族会にも取り組んでいます。

### 4) 出張セミナー

出張セミナーは、メルクマールせたがやがある世田谷地域以外の4地域(北沢・玉川・砧・鳥山)での利用者の掘り起こし、若者支援・ひきこもり支援の普及啓発・広報活動を目的としている。平成28年度より、世田谷若者総合支援センターとしてせたがや若者サポートステーションと共同で開催しており、これまで精神科医やファイナンシャルプランナーなどによる講演を行うことにより、地域の

方々に事業を理解してもらおうきっかけにもなっている。

#### 【対象】

対象要件なし。ただし、定員に達した場合は区民優先とする。

#### 【開催日・時間】

年 4 回 13:30～16:00

#### 【令和 6 年度出張セミナー実施内容】

第 1 回 令和 6 年 6 月 29 日 烏山区民会館

「子どもの心の理解と対応」

講師：栗田明子氏(医学博士・公認心理師)

第 2 回 令和 6 年 9 月 14 日 砧総合支所区民集会所

「子どものサポート～親だからできること、親だからしにくいこと～」

講師：柴田泰臣氏(就労移行支援事業所ビルド神保町施設長)

第 3 回 令和 6 年 11 月 30 日 梅丘パークホール(北沢区民会館別館)

「ひきこもりのサバイバルプラン～親なき後のための生活設計～」

講師：村井英一氏(ファイナンシャルプランナー)

第 4 回 令和 7 年 3 月 15 日 玉川区民会館

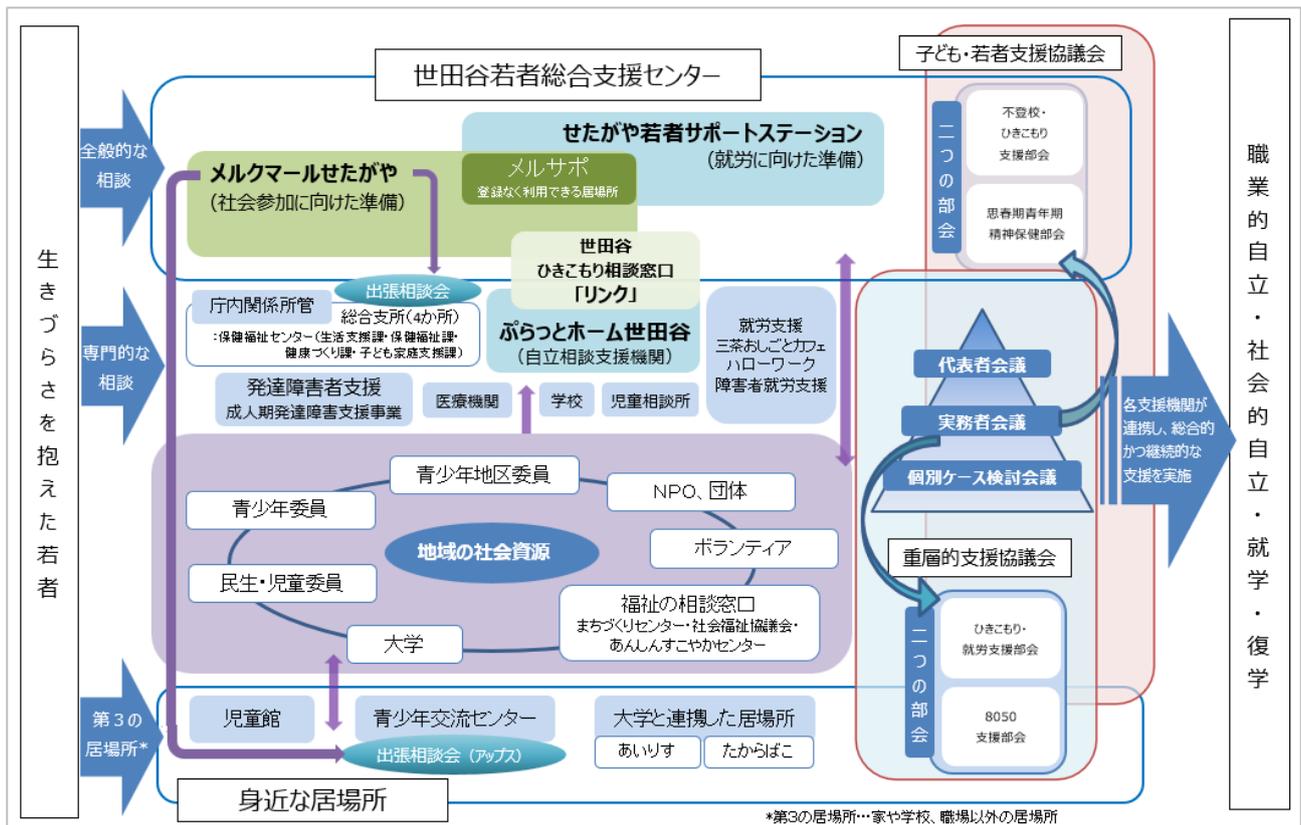
「不登校・ひきこもりの対話的支援」

講師：斎藤環氏(筑波大学名誉教授)

## 5) 他機関連携

他機関連携は、「つながる・つなげる支援」として社会への自立の一步、暮らしやすさを支援する上で必須である。子ども・若者支援協議会(次項参照)のもとに「不登校・ひきこもり支援部会」「思春期青年期精神保健部会」、重層的支援協議会のもとに「ひきこもり・就労支援部会」(p.47)、「8050 支援部会」が位置付けられている。区内には就労、障害、生活などの支援機関が多く存在し、各協議会のネットワークにおいて、本人のニーズにあった適切な機関と顔の見える連携を目指してきた。

また、世田谷区と区内大学とで若者支援に関する協定が結ばれ、平成 27 年度よりひきこもりなどの学生支援、若者の身近な居場所づくりを進めている。令和 5 年度現在、昭和女子大学、日本大学文理学部の 2 校との連携を実施している。



### ①個別ケース検討会議

複合的問題を抱える利用者の支援には、多機関・多職種が互いの専門性を活かし合うことが大切となる。機関同士の情報交換や支援状況の共有、支援方針の決定、役割分担などを目的に開催する。

子ども・若者支援協議会と重層的支援協議会のもとに位置づけられた担当者レベルでの会議のため、出席者は各機関における実務担当者を中心に構成される。会議の内容や知り得た情報には守秘義務が課せられる。メルクマールせたがやは、世田谷区の子ども・若者指定支援機関として、子ども・若者育成支援推進法に基づく個別ケース検討会議を開催することができる。

### ②せたがや若者サポートステーションとの連携

せたがや若者サポートステーションとは、世田谷若者総合支援センターを担う機関として、密に連携して若者支援に取り組んでいる。同じ建物という立地条件を活かし、文字通り担当者同士の「顔の見える連携」ができることで迅速な対応につながっている。

また、世田谷若者総合支援センターとして、合同での出張セミナー(p.8)、「メルサポ」(p.6)や心理教育的なワークショップを中心とした「ここらぼ(旧メルク・サポステ合同プログラム)」などの居場所プログラムを開催している。

### 3. 世田谷区の若者支援ネットワーク

世田谷区は、平成 27 年 2 月に子ども・若者育成支援推進法第 19 条に基づき、主に区内の子ども・若者支援に関する機関の連携を円滑に進めることを目的とした「世田谷区子ども・若者支援協議会」を設置した。会議体は代表者会議、実務者会議、個別ケース検討会議に区分される。機関同士の情報共有、支援内容の協議など関係機関連携を強化することにより、ひとつの機関で区内の若者を支援するのではなく、区全体で総合的かつ継続的な支援を実施するためのネットワークが構築されている。

以下の表は、子ども・若者支援協議会の開催状況である。メルクマールせたがやは、子ども・若者育成支援推進法による子ども・若者指定支援機関として、実務者会議となる「不登校・ひきこもり支援部会」の事務局を務めている。

協議会関係	協議会名	年間開催数
	世田谷区子ども・若者支援協議会	2回
	不登校・ひきこもり支援部会	3回
	思春期青年期精神保健部会	2回

#### 1) 不登校・ひきこもり支援部会の主な取組み

不登校・ひきこもり支援部会は主に 10 代の若者に係る支援機関や教育機関で構成される。令和 6 年度に開催された全 3 回の内容は表の通りである。不登校・ひきこもり支援部会では、不登校・ひきこもりや若者支援に係る話題提供を行い、参加している委員が積極的に意見・発言を交わす区内外の支援情報の共有の場となっている。各機関の顔つなぎの場として機能し、構成機関同士の連携が強化されている。

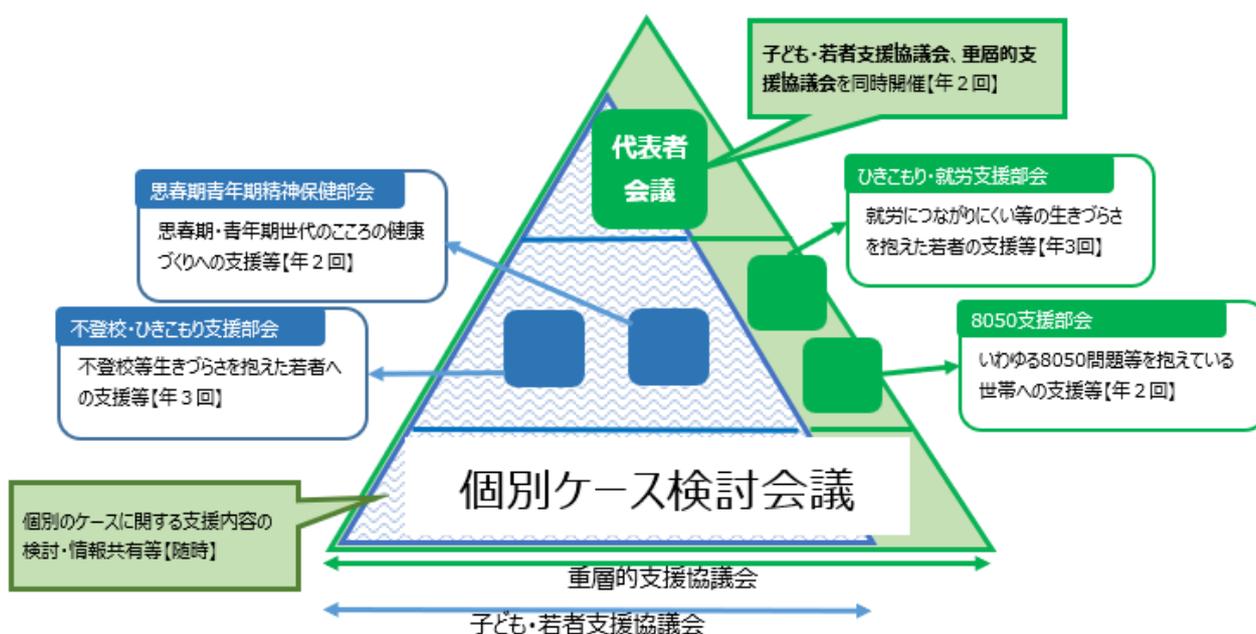
また、毎年度各構成機関の支援活動の理解を目的として、構成機関別事業一覧を作成している。

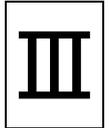
第 1 回 7月 4日(木)	第 2 回 10月 3日(木)	第 3 回 2月 6日(木)
<b>【内容】</b> ・部会説明 ・各機関の紹介 ・話題提供 メルクマールせたがやより 教育と福祉の協働について	<b>【内容】</b> ・話題提供① 教育相談課より「不登校支援の取組みについて」 ・話題提供② メルクマールせたがやより 事例を通しての各機関における対応について	<b>【内容】</b> ・ワークショップ メルクマールせたがやより 連携と協働について考える ・今後の部会について

【不登校・ひきこもり支援部会構成機関】

保健福祉センター健康づくり課	世田谷区児童相談所	NPO法人東京都自閉症協会 みつけばハウス
保健福祉センター子ども家庭支援課	都立世田谷泉高等学校	野毛青少年交流センター
保健福祉センター保健福祉課	都立中部総合精神保健福祉センター	希望丘青少年交流センター「アップス」
障害保健福祉課	都立松沢病院	池之上青少年交流センター
生活福祉課	世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」	(事務局)メルクマールせたがや
児童課	NPO法人日本子どもソーシャルワーク協会	(事務局)子ども・若者支援課
教育総合センター教育相談課	特定非営利活動法人 まひろ(エリア・ワン)	(オブザーバー)世田谷保健所健康推進課

【世田谷区子ども・若者支援協議会説明図】





## 活動実績

---

1. 実績数値
2. 利用状況
3. 相談登録ケースに関する分析
4. ティーンズサポート事業

### Ⅲ. 活動実績

#### 1. 実績数値

平成26年度から令和6年度までのメルクマールせたがやの実績数値は表の通りである。

#### メルクマールせたがや【令和6年度利用実績】

延べ相談対応件数(単位：人)

		H26°R3年度合計	R4年度合計	R5年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計
延べ相談対応件数	ケース登録あり	21182	4140	4668	386	359	378	402	413	389	458	407	451	422	416	498	4979	34969
	リンク対応件数※1		507	1021	103	108	95	116	88	92	108	94	96	110	93	81	1184	2712
	ケース登録なし	607	203	187	7	15	16	19	8	15	19	16	25	9	16	6	171	1168
<b>合計</b>		<b>21789</b>	<b>4850</b>	<b>5876</b>	<b>496</b>	<b>482</b>	<b>489</b>	<b>537</b>	<b>509</b>	<b>496</b>	<b>585</b>	<b>517</b>	<b>572</b>	<b>541</b>	<b>525</b>	<b>585</b>	<b>6334</b>	<b>38849</b>

※1：リンク対応件数：「リンク」の相談にメルクマールせたがやの職員が対応した相談件数

登録ケース数の増減について（実ケース数）

		H26°R3年度合計	R4年度合計	R5年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計
先月末日の累計登録ケース数					473	470	456	453	459	459	459	456	460	460	461	462		
当月中の新規登録ケース数		<b>734</b>	<b>122</b>	<b>116</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>8</b>	<b>14</b>	<b>5</b>	<b>11</b>	<b>6</b>	<b>9</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>85</b>	<b>1057</b>
当月中に終了したケース数		416	30	53	9	19	11	8	5	11	9	5	6	4	5	10	102	601
当月末日の登録ケース数					470	456	453	459	459	459	456	460	460	461	462	456		

活動ルーム（居場所機能）の延べ利用人数

		H26°R3年度合計	R4年度合計	R5年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計
延べ利用者数（延べ人数）		<b>11504</b>	<b>1669</b>	<b>1306</b>	<b>94</b>	<b>72</b>	<b>96</b>	<b>97</b>	<b>106</b>	<b>98</b>	<b>111</b>	<b>113</b>	<b>98</b>	<b>93</b>	<b>120</b>	<b>98</b>	<b>1196</b>	<b>15675</b>

アウトリーチ関連数値

		H26°R3年度合計	R4年度合計	R5年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計
個別ケース検討会議の開催数		161	15	11	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	191
他機関主催の個別ケース検討会議の出席数			73	88	4	8	8	5	10	6	6	7	8	5	8	8	83	2048
訪問相談実施件数(延べ人数)※2		717	265	271	24	27	25	29	17	23	14	19	22	18	23	20	261	
出張相談(4支所)※3 実施件数(延べ人数)		78	46	53	1	5	4	3	3	2	5	4	5	3	6	7	48	
出張相談(希望丘青少年交流センターアプス) 実施件数(延べ人数)		40	9	14	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	

※2：平成26年度～令和元年度の訪問実施件数は、希望丘青少年交流センターの出張相談を除く件数 ※3：令和2年度～令和5年度までは5支所

家族会の参加人数

		H26°R3年度合計	R4年度合計	R5年度合計	4月	5月	6月*	7月	8月	9月*	10月	11月*	12月	1月	2月	3月*	合計	累計
延べ参加者数		<b>1303</b>	<b>273</b>	<b>245</b>	<b>8</b>	<b>8</b>	<b>32</b>	<b>18</b>		<b>35</b>	<b>16</b>	<b>45</b>	<b>18</b>	<b>15</b>	<b>12</b>	<b>79</b>	<b>286</b>	<b>2107</b>

\*：出張セミナー実施月

ティーンズサポート事業 ※平成28年度より開始

		H26°R3年度合計	R4年度合計	R5年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計
先月末日の累計登録ケース数					102	73	71	75	76	75	78	80	84	88	89	90		
当月中の新規登録ケース数		<b>192</b>	<b>50</b>	<b>46</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>6</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>35</b>	<b>323</b>
当月中に終了したケース数(20代に達したケースを含む)		149	26	37	31	4	2	1	3	1	0	0	1	1	1	2	47	259
当月末日の登録ケース数					73	71	75	76	75	78	80	84	88	89	90	90		
延べ相談件数(来所) R2年度までは訪問・出張相談含む		2721	648	807	47	41	55	57	55	57	62	54	72	62	64	70	696	4872
延べ相談件数(訪問/出張相談)		62	79	55	4	8	4	4	4	4	3	4	3	4	5	3	50	246
累計件数(来所・訪問・出張相談)		<b>2783</b>	<b>727</b>	<b>862</b>	<b>51</b>	<b>49</b>	<b>59</b>	<b>61</b>	<b>59</b>	<b>61</b>	<b>65</b>	<b>58</b>	<b>75</b>	<b>66</b>	<b>69</b>	<b>73</b>	<b>746</b>	<b>5118</b>
延べ居場所利用者数		<b>1252</b>	<b>77</b>	<b>16</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>8</b>	<b>9</b>	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>80</b>	<b>1425</b>

メルサポ

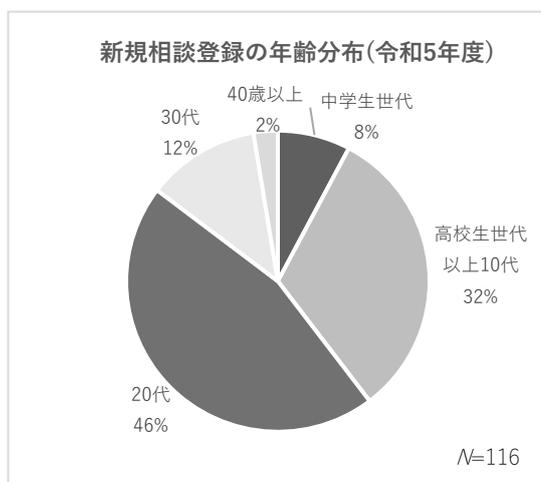
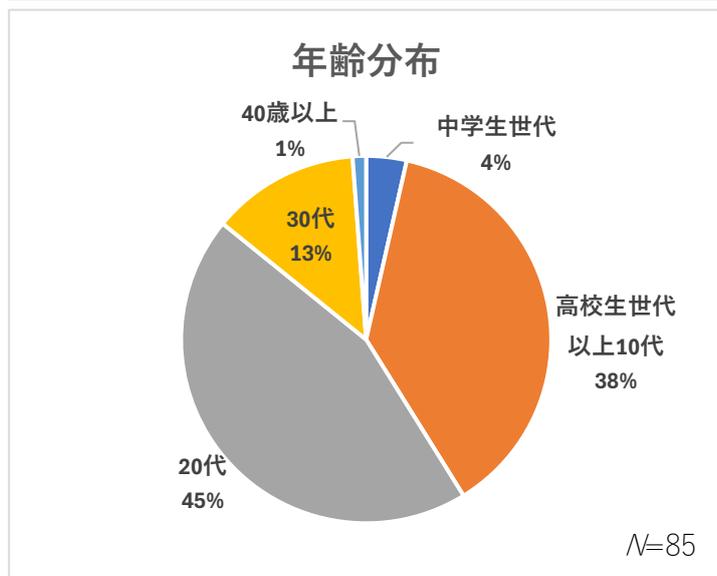
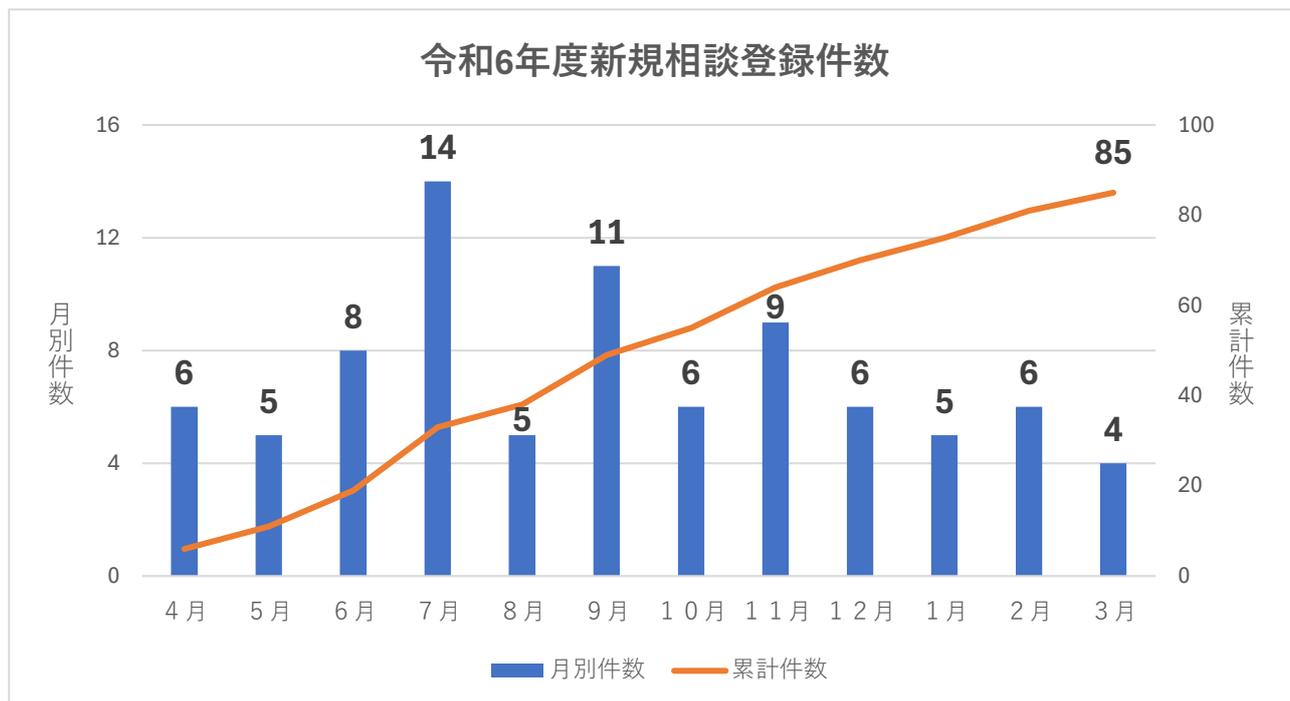
		H26°R3年度合計	R4年度合計	R5年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計
実施回数		77	24	26	2	1	2	2	3	2	2	2	1	1	3	2	23	150
延べ参加者数		<b>682</b>	<b>217</b>	<b>226</b>	<b>17</b>	<b>8</b>	<b>19</b>	<b>12</b>	<b>26</b>	<b>15</b>	<b>18</b>	<b>14</b>	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>24</b>	<b>15</b>	<b>183</b>	<b>1308</b>

メルぶら(むすびば)

		H26°R元年度合計	R2年度合計	R4年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	累計
実施回数				10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	11
延べ参加者数(再掲)				<b>27</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>46</b>	<b>42</b>

## 1) 相談支援

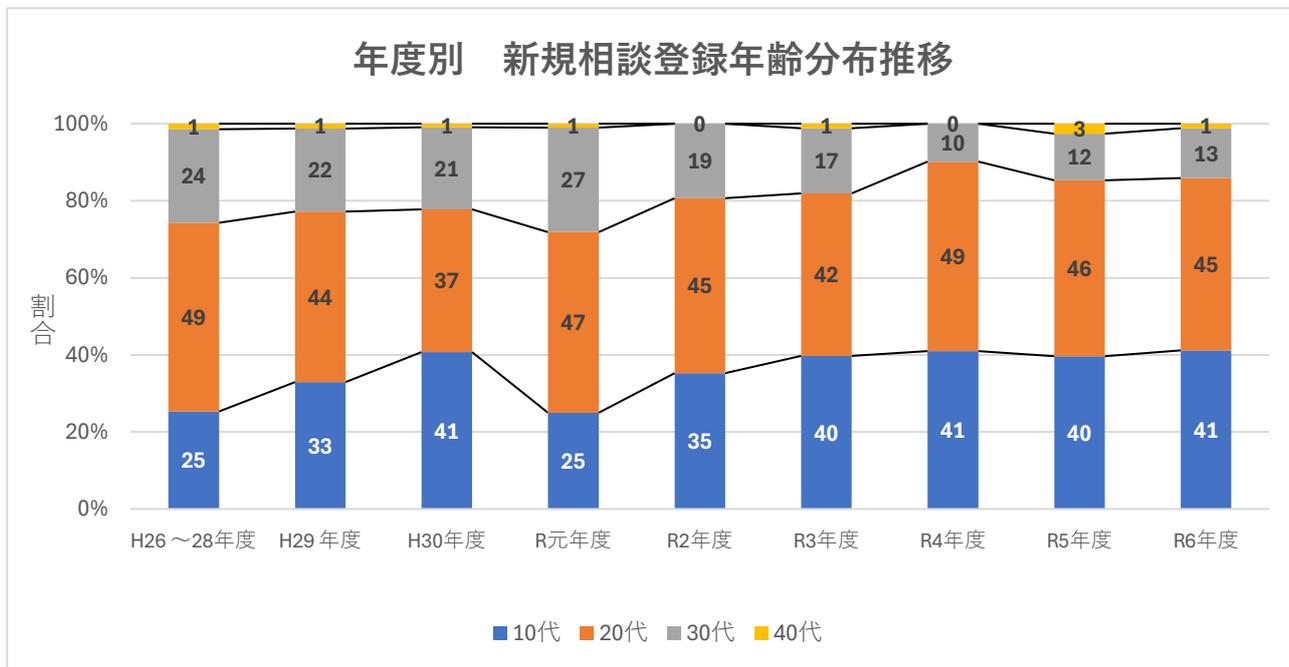
### ① 新規相談登録件数



新規相談登録とは、インテーク(初回面接)を行った後に受理会議を実施し、メルクマールセタがやで受理したケースのことを指す。令和6年度新規相談登録件数は85件であり、月平均では7.1件であった。件数が近年減少傾向にある理由としては、令和4年度の「リンク」開設に伴い、これまでメルクマールセタがやの新規相談で受けていたであろう一定数の層が、「リンク」の新規相談に流れている可能性が考えられるが、引き続きの検証が望まれる。

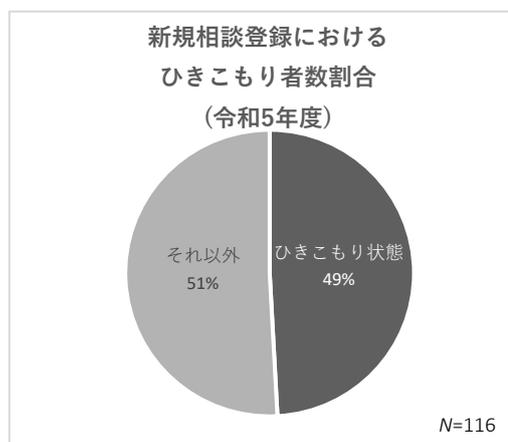
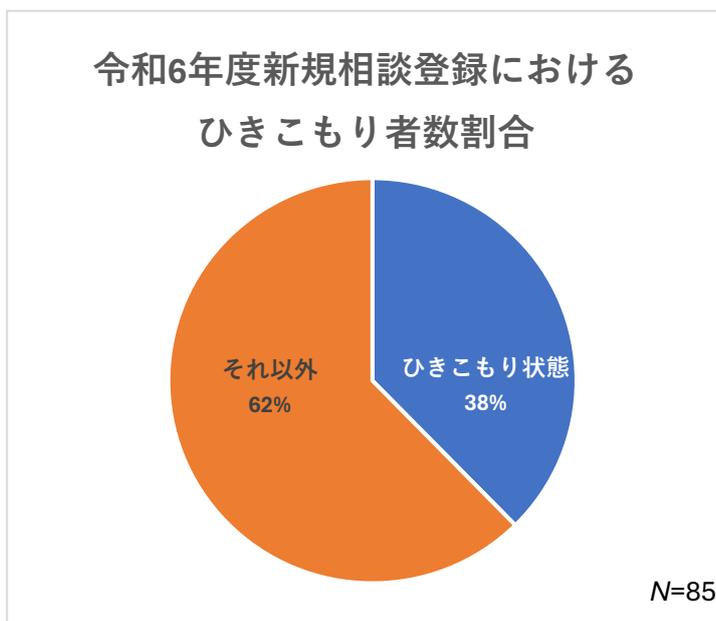
また令和6年度は新規相談登録件数85件の内、20代が45%(38件)と最も多く、次に高校生世代以上10代が38%(32件)と高値を示していた。中学生世代は4%(3件)、30代は13%(11件)、40代以上は1%(1件)だった。また、「高校生世代以上10代」の割合が増えている点に着目したい。義務教育が終了する中学卒業年齢以降、そして、子どもの支援から大人の支援への

適切なつながりがなければ、必要な支援からこぼれ落ちやすい「18歳の壁」とも言われる18歳以降の年代を新規相談で受ける意義は大きい。新規相談登録件数の総数は、令和5年度の116件と比べて31件減少しているが、年齢層の割合は令和5年度と同様の傾向であったことから、全体的に新規登録件数が少なかったと考えられる。



平成26年開所から令和6年度まで、新規相談登録ケースの年齢分布の推移について上図に示す。20代は年度毎にばらつきが見られるが、30代は令和4年度から約1割となり開所当初と比べて減少傾向にあり、令和4年度に「リンク」が開設したことによる影響が考えられる。一方10代の割合は令和元年度に一度減少しているが、再び増加している。新規相談に関しては、若年齢化が進んでいるといえる。

## ②ひきこもり者数割合



次に、ひきこもり者数割合について上図に示す。メルクマールセタがやでは、将来ひきこもりに移行する可能性のある6ヵ月未満の準ひきこもりを含めてひきこもりとして定義している。令和6年度新規相談登録件数の内、ひきこもり状態は38%(32件)だった。平成26年の開所から令和2年まで新規相談登録件数のうち、ひきこもり状態にある利用者の割合は約6割を維持していた。令和3年度以降は、ひきこもり状態ではない「それ以外」の割合が上回ることもあり、傾向が変化しつつある。これは、新規相談登録が若年層の割合が高くなり、所属がある段階などひきこもり状態になる前に早期に相談登録利用につながることで、ひきこもり状態の割合が低くなったと考えられる。

**\*ひきこもりの定義(厚生労働省「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」より)**

様々な要因の結果として社会的参加(義務教育を含む就学, 非常勤職を含む就労, 家庭外での交遊など)を回避し, 原則的には6ヵ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念。

**\*準ひきこもりの定義**

ひきこもりの定義のうち、6ヵ月という期間にこだわらず、将来的にひきこもりに移行する可能性が高い状態

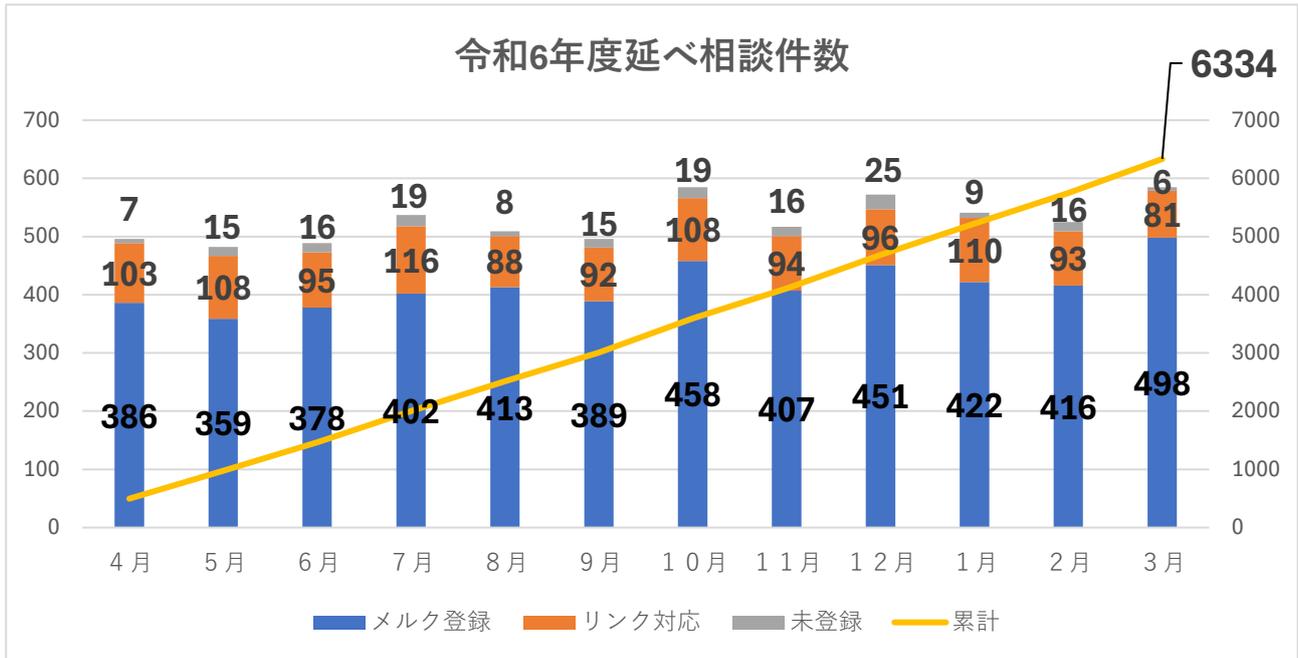
※ひきこもりの定義にある原則6ヵ月以上という期間は、2025年1月に厚生労働省より発行された「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」にて見直しが図られてひきこもり支援の対象者は期間を問わないとされている。

### ③終結件数

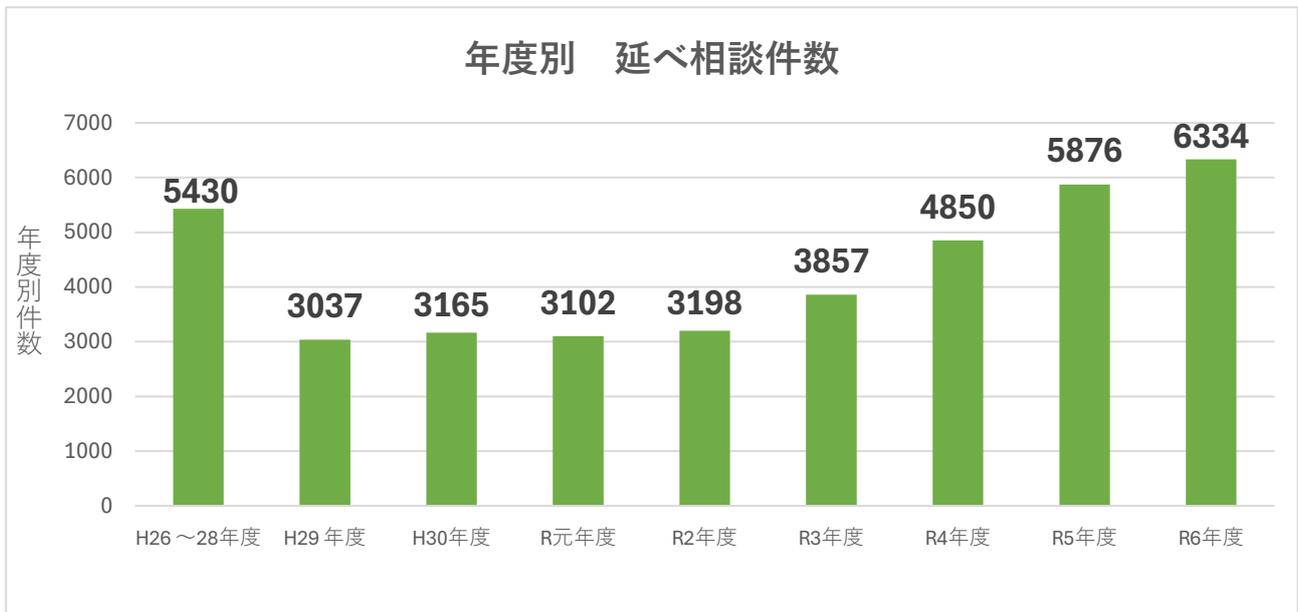
終結とは、就労や就学、他機関の利用など様々な理由でメルクマールセタがやの利用を終了したケースを指す。令和6年度の全終結件数は102件と開設以来最も多い件数であった。月別に見ると5月が19件と最も多く、新年度を迎えて安定的な社会参加の見通しが立ったところに終結の申し出る場合が多かったと考えられる。

終結理由などに関する詳細は、終結理由内訳(p.29)にて述べる。

#### ④延べ相談件数

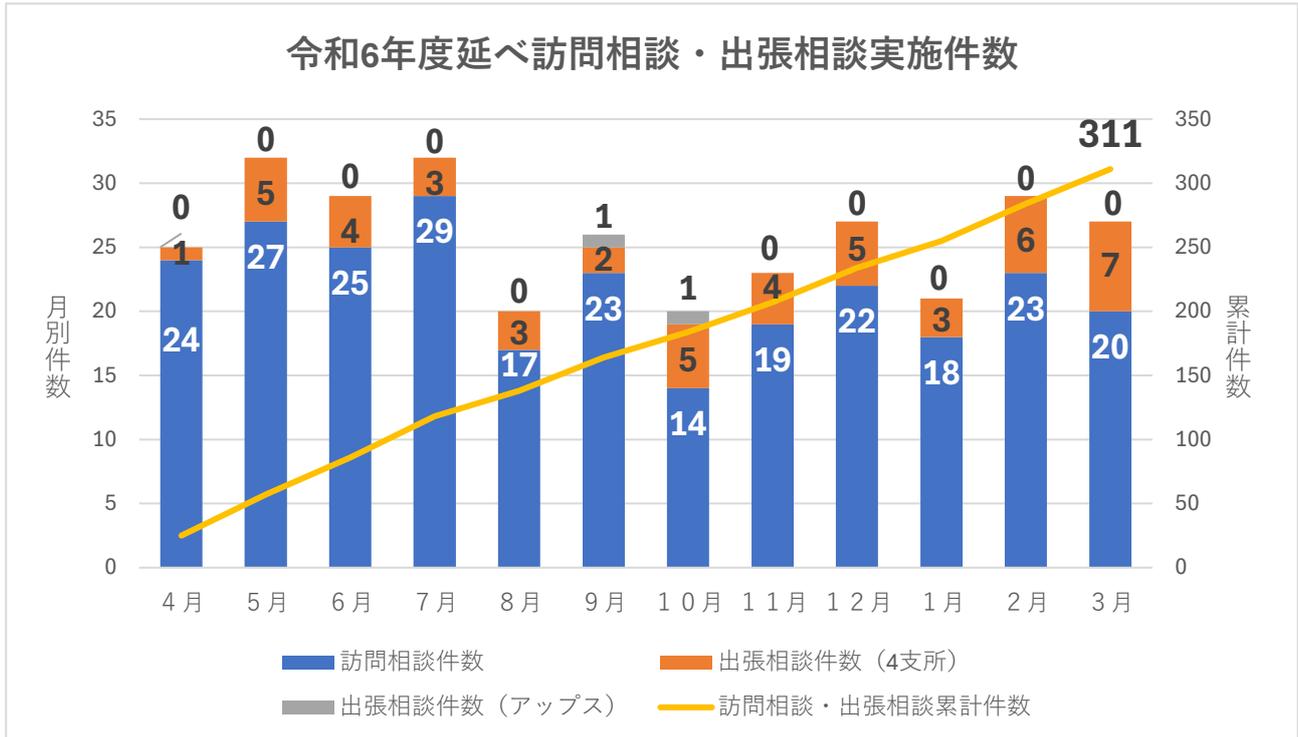


延べ相談件数は、来所相談、訪問相談、電話・文書対応などあらゆる方法での相談件数を合計した数値である。令和6年度は、月平均約520件の相談対応を行った。



平成26年度開所から令和6年度までの延べ相談件数を上図に示す。平成29年度以降、延べ相談件数は年間3,000件を超える数値で安定している。一方、令和3年度以降は相談件数が増加傾向にある。新規相談登録件数が令和5年度より減少、かつ終結相談件数が100件を超える状況においても延べ相談対応件数が増加した背景には、①モニタリングで経過観察の状況にあったケースに連絡を取った際に、安定しているケースは利用者の意向を確認して一旦終了とする等登録ケースの整理を行ったこと、②非稼働ケースを整理したことによる事務負担の軽減により、継続相談の対応を充実させることができたことが影響していると考えられる。

⑤延べ訪問相談・出張相談件数



訪問相談件数とは、利用者の自宅への訪問相談と、こころスペースや関係機関に向向いての出張相談、関係機関への同行など、メルクマールせたがや以外の場で相談を実施した延べ件数である。メルクマールせたがやのスタッフが、「リンク」として対応した訪問や出張相談、関係機関への同行などの件数も含まれる。一方、出張相談件数とは、希望丘青少年交流センター「アpps」と世田谷区役所4支所で相談を実施した延べ件数を示している。

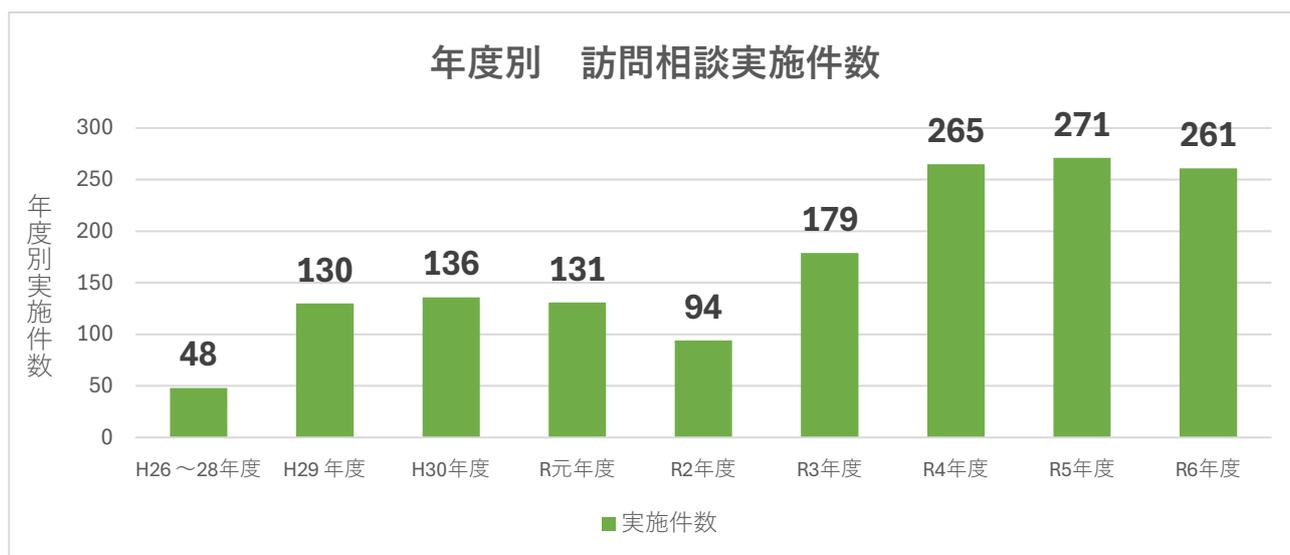
令和6年度の延べ訪問相談・出張相談件数は311件であった。令和5年度と比較すると27件微減したが、令和3年度と比較すると132件増加している。出張相談会場別件数については次の表の通りである。

【令和6年度 出張相談会場別相談件数】

会場	相談実施件数		利用者(人数)		関係機関(人数)		合計 (人数)
	メルク	リンク	メルク	リンク	メルク	リンク	
希望丘青少年交流センター「アpps」	2	0	2	0	0	0	2
北沢総合支所	5	0	5	0	0	0	5
玉川総合支所	1	0	1	0	0	0	1
砧総合支所	9	0	11	0	1	0	12
烏山総合支所	15	12	12	11	4	3	30
合計	32件	12件	31人	11人	5人	3人	50人

平成31年2月より、希望丘青少年交流センター「アップス」での出張相談を月1回定例で実施しており、令和6年度の延べ相談件数は2件2名であった。また、各総合支所の区民相談室における出張相談は42件48名の利用であった。令和5年度からは、「リンク」相談についても、出張相談の活用を開始しており、令和6年度は利用者と関係機関を合わせた延べ相談人数は12件14名であった。メルクマールせたがやと「リンク」から比較的距離の遠い、烏山地域や砧地域の利用が多かった。

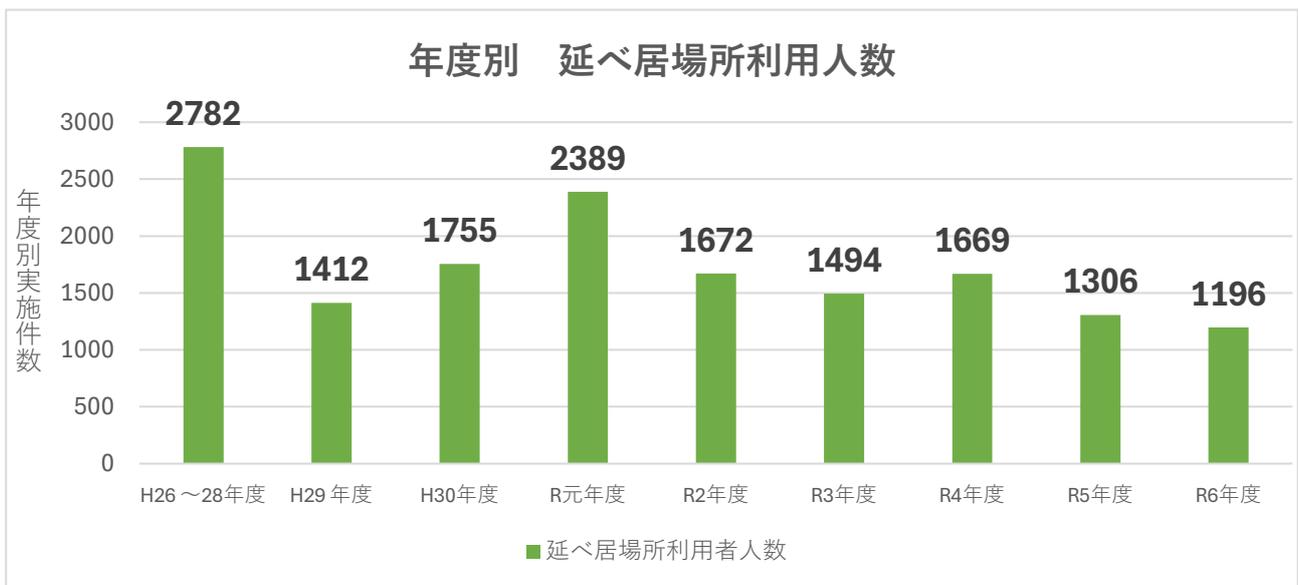
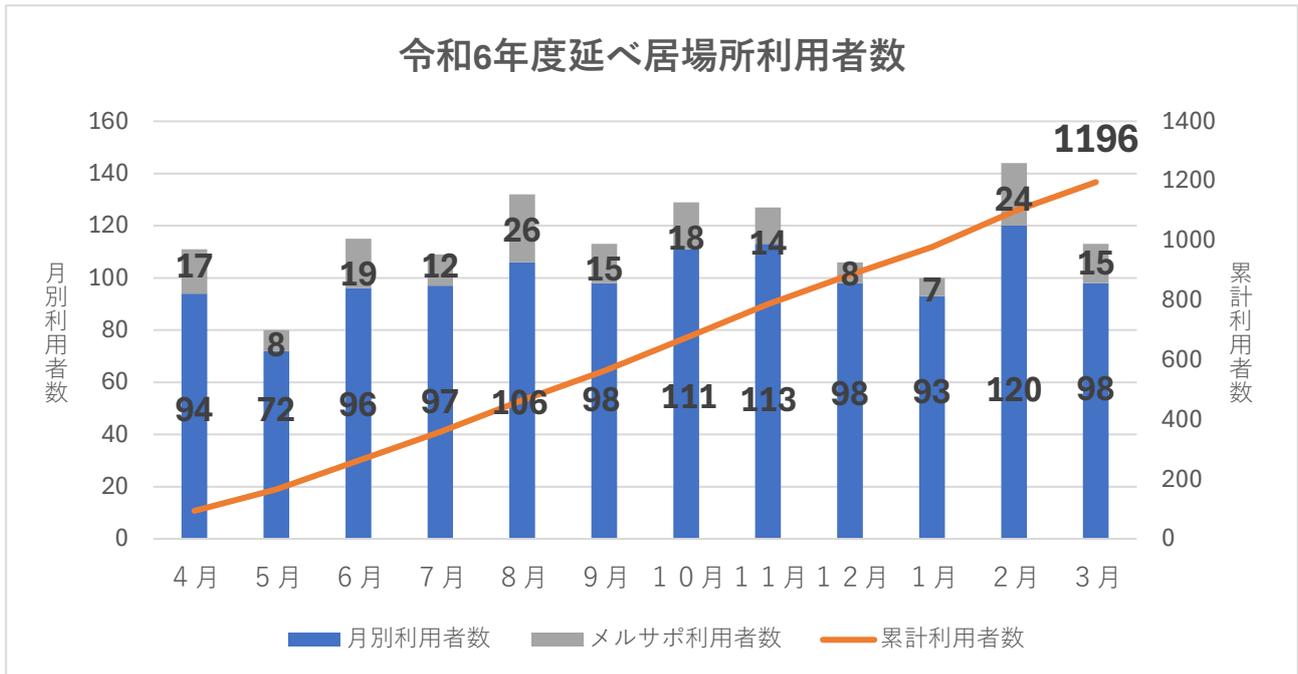
会場別相談件数の傾向から、烏山地域や砧地域などの遠方地域の出張相談のニーズが高いと考えられる。遠方地域の場合、メルクマールせたがやへ来所するには、電車やバスを乗り継ぎ、移動に長い時間を要する。外出が困難な方、健康面・体力面に不安のある方にとって、電車やバスなど公共交通機関の使用は、相談につながるハードルを上げてしまう要因のひとつである。また、役所の担当課や関係機関が支援している方をメルクマールせたがやや「リンク」につなぐ際、関係機関同席での相談者との顔合わせも提案しているが、定期的な出張相談会が、相談者および関係機関にとっても、身近な場での相談につながっているといえる。相談者にとっては関係性ができている支援者の同席で安心感を持ちやすく、また、支援機関の重なり合う支援が始まる場所としても機能している。



上図に開所以降の年度別訪問相談実施件数を示す。令和6年度の訪問相談実施件数は261件だった。上図から、令和3年度までと比較し令和4年以降は訪問相談件数が増加していることがわかる。この結果は、令和4年度以降の訪問相談件数に「リンク」として対応した訪問相談が加算されたことが理由と言える。メルクマールせたがや職員が「リンク」で対応した訪問相談実施件数は、261件中72件(28%)であった。ひきこもり当事者の背景に様々な課題が複雑に絡み合っている状況が多く見られる。当事者や家族の方などから支援機関へつながることが難しい場合もあるため、支援や資源を届けるためにこちらから出向くことが必須である。

## 2) 居場所支援

### 延べ居場所利用者数



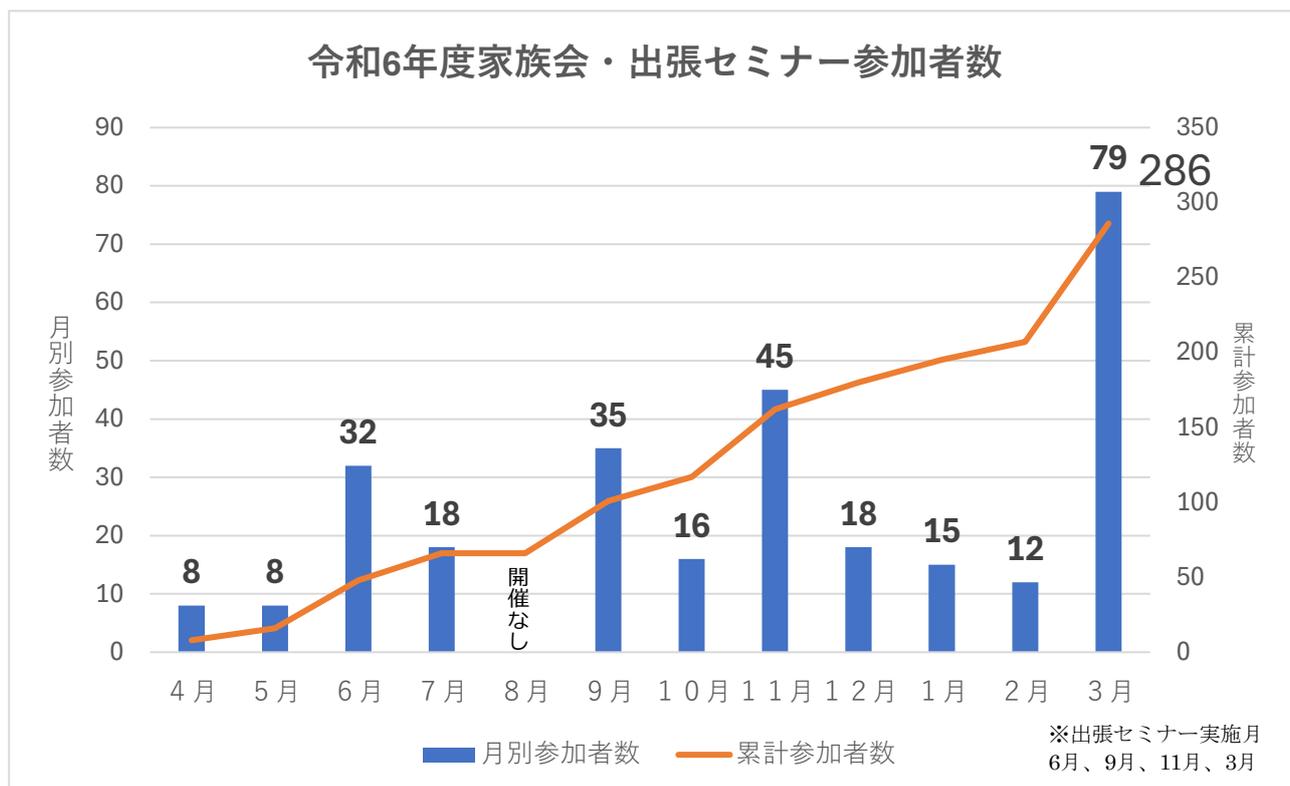
令和6年度のメルクマールせたがやの居場所登録者数は、年度内に終了したケースを含めて76名だった。延べ居場所利用者数には、登録制の居場所活動、居場所登録不要のオープンプログラム、登録・相談不要のメルサポの利用者数が含まれる。令和6年度の居場所延べ利用者数は1,196名で、令和5年度と比較して110名の減少となった。利用者数減少の背景には、これまで精力的に居場所活動へ参加していた利用者が、令和5年度以降から社会参加を試みるようになったことが影響していたと考えられる。また、相談件数の増加により、居場所の実施回数が減ったことも一因である。登録者の活動参加日数を増やす働きかけをするとともに、人員増加による活動日数の確保に取り組んでいきたい。

また令和6年度は、前年度に引き続き利用者自身が活動内容を企画していく「企画会議」を

実施した。利用者の希望から『メルクセッション（楽器の演奏）』や『マスコット作り』、モルックと人狼を組み合わせたオリジナルゲーム『モル狼』など、ユニークな企画が生まれた。他にも First Step 合同で『ゲーム企画』が行われるなど、利用者主体のプログラムを実施する機会が増えた。

### 3) 家族支援

#### 家族会・出張セミナー参加者数



令和6年度の家族会・出張セミナー延べ参加者数は286名であった。令和5年度245名と比較すると41名増加となった。また、出張セミナーは、3月の齋藤環氏による講演が、参加者数68名で最も多かった。

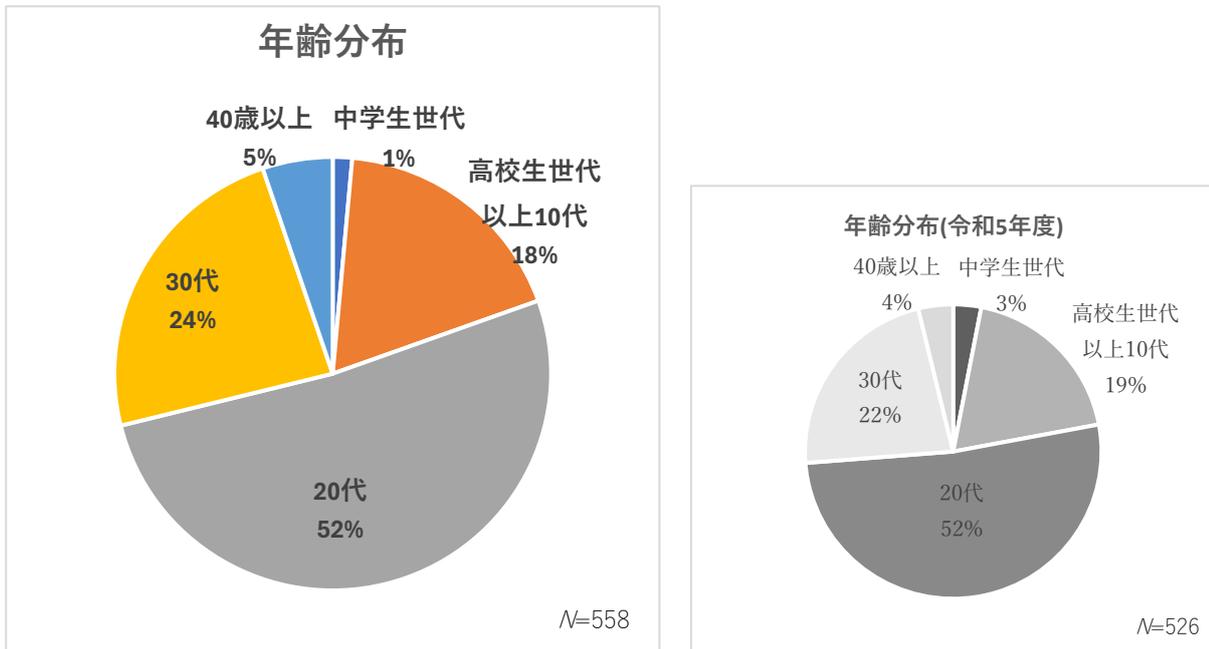
9月と10月の家族会にて、家族交流会のニーズ調査を行った。その結果、回答者29名のうち「ぜひ参加したい」「参加したい」と回答した方が23名だった。アンケートにも「交流会のみの日も作ってほしい」という内容の意見をもらうことが多かったため、令和7年度は家族交流会のみの企画もしていく方針である。

## 2. 利用状況

### 1) 相談登録者

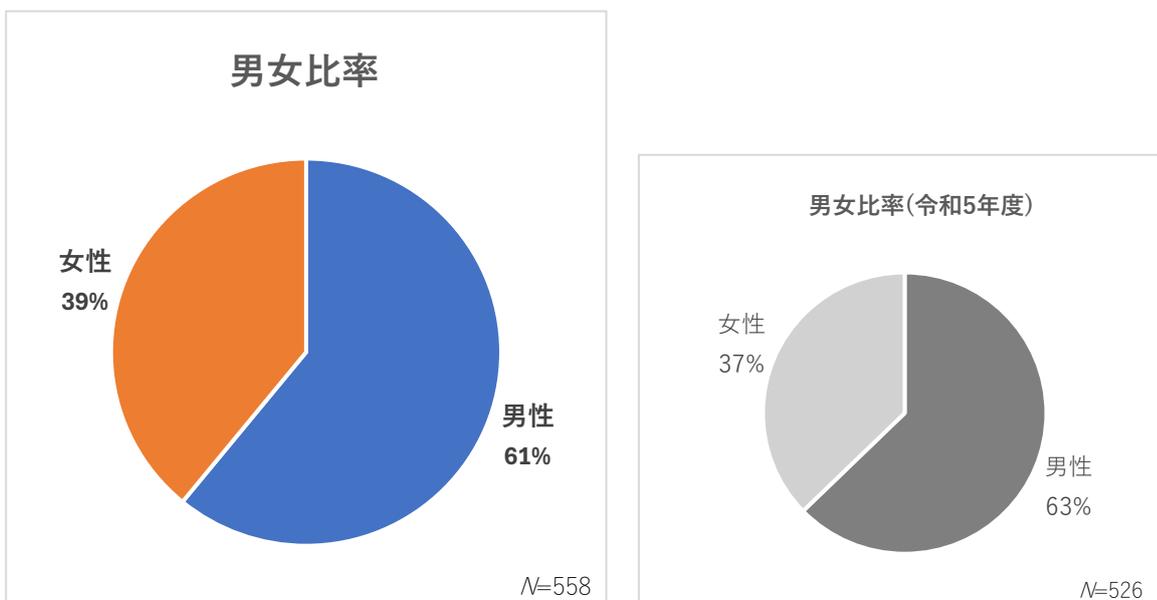
以下には、令和6年度中に相談登録のあった558件の利用状況を示す。

#### ① 年齢分布



相談登録における利用者の年齢分布を示す。20代が52%を占めており、中学生世代が1%、高校生世代以上10代が18%、30代が24%、40歳以上が5%となっている。全ての世代において、令和5年度と大きな差はなかった。

#### ② 男女比率



相談登録における男女比は男性が61%、女性が39%と、男性の割合が高い。平成26年度は男性56%、女性44%だったが、男性の割合が増えており、平成29年度以降は6割以上が男性となっている。また令和5年度と6年度とで男女比はほとんど同じ割合となった。

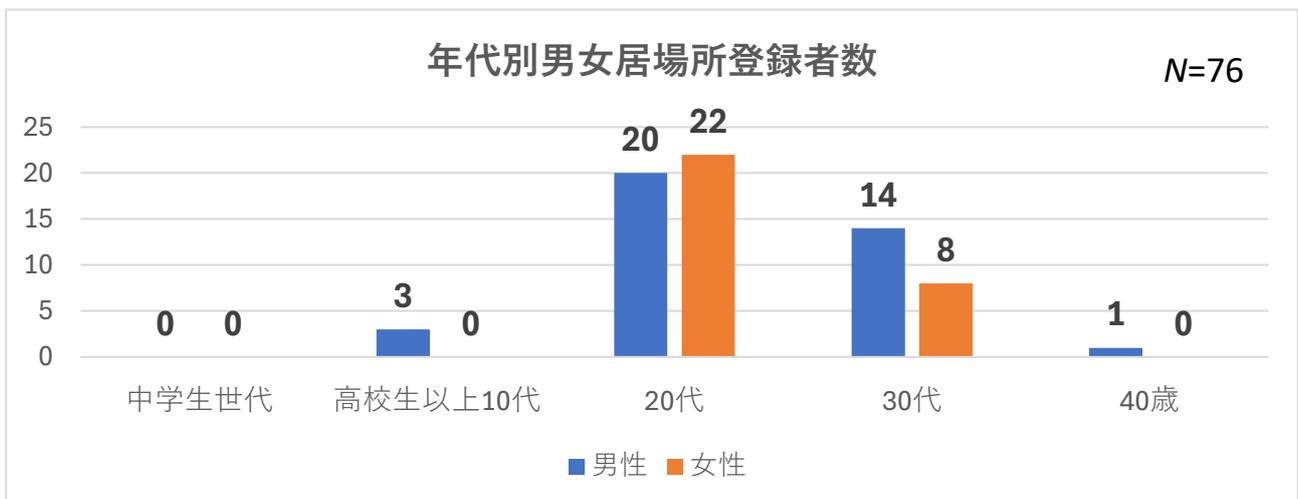
### ③年代別男女登録者数



相談登録における年代別の男女登録者数は、すべての世代で男性が女性を上回っていた。

## 2) 居場所登録者

### 年代別男女居場所登録者数



令和6年度の居場所登録者においては男女ともに20代が多い。また、20代の男女比は女性の割合が高かった。

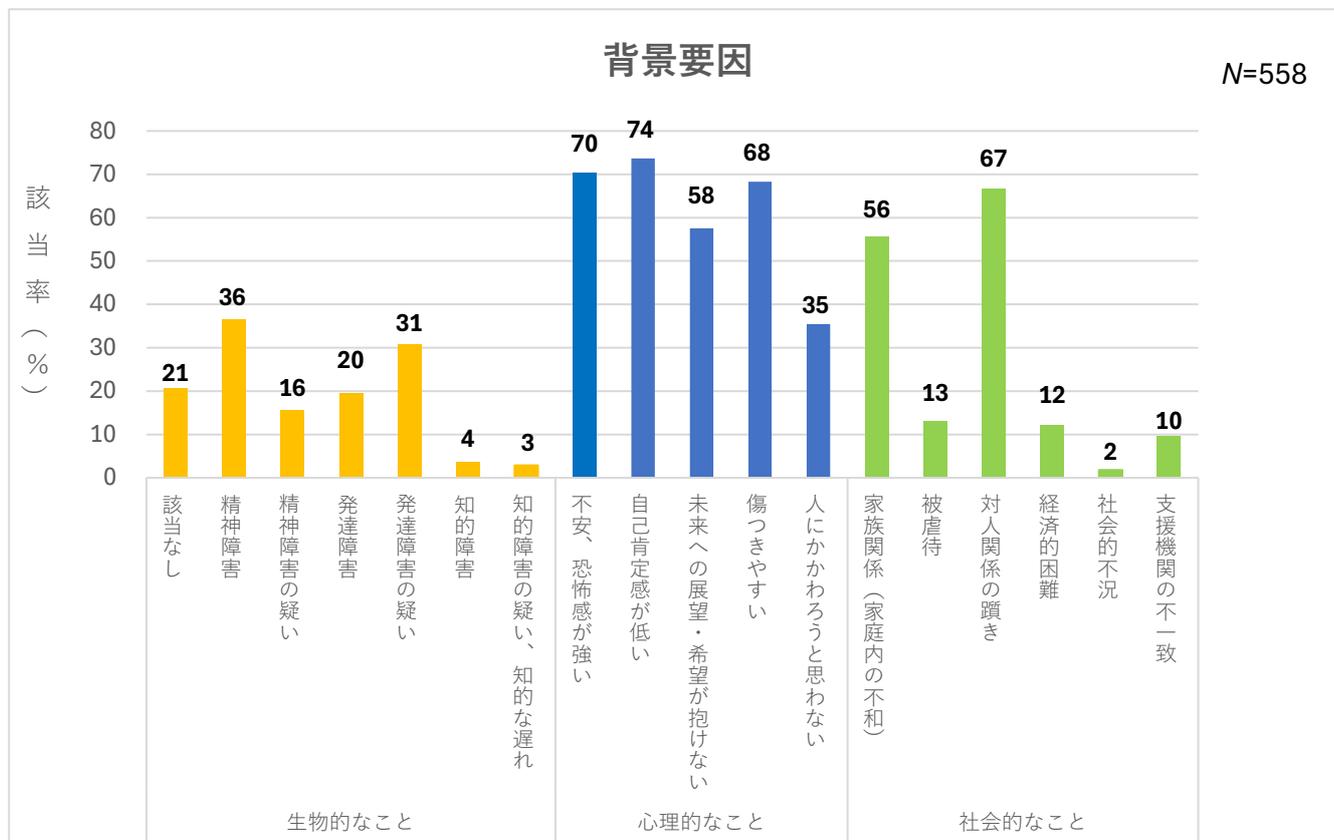
中学生世代の居場所登録者が開所以来いないことについては、中学校に在籍中であること、支援機関として教育相談室、ほっとスクールなどの選択肢があり、メルクマールせたがやの居場所利用のニーズが低いためと考えられる。10代の居場所登録は3名と令和5年度の1名と比べて増加した。10代の居場所活動についてはp.35で述べる。

また、令和6年度は新規居場所登録者数が9名であり、令和5年度3名と比べて増加した。

### 3. 相談登録ケースに関する分析

以下に、令和6年度中に相談登録のあった558件に関するデータを示す。

#### 1) ひきこもりなどの背景要因



相談登録ケースにおける背景要因を示す。この表は、相談登録558件の内、背景要因となる各項目の割合を示している。「精神障害」「発達障害」は医師からの診断があるもの、「知的障害」は愛の手帳を取得しているもの、「精神障害の疑い」「発達障害の疑い」「知的障害の疑い」については明確な診断がない、もしくは現在医療機関にかかっていないがそれらの障害が疑われたことがあるものとしている。

多いものから、心理的要因の「自己肯定感が低い」が74%、「不安、恐怖感が強い」が70%、「傷つきやすい」が68%、社会的要因の「対人関係の躓き」が67%、となっている。また、生物学的要因では、疑いを含め「精神障害」が52%、「発達障害」が51%であった。

令和元年度より、ひきこもりなど利用者の抱える生きづらさについて、「生物・心理・社会モデル」(p.76用語解説参照)に沿って各項目の割合を出している。ひとつの項目や領域に偏ることはなく、利用者が抱えている背景が多様かつ複合的であることが示された。また、心理的要因の項目は全体的に割合が高い一方、経済的困難が背景にある場合や、被虐待や家族関係(家庭内の不和)の状況によっては別居の検討等が必要になることもあり、公認心理師や臨床心理士といった心理の有資格者のほか、精神保健福祉士や社会福祉士など、多職種の見点で支援を考えていける体制が有効と考えられる。さらに、社会的要因の「対人関係の躓き」が半数以上当てはまる。

心理的要因の割合が全体的に高かったが、生物学的要因、社会的要因なども確認されており、ひきこもりの背景要因が複雑化・複合化していることが示された。メルクマールセタがやの居場

所活動は、スタッフに見守られながら対人交流の機会を取り戻し、やり直す場である。生きづらさを抱えた方にとって、複合的な背景要因の改善・解消に向けた取組みであるといえる。

## 2) 主訴分類

主訴分類とは、インテーク時点における申込み用紙への記載や話の内容を基に、相談員が主訴と見なしたものである。

令和6年度の相談登録558件の主訴を本人・家族で内容別に集計したところ、本人は就労・就学(例:「今後の進路について」)が最も多かった。次いで対人関係(例:「人と関わる機会を持ちたい」)が多くなっている。家族の主訴は家族関係が最も高く、次に就労・就学の割合が高かった。

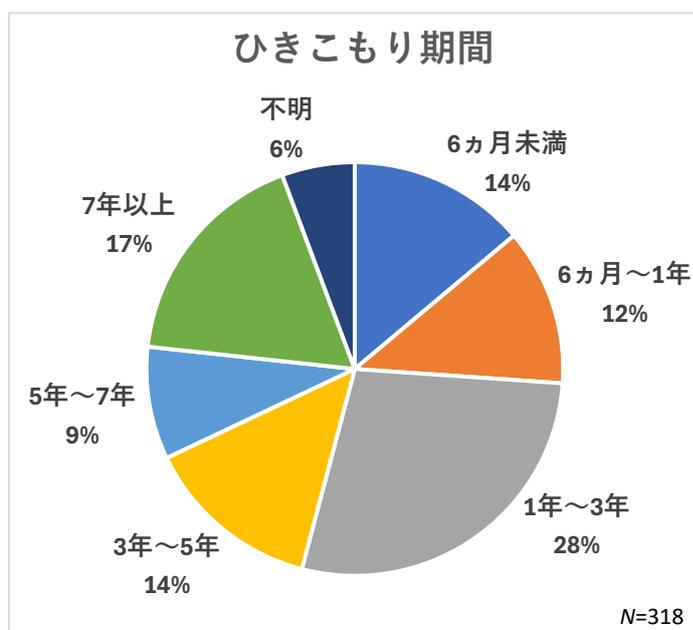
【令和6年度主訴分類】

	本人	家族
対人関係	92(26%)	62(15%)
健康面	32(9%)	14(3%)
生活面	70(20%)	34(8%)
就労・就学	125(36%)	140(34%)
家族関係	26(7%)	160(38%)
その他/不明	6(2%)	6(1%)
合計	351	416

【令和5年度主訴分類】

	本人	家族
対人関係	83(28%)	64(16%)
健康面	26(9%)	9(2%)
生活面	66(22%)	35(9%)
就労・就学	111(37%)	125(32%)
家族関係	11(4%)	154(40%)
そのほか/不明	1(0%)	1(0%)
合計	298	388

## 3) ひきこもり期間

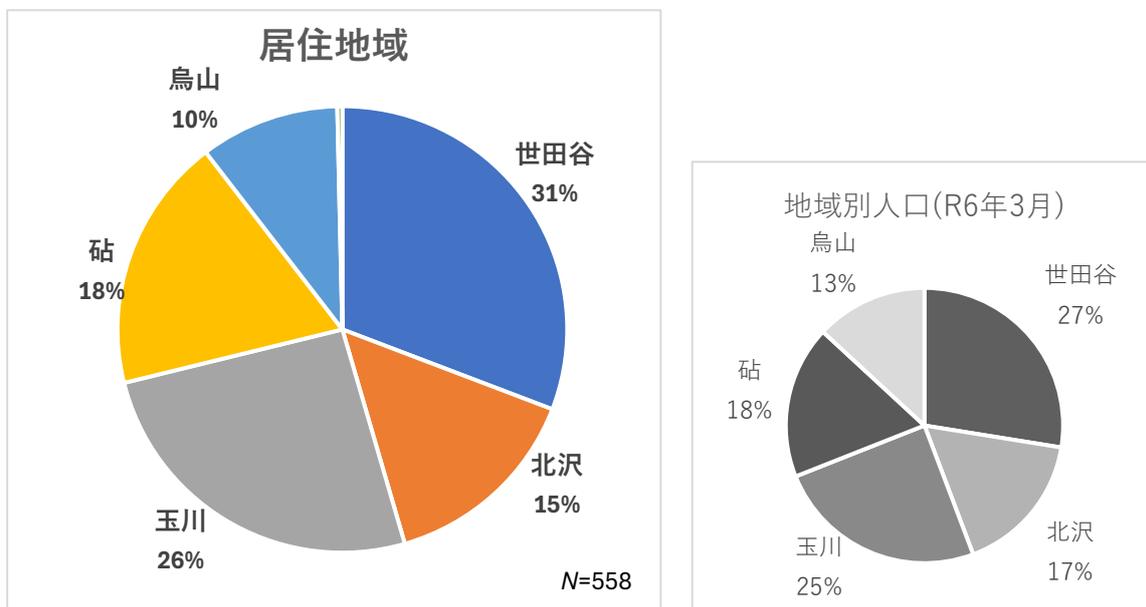


上記のグラフは「ひきこもりなし(N=240)」を除外した318件におけるインテーク時点でのひきこもり期間の割合を示している。割合は「1～3年」が最も多く28%、次いで「7年以上」が17%、「6ヵ月未満」と「3年～5年」が14%、「6ヵ月～1年」が12%となっている。「不明」と

は断続的にひきこもり期間が見られ、正確なひきこもりの経過を示すことができないものである。

ひきこもり期間が比較的短い 3 年未満の割合は、開所以来徐々に増加しており令和 6 年度は 54%の割合を占めた。ひきこもり状態が早期の段階で利用につながってきていると考えられる。

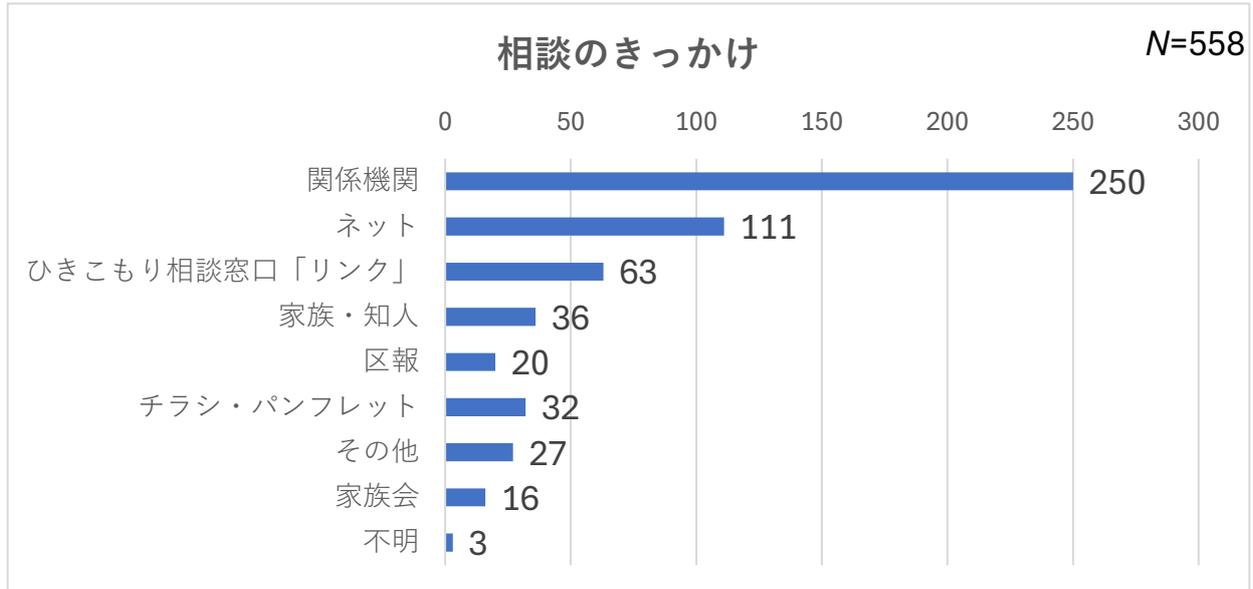
#### 4) 地域別分布



相談登録 558 件における居住地一覧を示す。メルクマールせたがやの所在地が世田谷地域であることもあり、世田谷地域から来所する利用者が 31%と最も多く、次いで玉川地域 26%という順になっている。世田谷区の地域別人口の割合と比較すると、ほぼ同様の割合となっており、区内全域から利用につながっていると考えられる。

メルクマールせたがやの所在地から遠方にあたる烏山地域は、10%と最も利用が低い地域となっているものの、若者の地域人口比率から考えると一定数利用につながっていると考えられる。

## 5) 相談のきっかけ



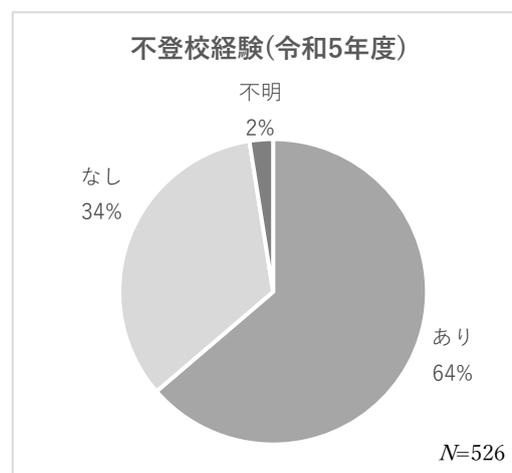
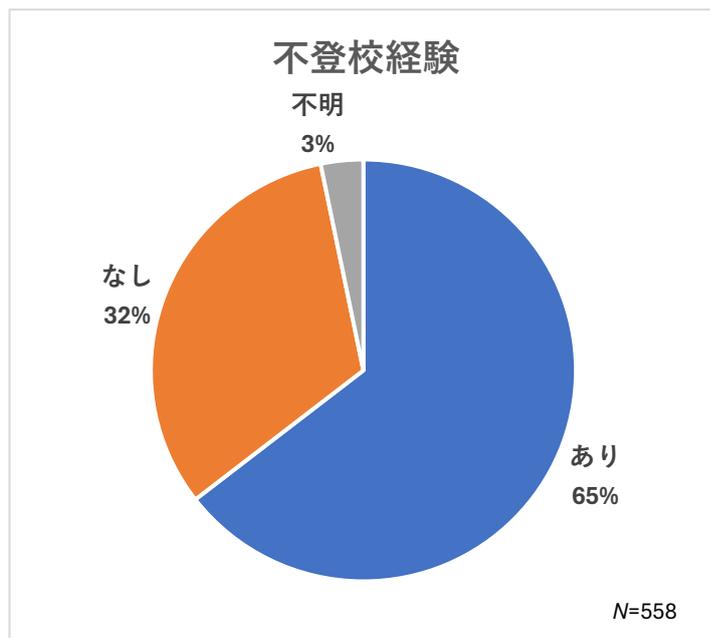
相談登録 558 件における相談のきっかけは、250 件(45%)が「関係機関」からの紹介となっており、約半数を占める。この傾向は開所以来続いている。3 番目に多かったのが「リンク」で、63 件(11%)だった。「リンク」でのインテーク後、メルクマールせたがやでの継続相談が開始されたものや、「リンク」に問い合わせたことでメルクマールせたがやのことを知り、相談につながったケースがこれに当たる。割合は 11%ではあるものの、令和 4 年 4 月に開設して既に 3 番目の多さとなっており、窓口開設の影響力の大きさがうかがえる。

紹介を受けた主な関係機関の内訳は以下に示す。

### 紹介を受けた関係機関一覧

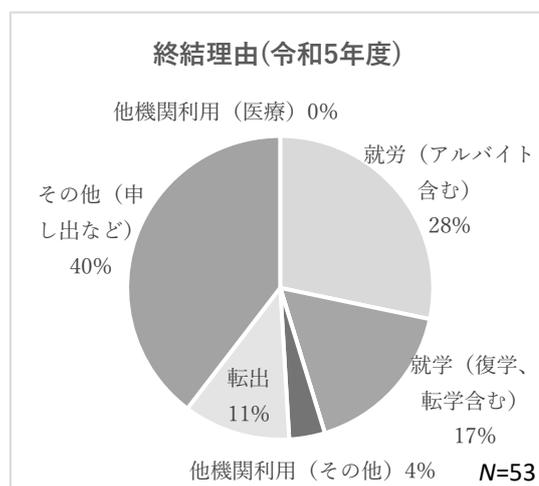
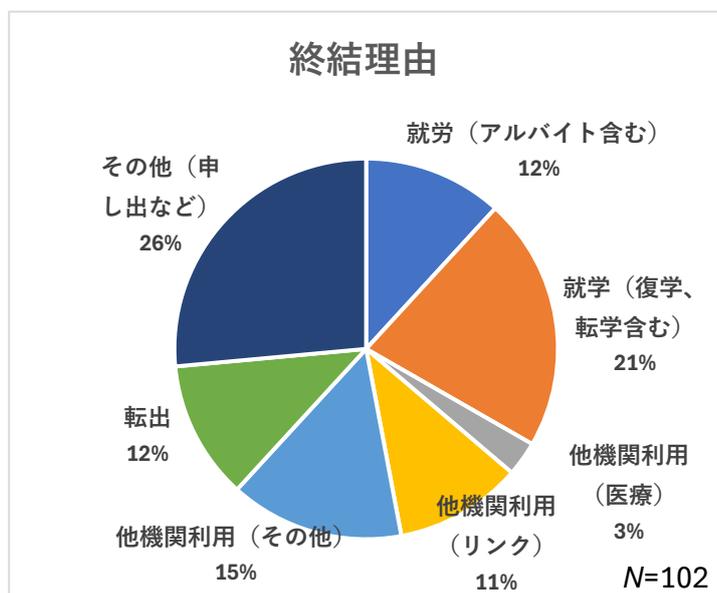
<p style="text-align: center;"><b>区関係機関</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合支所保健福祉センター4 課 健康づくり課 生活支援課 子ども家庭支援課 保健福祉課(発達支援コーディネーター)</li> <li>・ 障害保健福祉課 ・ 子ども家庭課</li> <li>・ 基幹相談支援センター</li> <li>・ 世田谷保健所 ・ 世田谷区児童相談所 など</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>就労支援機関</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若者サポートステーション</li> <li>・ 障害者就労支援センターしごとねっと</li> <li>・ 障害者就労支援センター ゆに(UNI)</li> <li>・ 三茶おしごとカフェ など</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>教育機関</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校(教員、スクールカウンセラー)</li> <li>・ 高校(養護教諭、ユースソーシャルワーカー)</li> <li>・ 教育総合センター(スクールソーシャルワーカー)</li> <li>・ 各教育相談分室</li> <li>・ 大学学生相談室 など</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぶらっとホーム世田谷</li> <li>・ 発達障害相談・療育センター「げんき」</li> <li>・ 医療機関</li> <li>・ 東京都ひきこもりサポートネット</li> <li>・ 児童養護施設 ・ 医療少年院</li> <li>・ 家族会</li> <li>・ 地域障害者相談支援センターぼーと</li> <li>・ あんしんすこやかセンター など</li> </ul>

## 6) 不登校との関連



相談登録 558 件における不登校経験の有無を示す。全体の 65%が学齢期に不登校を経験していることが示された。平成 28 年度以降、7 割前後の高い水準で推移している。

## 7) 終結理由内訳



終結理由を 6 つに分類し、「就労」はアルバイトを含む就労に就いたもの、「就学」は学校への進学・復学となったもの、「他機関利用」は、医療機関や別の支援機関などを主な利用先としたもの、「転出」は、区外への転居、「その他」は利用者からの利用終了の申し出や 1 年以上連絡が取れず音信不通状態で終結したものなどとした。令和 4 年 4 月より年齢上限が撤廃され、年齢(40 歳)到達を理由として利用終結に至ることはなくなった。

令和 6 年度における終結件数は 102 件で、令和 5 年度の 53 件と比べ約 2 倍に増加した。安定

した社会参加を送っている利用者の相談が終了したこと、何かあった場合のために利用登録のみを残していた利用者が問題なく生活を送れていることから終了の申し出があったこと、長期的に  
来所がない利用者に連絡を取り継続意思や現状を確認して終結判断に至った件数が多かったこと  
などが影響していると考えられる。

終結理由内訳を見ると、「就労」が12%、「就学」が21%であった。令和5年度と比較すると、  
「就労」の割合は低くなっているが「就学」の割合は増加しており、新規相談登録者の年齢分布  
が中学生世代や高校生世代以上10代が約4割を占めていることにも関係がありそうである。

他機関利用(医療・その他)は令和4年度3件、令和5年度2件に比べ、18件と倍増している。  
メルクマールせたがやでの相談支援や居場所活動を経て、他機関利用を主軸とできる段階に至っ  
たとも考えられる。また、令和6年度は、生活上の困難等が確認され、ぷらっとホーム世田谷と  
の2機関で対応が望まれるケースは、「リンク」に移行して支援を継続する流れが整備されたこ  
とから、他機関利用の約4割を「リンク」が占めている。

メルクマールせたがやでは、初回相談(インテーク)後、その時点で継続相談利用の辞退がない  
限り基本的に利用登録としている。しかしながら、利用者によっては初回相談後から連絡がつか  
ないケース、悩み事が解決して有事再来としていたがその後音信不通になってしまうケースが一  
定数ある。これらのことから、その他の割合は比較的高くなる傾向にある。

【終結件数 102 件】

終結理由	終結数	小計
就労 (アルバイト含む)	12	34
就学 (復学、転学含む)	22	
他機関利用 (医療)	3	18
他機関利用 (その他)	15	
他機関利用(リンク)	11	
転出	12	
その他 (申し出など)	27	
合計	102	

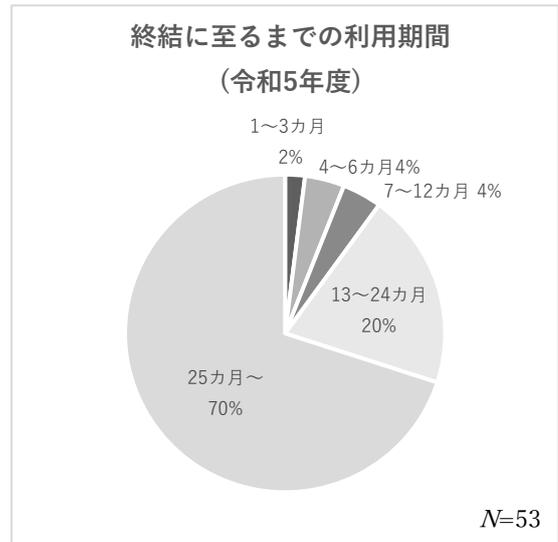
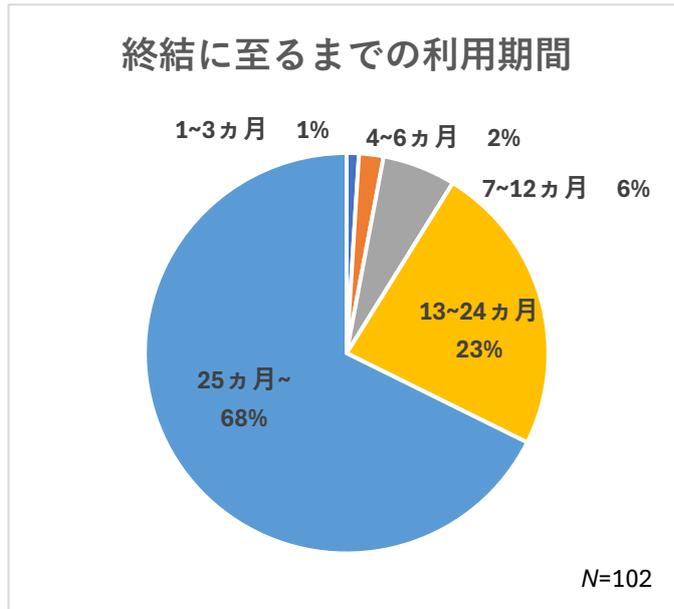
【他機関利用先一覧】

せたがや若者サポートステーション
就労移行支援事業所
生活支援課
地域障害者相談支援センターぽーと など

就学による終結の校種内訳

中学	0
高校	6
大学	15
専門学校	1

令和6年度終結件数における、利用期間別の割合を以下に示す。



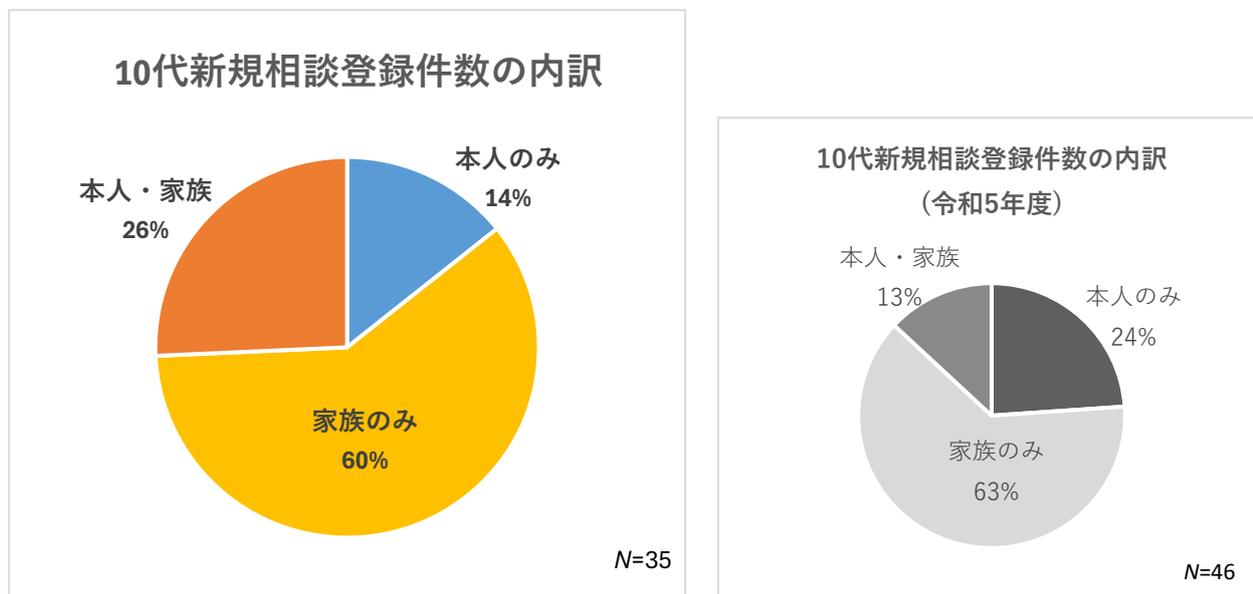
終結に至るまでの利用期間は、25ヵ月以上が68%と最も多かった。1~3ヵ月は1%、4~6ヵ月は2%、7~12ヵ月は6%、13~24ヵ月以上は23%だった。

上記の結果から、ほとんどのケースで終結までに1年以上の期間を要していることがわかる。メルクマールセタがやでは、音信不通の状態にあっても、最低6ヵ月以上は終結とせず、電話や手紙などでアプローチを試みてから終結としていることから、1年以上の利用期間の割合が高くなっていると考えられる。また、メルクマールセタがやの相談の中には、複合的な課題を抱えているがゆえ長期間にわたる相談継続に至っているものがあり、「リンク」の開設により「リンク」に移行していくケースも一定数見られている。また、「リンク」で生活上の困難に一定のメドがつき、ぷらっとでの支援の比重が低くなり、メルクマールセタがやでの支援に移行するケースもある。

#### 4. ティーンズサポート事業

平成 28 年度より、早期支援・早期介入を目的として 10 代の若者への支援に注力するべく開始したティーンズサポート事業について示す。令和 6 年度に新規相談登録された本人年齢が 10 代のケースは 35 件で、令和 5 年度よりも 11 件少なかった。

##### 1) 10 代新規相談登録件数の内訳(インテーク時点)



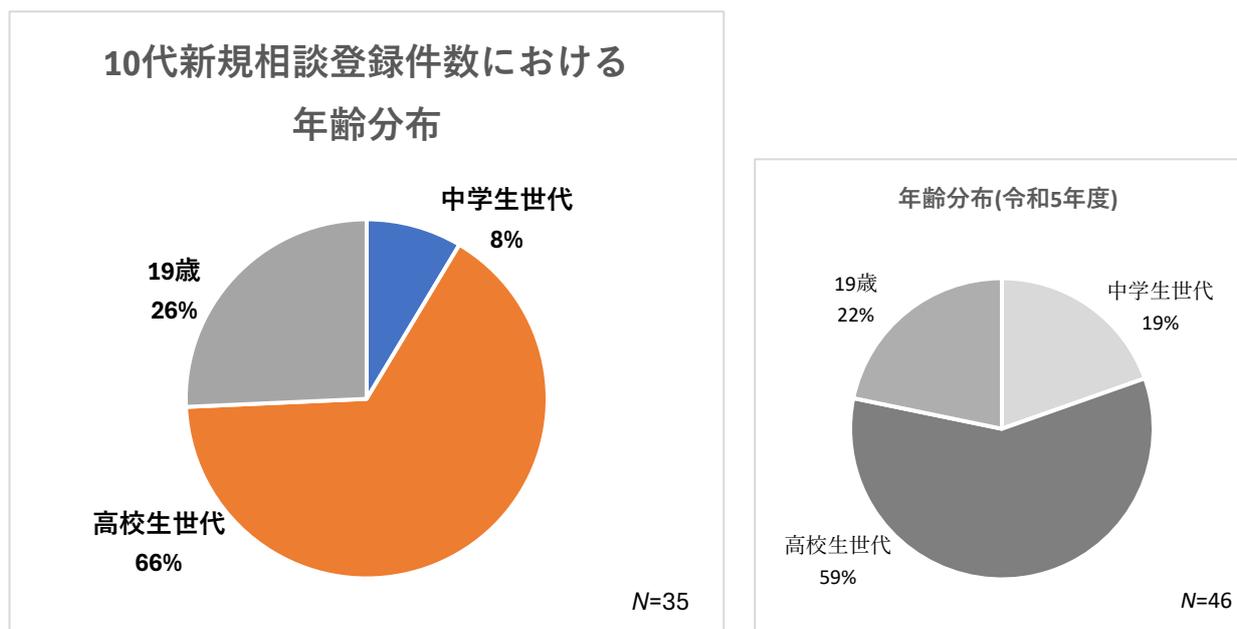
令和 6 年度における 10 代新規相談登録 35 件の内訳は、「家族のみ」が最も多く 60%となっている。令和 5 年度と比較すると、「家族のみ」と「本人のみ」が減少し、「本人・家族」の割合が増加した。

また、10 代新規相談登録 35 件の相談のきっかけは下の表の通りである。令和 6 年度はネットを見た件数が 7 件と最も多かった。次に多かった相談のきっかけは、「リンク」で 6 件だった。

【令和 6 年度 10 代の新規相談登録の相談のきっかけ】

きっかけ/機関名	件数	きっかけ/機関名	件数
教育相談室	5	医療機関	2
スクールカウンセラー	0	親・知人	0
中学校	0	ネット	7
高校	0	チラシ・区報	4
区内関係機関	5	ひきこもり相談窓口「リンク」	6
児童相談所	1	家族会	3
子ども家庭支援課		その他	2

## 2) 10代新規相談登録件数における年齢分布



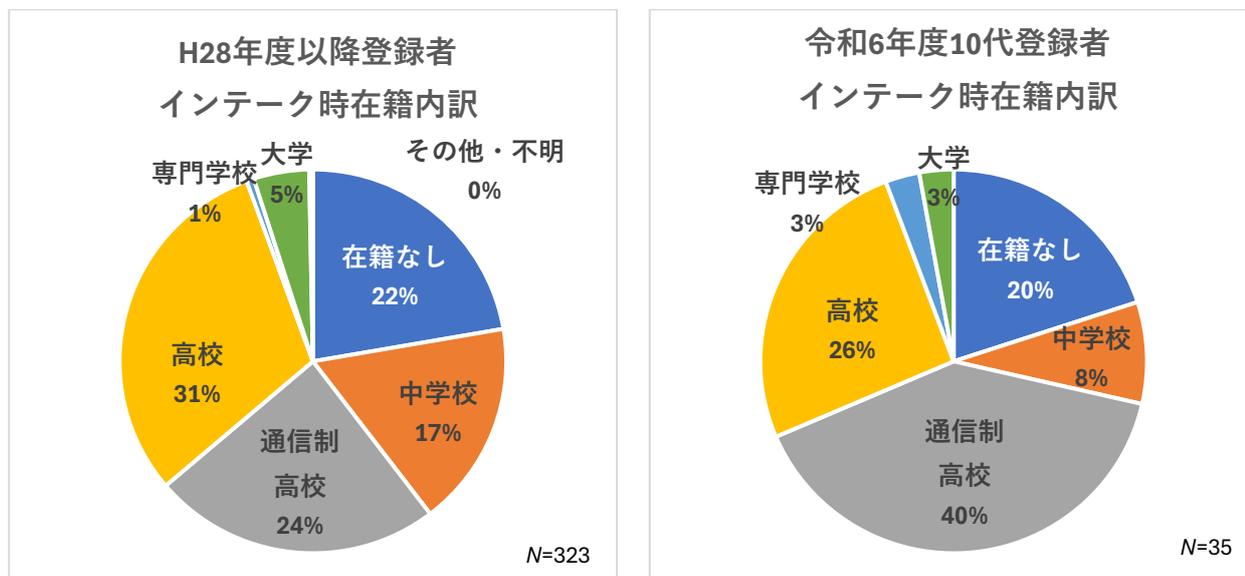
10代新規相談登録における利用者の年齢分布は、中学生世代が8%(3件)、高校生世代が66%(23件)、19歳が26%(9件)だった。

毎年度、区内公立中学校全生徒に向けティーンズサポート事業のチラシを配布している。また、令和6年度は切れ目なく支援を引き継ぐことを目指し、区内公立中学校に配置されているスクールカウンセラー連絡会に出席して事業紹介や、中高生支援者懇談会等に参加することで児童館等との連携強化に努めてきた。中学生世代の保護者からは、中学卒業後の相談先がなくなってしまう、高校入学後どのように子どもを見守っていけばいいのか、といった不安や心配の声と同時に、メルクマールせたがやがあると知って安心したという声も聴かれた。教育相談室での相談を継続しながら、メルクマールせたがやへの個別相談を開始し、重なり合うような形で支援・相談を引き継いでいった例もある。

義務教育終了が支援の切れ目ではなく、新たな相談先や支援につながるタイミングとなるよう、今後も中学生世代の保護者とのつながり強化、教育機関との連携強化に力を入れていく。

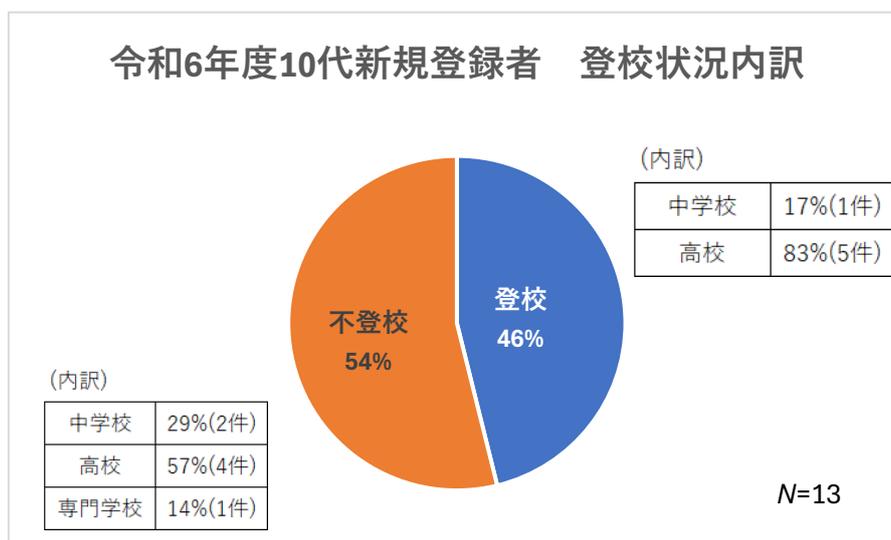
### 3) 平成 28 年度以降 10 代相談登録件数におけるインテーク時在籍内訳

ティーンズサポート事業を開始した平成 28 年度以降の 10 代相談登録件数におけるインテーク時の在籍内訳を以下に示す。



ティーンズサポート事業開始以降、10代の相談登録件数 323 件のうち、高校が 31%と最も多く、通信制高校と合わせると 55%と半数を占めた。

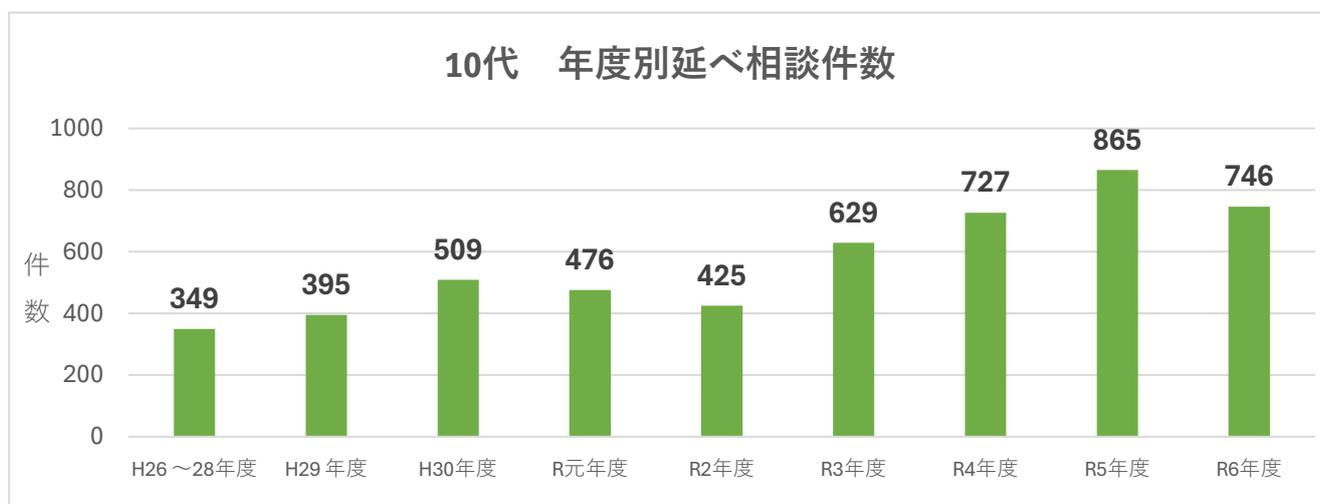
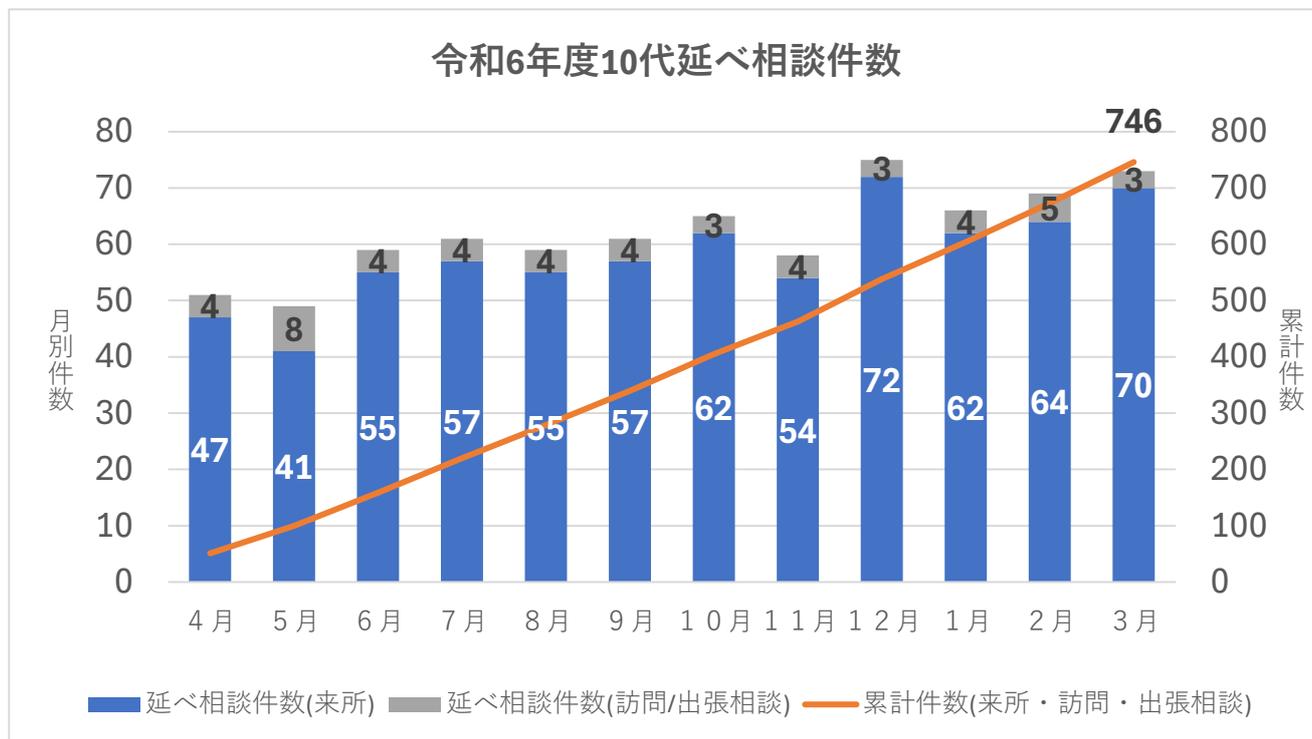
一方、「在籍なし」が 22%で、学校という 10 代の若者の社会生活の場から所属がなくなった若者も利用しており、地域における高校生世代への支援と中学校卒業後に所属のない若者が再び社会とつながるための支援が必要であるといえる。なお、令和 6 年度の「通信制高校」は、平成 28 年度以降登録者インテーク時在籍に比べて高かった。



また、令和 6 年度 10 代新規相談登録のうち、在籍なし及び通信制高校・通信制大学在籍を除く 13 件の登校状況は、不登校が 54%(7 件)、登校が 46%(6 件)であった。不登校の内訳を見ると、高校が 57%(4 件)となっており、高校世代の不登校に対して、在籍中から利用につながるケースが多いことがわかる。

#### 4) 10代延べ相談件数・延べ居場所利用者数

##### ①10代延べ相談件数



令和6年度10代の延べ相談件数は、メルクマールへ来所しての相談、家庭への訪問や出張相談を合わせて月平均62件だった。ティーンズサポート事業を開始した平成28年度の月平均29件と比べ、約2倍の増加となった。

##### ②10代延べ居場所利用者数

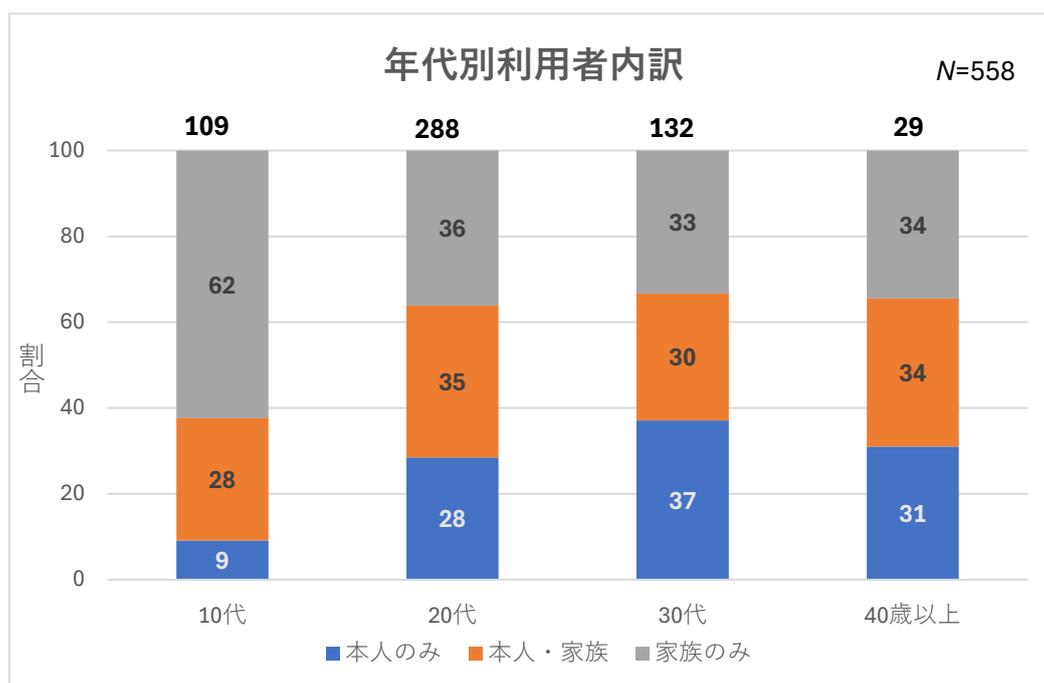
令和6年度10代の居場所延べ利用者数は、80名であった。令和5年度は16名であったのに対し、64名増加した。

メルクマールせたがやでは、10代の若者だけが参加可能なプログラム「Teen's Time」を令和3年度より月に二回、定期開催している。メルクマールせたがやの居場所は10代から30代

まであらゆる年代の利用者が集まる、多様性が受け入れられる場である。10代の若者がお兄さんお姉さん世代を頼りに居場所へ馴染んでいく様子も見られ、頼り頼られるという関係が自然とできやすい。

一方 Teen'sTime は、同世代だけということからフラットな関係が自然と構成されやすい。あらゆる世代が集まる場とはまた異なる居心地の良さが、Teen'sTime にあると考えられるため、今後も Teen'sTime の利用者増加に努めたい。

### ③年代別利用者内訳



上図に、令和6年度末時点での年代別利用者内訳を示す。10代は「本人・家族」と「家族のみ」を合わせて90%(99件)と、家族利用の割合は他の年代と比べて最も高かった。このことから、10代においては家族からの相談ニーズが高いことがわかる。世田谷区の場合、教育相談室など教育支援機関の対象は中学生までのため、メルクマールせたがやは高校生世代以上の10代が相談利用できる地域資源のひとつになっていると考えられる。また、所属のあるうちに利用につながることで、社会との接点が途切れることがないように早期支援を開始できているといえる。

メルクマールせたがやを利用する家族からは、「子どもも周りの目を気にするので、親が学校で相談することは難しい」、「子どもが大きくなってきて、家庭のことをどこで相談したらよいかわからなかった」といった声が聴かれる。家族が相談し支えられることは、生きづらさを抱える若者(子ども)本人の成長や自立を支えることにつながる。メルクマールせたがやでは、若者本人だけでなく家族のサポートも若者支援に重要な側面と考え、引き続き取り組んでいく。

## 5)10代の若者に関わる他機関との連携

メルクマールせたがやでは子ども家庭支援課や中学校、高校など10代の若者に関わる機関との連携強化に取り組んできた。令和2年4月に世田谷区児童相談所が開設され、10代の若者に係る支援において、連携の強化を図ってきた。

令和6年度に実施した10代の利用者に関する個別ケース検討会議を実施した機関一覧を以下の表に示す。

【個別ケース検討会議を実施した機関】

ぷらっとホーム世田谷	健康づくり課
地域障害者相談支援センターぽーと	生活支援課

令和6年度に実施した個別ケース検討会議は4件だった。複数の支援者が関わっている場合、支援者間の目標や足並みを揃えることが肝要である。個別ケース検討会議を実施することにより、アセスメントや支援方針などを深めることができ、より良い支援につなげられる。今後はより積極的に子ども・若者支援協議会における個別ケース検討会議の機会を設けられるよう取り組みたい。



# IV

## 支援効果

---

1. 方法

2. 結果と考察

## IV. 支援効果

令和6年度におけるメルクマールセタがやの支援効果について検証する。ひきこもり支援の領域では、一人ひとりが望む形での社会参加が最終的な目標であるが、社会参加に至るまでの道のりは時間がかかる場合が多く、その過程を含めて支援の効果を検証する必要がある。過去の事業報告書では、①利用主体の変化、②利用者の社会参加に向けた変化、③利用者の他機関とのつながり、という3点について検証した。そこで、令和6年度では①変化の起こる時期、②変化が起こる時期に与える要因、という2点について検証する。

### 1. 方法

#### 1) モニタリングシート

メルクマールセタがやでは、受理会議でケース登録が行われると、モニタリングシートを用いて支援状況の把握に努めている。モニタリングシートには、現在の来所者の状況などとともに、支援評価に関する項目がある(下記参照)。そこで、ケース台帳とモニタリングシートの支援評価を分析の対象とし、支援開始からひきこもる本人の行動変容が起こるまでにどのくらいの期間がかかるかを検証した。

モニタリングにおける支援評価

①本人に変化なし
②本人に家庭内で変化がみられる
③本人が支援機関につながる
④本人に自発的な行動がみられる
⑤本人が社会参加を試みる
⑥本人が安定した社会参加を維持

#### 2) 対象

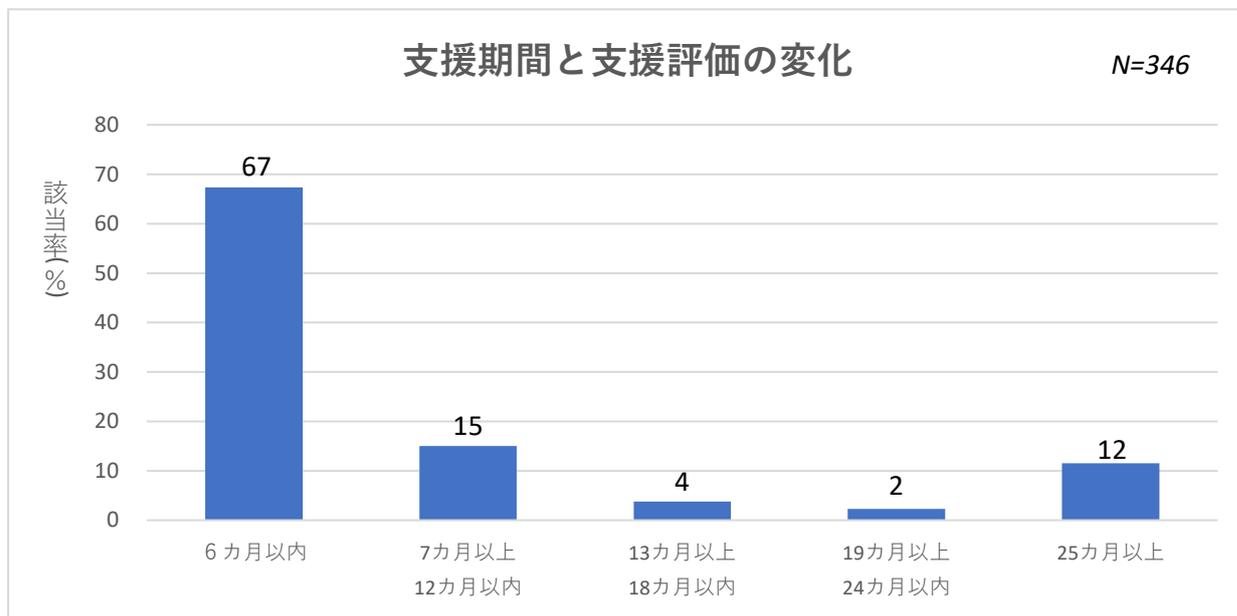
ケース台帳の中から、「令和6年度に相談登録されている」「2年以上支援が続いている」「モニタリングが行われるようになった2016年8月以降に相談が始まっている」の3つ条件をすべて満たす相談者を対象とした。その結果、346件が抽出された。次に、モニタリング実施月から受理会議月を引いた期間を「支援期間」と定義し、モニタリングシートから支援期間を算出した。

最後に、支援期間を6ヵ月以内、7ヵ月以上12ヵ月末以内、13ヵ月以上18ヵ月以内、19ヵ月以上24ヵ月以内、25ヵ月以上という5段階に区切った。そして、支援評価が初めて「①本人に変化なし」以外の5項目が選択された時期を算出した。

## 2. 結果

以下には、分析対象となった 346 件に関するデータを示す。

### 1) 支援期間と支援評価の変化

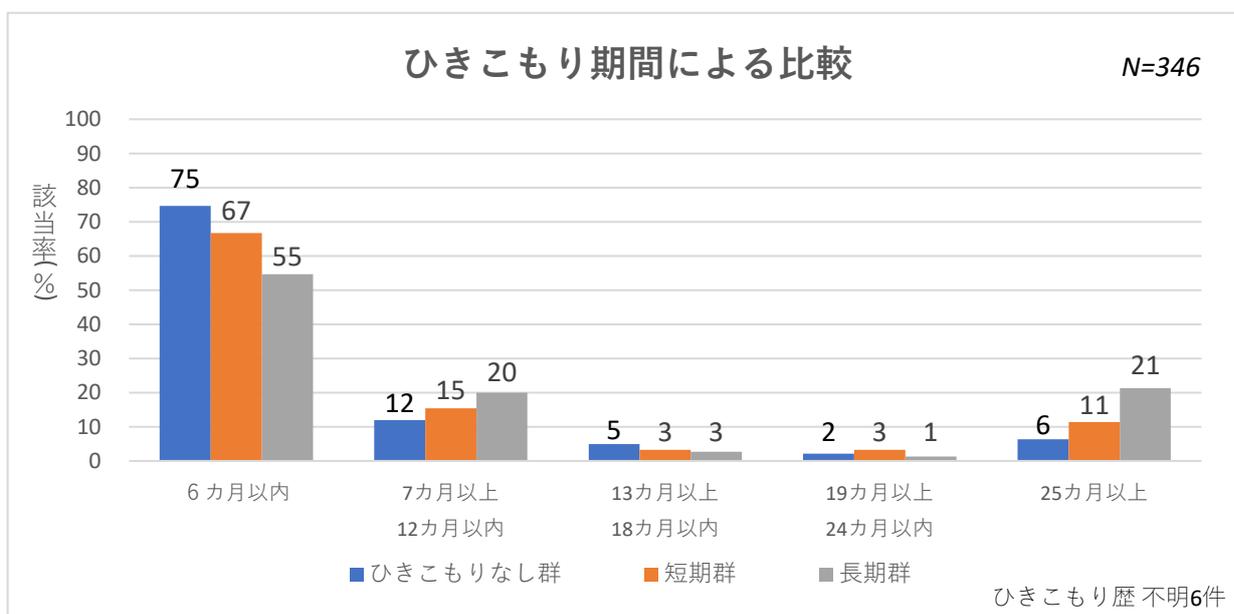


支援期間 6 カ月以内で支援評価に変化が見られたのは 67%(223 件)、7 カ月以上 12 カ月以内は 15%(52 件)、13 カ月以上 18 カ月以内は 4%(13 件)、19 カ月以上 24 カ月以内は 2%(8 件)、2 年以上は 12%(40 件)であった。

上記の結果から、メルクマールせたがやの約 8 割の相談者においては、支援開始 1 年以内に本人に何らかの変化が生じていることが示された。一方、約 1 割の相談者においては、支援の効果がみられるまで 2 年以上の時間を要することが示された。

### 2) 支援に与える要因

#### ① ひきこもり期間における比較

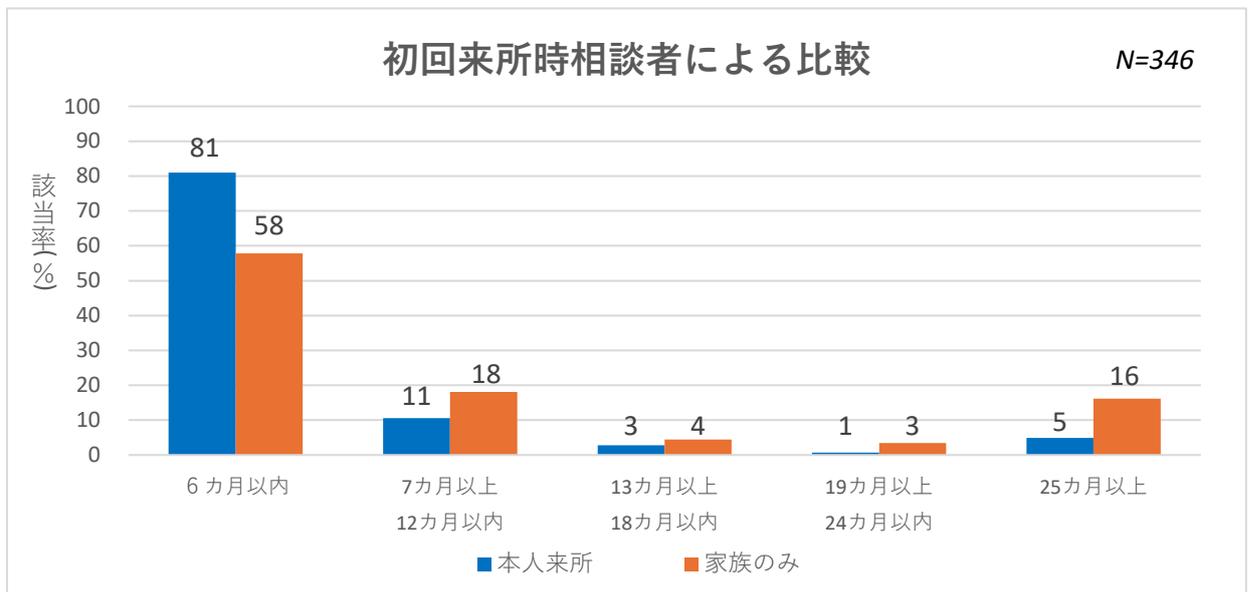


次に、ひきこもり期間による比較を行った。来所時にひきこもり状態ではなかった群を「ひきこもりなし群」、ひきこもり歴が1ヵ月以上3年未満を「短期群」、ひきこもり歴が3年以上を「長期群」と分類した。「ひきこもりなし群」は142件、「短期群」は123件、「長期群」は75件、ひきこもり歴が不明だったのは6件だった。

支援期間6ヵ月以内において、「ひきこもりなし群」で支援評価に変化が見られたのは75%(106件)であった。一方、「ひきこもり長期群」においては55%(41件)だった。また、支援期間25ヵ月以上において支援評価に変化が見られたのは「ひきこもりなし群」においては6%(9件)だったのに対して、「長期群」では21%(16件)だった。

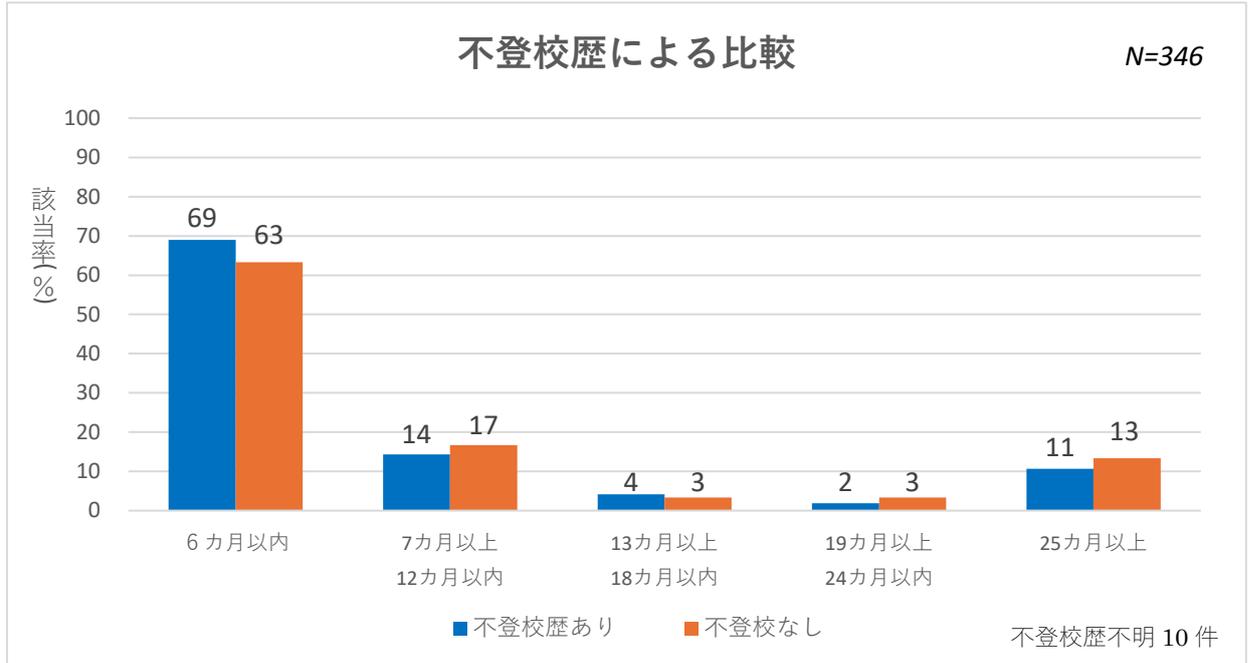
以上の結果から、ひきこもり歴が長くなるほど、支援効果が出るまでに時間がかかる可能性が示唆され、早期介入の重要性が示された。

## ②初回来所時相談者による比較



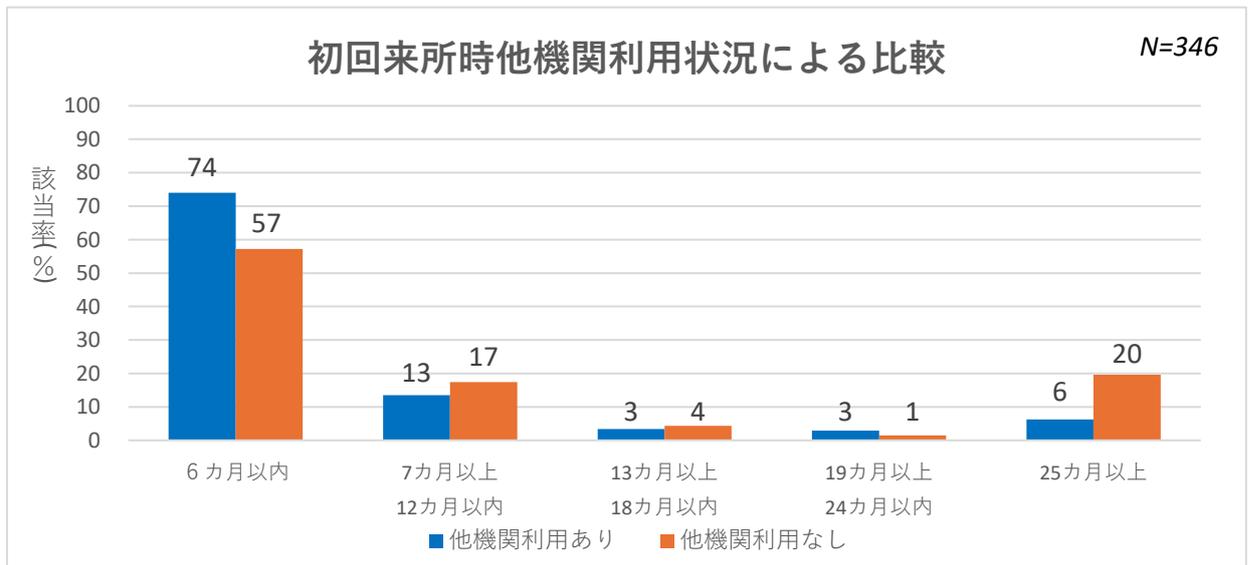
初回来所時の相談者による支援評価の比較を行った。初回相談時に本人が来所したのは142件、初回相談者が家族のみだったのは204件だった。支援期間6ヵ月以内において、初回から本人が来所した群では81%(115件)で支援評価に変化が見られた。一方、初回相談者が家族のみの群でも58%(118件)において、6ヵ月以内に支援評価に変化が見られた。家族相談のみの場合においても、本人の行動変容に影響を与える可能性が示唆された。

### ③不登校歴による比較



不登校歴の有無について検討したところ、不登校歴がある群では216件、不登校歴がない群は120件、不登校歴が不明だったのは10件だった。支援期間6ヵ月以内において、不登校歴がある群では69%(149件)に支援評価の変化が見られたのに対して、不登校歴がない群でも63%(76件)で変化が見られ、ほとんど変わらなかった。不登校歴と支援評価の変化との間には関連がないことが示唆された。

### ④初回来所時他機関利用状況による比較



最後に、初回来所時の他機関利用の有無で比較を行った。初回相談時に他機関を利用している群は208件、利用していない群は138件だった。

支援期間6ヵ月以内において、他機関利用している群では74%(154件)で支援評価に変化が見られたのに対して、他機関利用していない群では57%(79件)だった。複数の機関につながっている方が、支援評価に変化が生じやすいことが示された。





## 世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」

---

1. 概要
2. 「リンク」における活動実績
3. メルクマールせたがやから「リンク」登録となったケースの特徴

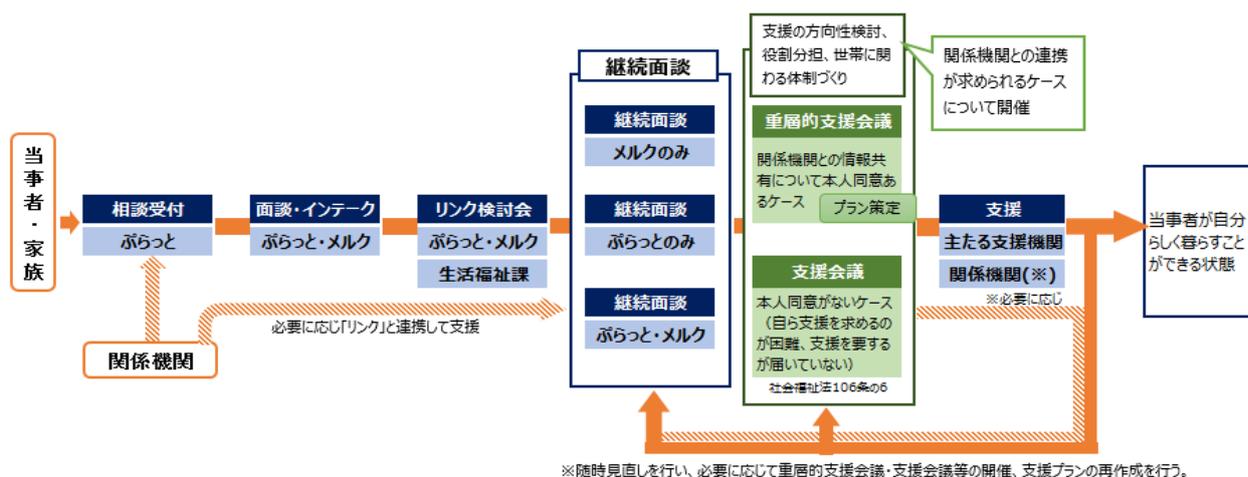
## V. 世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」

### 1. 概要

令和4年4月5日に世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」が開設され3年が経過した。誰もが自分らしく暮らすことができるようサポートすることを目的に、メルクマールせたがやとぷらっとホーム世田谷が共同運営する窓口である。

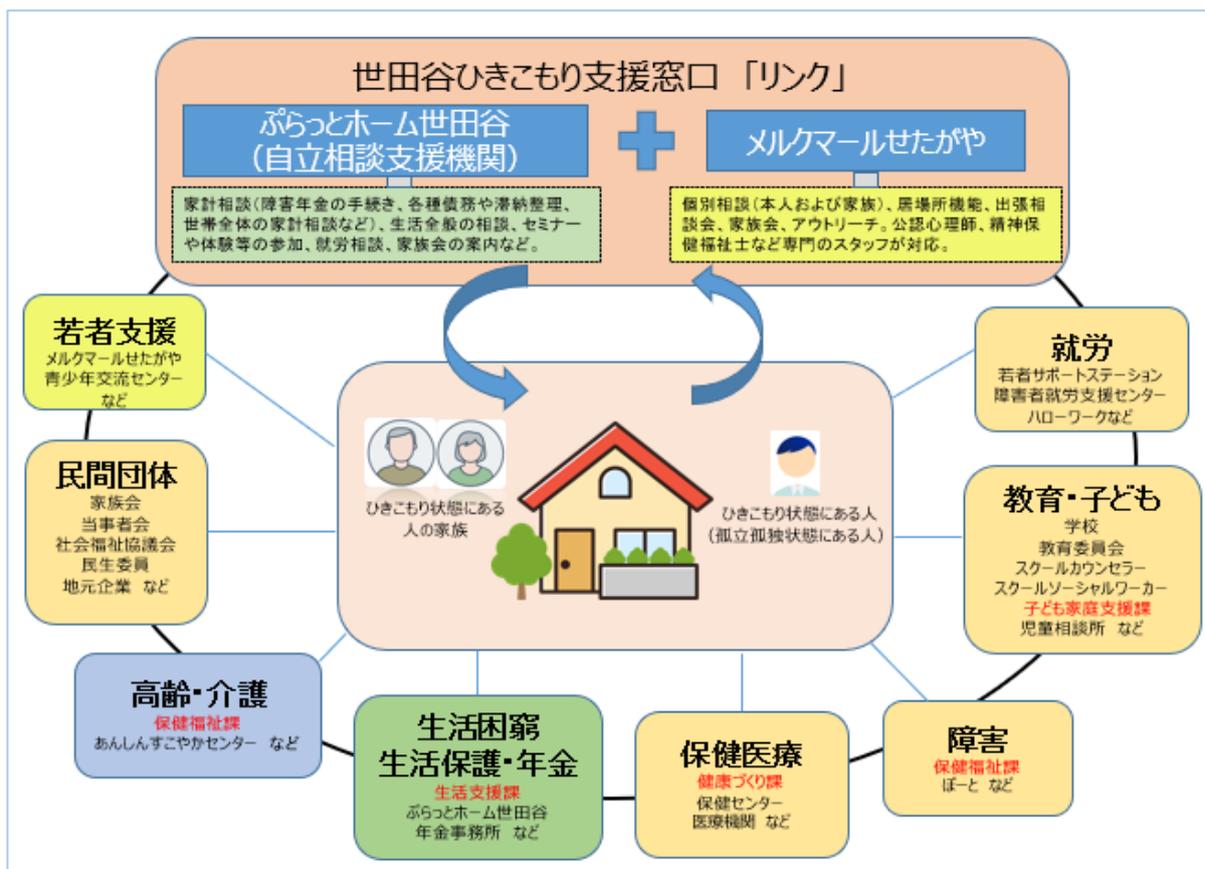
平成26年9月に開所したメルクマールせたがやでは、不登校やひきこもりなど生きづらさを抱えた若者とその家族を対象に個別相談、居場所、家族会などを運営してきた。ぷらっとホーム世田谷は、生活困窮者自立支援相談センターとして、経済的困窮をはじめ、あらゆる生活の困りごとを支援してきた。これまで、ひきこもりについては、若者はメルクマールせたがや、年齢を問わない孤独・孤立などはぷらっとホーム世田谷が支援してきており、「リンク」は2機関がそれぞれ培ったノウハウを活かし、ひきこもりや孤独・孤立状態にある当事者と当事者に係る全ての人と共に、その人らしい生活の再構築を目指している。

### 1) 支援の流れ



上図は「リンク」における支援の流れを示したものである。最初の相談受付後、ぷらっとホーム世田谷とメルクマールせたがやのスタッフが複数名体制で初回相談(インテーク)を実施する。その後、週1回開催のリンク検討会でぷらっとホーム世田谷、メルクマールせたがや、「リンク」の所管課である生活福祉課からなる参加人数平均10名のスタッフ構成により、全ての初回相談内容や最初の支援方針について検討を行う。ひきこもりや孤独・孤立の背景には、心理的課題だけでなく、生活面における課題も多く存在する。そのため、どちらかの機関だけの見立てではなく、2機関それぞれの得意分野を生かし、多職種の見点も加味したうえで、世帯構成員及び世帯全体の状況把握に努めている。このように、多様な視点から課題整理と支援方針を検討し、協働体制で支援を進めていくこととなる。また、相談内容は多岐にわたることが多く、「リンク」内にとどまらず、区内外の公的及び民間の社会資源や支援を必要とすることが多い。その場合、重層的支援会議もしくは支援会議を開催し、様々な支援機関との協働体制を整える。

## 2) 世田谷区のひきこもり支援ネットワーク



上図は「リンク」が連携・協働してひきこもり、孤独・孤立状態にある人をサポートする際のイメージ図である。「リンク」では、世帯の抱える課題・問題に対して、多機関が共通の認識を持ち「協働」することを基本としたうえで、それぞれの機関の強みを活かし多方面からアプローチする「機関連携」を、世帯状況に応じて、時期ごとに柔軟に組み立てていく。ひきこもり状態にある人とその家族が抱える多様な困りごとに対し、当事者とその家族を支援の中心におき、世帯全体にとってよりよい暮らしのかたちを、支援機関がともに模索していく。そのため、このイメージ図は段階的で一方通行のものではなく、必要な支援を複数機関が同時並行的に支援を進めるかたちが表されている。

## 3) ひきこもり・就労支援部会、8050 部会への関与

令和 4 年 3 月に社会福祉法第 106 条に基づき、ひきこもりなど複合化した課題を抱える方及びその家族に対する適切な支援を検討する「世田谷区重層的支援協議会」が設置されたことに伴い、令和 5 年度よりひきこもり・就労支援部会が子ども・若者支援協議会から本協議会に移管され、8050 支援部会が新設された。

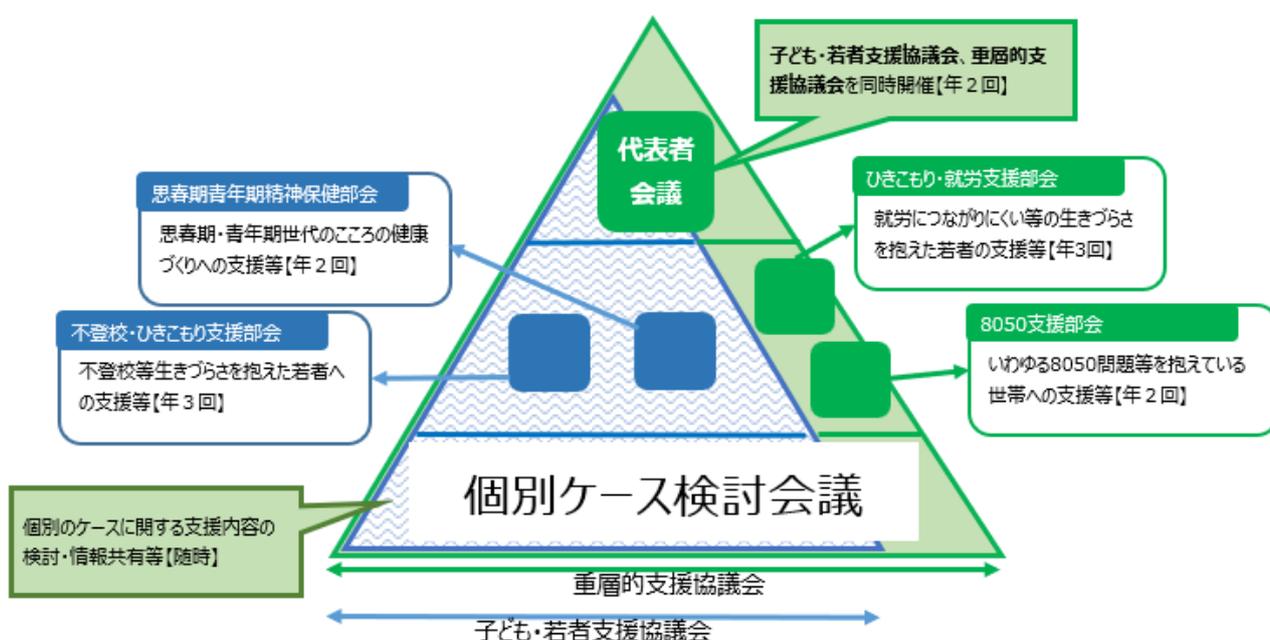
令和 4 年度までメルクマールせたがやがひきこもり・就労支援部会の事務局を担ってきたが、令和 5 年度からは、ひきこもり・就労支援部会と 8050 支援部会の事務局をぷらっとホーム世田谷が担っている。メルクマールせたがやは、「リンク」の構成機関として、上記 2 つの部会で扱うテーマなどをともに考える役割を果たしている。どちらの部会においても、支援の狭間に落ちやすい層への支援について考えられるよう内容を工夫している。

ひきこもり・就労支援部会では、自立を就労に限定せず「その人らしく生きる」ことを重要な視点と位置付けた上で、「就労」をキーワードに各機関が集まり、「その人らしく生きる」ことを共通基盤とした上で、支援ネットワークの構築を主な目的としている。

令和6年度の8050支援部会では、第1回目は部会委員以外の方にも対象を広げ、東邦大学大学院の岸恵美子教授を招き、社会的孤立・セルフネグレクトについての講演会を開催した。第2回目は第1回の岸先生の講演会をうけ、今後の社会的孤立・セルフネグレクトへの対応について全体協議を行った。グループワークでは各機関が抱える対応への困難さが共有され、部署を越えて対応の検討を考えていく必要がある課題として改めて認識が共有された。

なお、令和7年度は、ひきこもり・就労支援部会は閉会され、重層的支援協議会における実務者会議等の位置づけの見直しがある予定になっている。

【重層的支援協議会説明図】



## 2. 「リンク」における活動実績

「リンク」における支援の流れ(p.46)にあるように、2機関でインテークを実施した後、リンク検討会にて相談内容や利用者のニーズに応じて①2機関(「リンク」登録)、②メルクマールせたがやのみ、③ぷらっとホーム世田谷のみの中から継続相談の担当を決めている。

メルクマールせたがやは、インテーク及び上記①、②で相談対応を行っているほか、③についても専門的なサポートを求められる場面で面談などに同席することがある。

### 1) 当事者年齢別/支援機関属性 (令和6年度)

リンク検討会で検討後の、主に相談対応する機関別の相談世帯数は以下の表の通りである。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10代	リンク				1								1	2
	ぷらっと													0
	メルク					3	1							4
20代	リンク		1	3	2					1	3		3	13
	ぷらっと			1										1
	メルク	1					1					2		4
30代	リンク	2	2	1	1	2	2	3	4	2	4	4	4	31
	ぷらっと													0
	メルク													0
40代	リンク		2		1	2			2	3		1	1	12
	ぷらっと													0
	メルク													0
50代	リンク	5	2	1	2	2	3	4	1	5	2	1		28
	ぷらっと													0
	メルク													0
60代以上	リンク	1			1				2	1	1			6
	ぷらっと													0
	メルク						1							1
合計	リンク	8	7	5	8	6	5	7	9	12	10	6	9	92
	ぷらっと	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	メルク	1	0	0	0	3	3	0	0	0	0	2	0	9
総計		9	7	6	8	9	8	7	9	12	10	8	9	102

「リンク」でインテーク実施後、継続相談となった102世帯のうち、主に相談対応する機関の登録状況は2機関対応の「リンク」登録が92件(90%)となった。生活面への支援に加え、心理面への支援を必要とする相談が大半を占めることがわかる。「リンク」の新規登録のうち、1件を除くケースにメルクマールせたがやの相談担当者が対応している。その他、「リンク」登録の92件に加え、インテーク実施後に登録にならず保留・単発相談で終了したケースが17件あり、今年

度の新規相談件数は 119 件であった。「リンク」初年度の新規相談件数が、令和 4 年度 193 名、令和 5 年度 143 名、令和 6 年度 119 名と推移しており、「リンク」開室後 3 年が経過し新規相談件数が落ち着いてきた印象がある。結果として、「リンク」からメルクマールせたがやにつながるケースの減少、メルクマールせたがやの新規相談数の減少にも連動していると考えられる。

## 2) メルクマールせたがやの相談件数に占める、「リンク」相談件数の割合

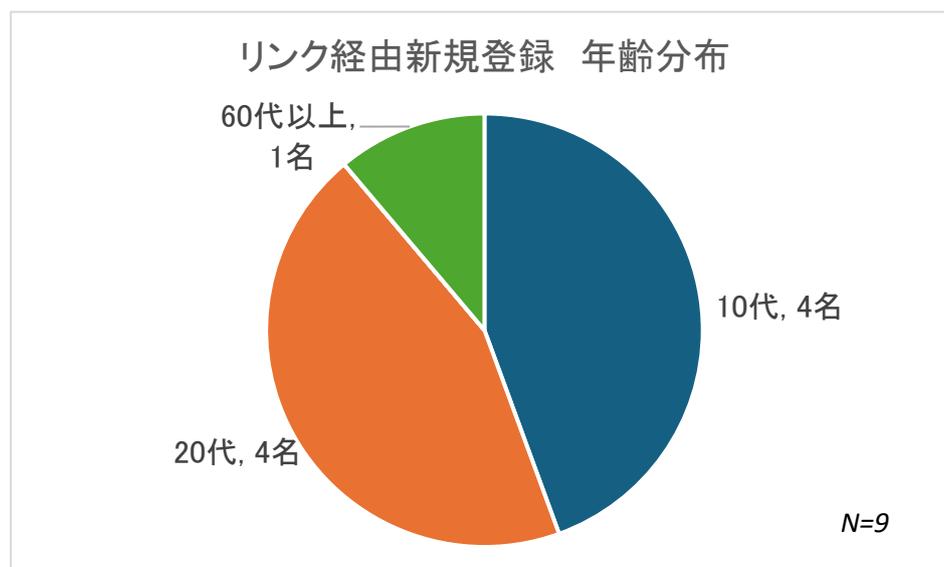
今年度、メルクマールせたがやのスタッフが、「リンク」で対応した相談ケース 1,184 件は、メルクマールせたがやの延べ相談 6,334 件のうち、約 19%を占める。平均すると毎月約 100 件の「リンク」相談を実施している。

令和 6 年度の「リンク」対応の延べ相談件数は、令和 4 年度の 507 件、倍増した令和 5 年度 1,021 件からさらに微増している(p.14)。

## 3) 「リンク」経由でメルクマールせたがやのみ相談登録となったケースに関する分析

「リンク」で実施したインテークの後、メルクマールせたがやのみで担当をつけることになったケース(前項②にあたる)に関する分析を以下に示す。

### ①年齢分布



令和 6 年度「リンク」でインテークを実施したケースのうち、メルクマールせたがやのみで担当することになった新規相談登録は 9 件で、メルクマールせたがや新規相談登録 85 件のうち 11%を占めている(令和 5 年度 12%)。年齢分布は、10 代、20 代が 4 名ずつと同数で、若い層で生活上の支援比重が低い相談者である。60 代以上の相談者をメルクマールせたがやが主で相談対応するのは、令和 4 年度以降初めてのことであるが、生活上の困難はなく、ぷらっとホーム世田谷の支援内容を利用する状況になかったことからメルクマールせたがやのみの登録となった。

「リンク」経由で、令和 4 年度は 29 件、令和 5 年度は 13 件の若者層の新規登録があったのに比べ、令和 6 年度は 8 件とさらに減少傾向にある。開室からの経過による新規相談件数の減少、「リンク」の電話受付時の相談内容の聞きとり段階で、直接メルクマールせたがやのイン

テークにつながったケースが複数あり、受付時の対応窓口の振り分けが進んでいることや、直接メルクマールセタがやに申し込みをしている利用者が多いと考えられる。

#### 4) 「リンク」相談の出張相談会の活用

出張相談はこれまでメルクマールセタがやへの相談を希望する方を対象としていたが、令和5年度からは、「リンク」相談についても、各総合支所の区民相談室を利用した出張相談の活用を開始した。「リンク」相談の場合、基本的にはぷらっとホーム世田谷(就労支援のパソナ職員含む)とメルクマールセタがやの2機関で対応している。

令和6年度は、利用者と関係機関を合わせた延べ相談人数は12件14名であった(令和5年度は5件)。内訳は「リンク」の新規相談が1件、関係機関からの「リンク」新規相談が1件、関係機関との利用者の情報共有が3件、継続相談が6件であった。「リンク」への来所が困難な方への対応や、役所内手続き時の同行が必要な方に有効に活用していただけた。

### 3. メルクマールせたがやから「リンク」登録となったケースの特徴

令和6年度は、メルクマールせたがやを経由して9名が「リンク」登録となった。うち2名は、メルクマールせたがやへの初回相談電話にて、相談主旨の聞き取りをした際に、将来への不安、お金の不安、就職活動への希望などが主訴だったため、「リンク」のインテークにつなぎメルクマールせたがやは未登録である。令和6年度、メルクマールせたがや利用中に「リンク」の登録になった7名の内訳は本人が3名、家族が4名であった。件数が少ないため、ケースの特徴を令和5年度に抽出した【「リンク」登録となったケースの抱える課題】に累積する形で列記する。

#### 【「リンク」登録となったケースの抱える課題】

「リンク」登録となったケースの特徴は、以下の表のとおりである。これらの課題がひとつではなく、複数絡み合っていることも「リンク」登録となったケースの特徴である。

課題	説明
経済問題	・低収入や債務などにより、家計が逼迫している ・生活保護受給で一人暮らしだが、金銭管理が困難 ・相続問題
家族が区外在住	・家族や親族が遠方在住で本人と接点を持ちづらく、本人の生活状況がつかめない
暴言・暴力	・家族への暴言・暴力、物の破壊行為がある ・同居継続が困難な状態
ダブルケア問題	・本人以外の家族にも障害や介護の問題があり、家族への支援も求められている
連携問題	・本人または家族が複数機関に相談しているが、支援方針が定まらない状態
医療の課題	・精神的な不安定さを抱えているが、状況の改善が図れずにいる ・医療の必要性について、検討が必要な状況
住居問題	・家族関係のバランスにより、本人の一人暮らしの検討が必要 ・将来の生活を考えた際、家の売却や転居の検討が必要 ・経済状況の悪化により、転居せざるを得ない状況
社会保障の活用や高齢サービスなどの導入	・本人が働くことが難しく、障害年金の申請を検討している ・世帯支援の切り口として、高齢サービスなどの導入検討が必要 ・生活保護申請の検討が必要
長期化による本人・家族の高齢化及び疲弊	・関係機関にもつながり継続利用しているが、家庭内に変化が見られず、ひきこもりが長期化し本人・家族が高齢化及び疲弊

上記の課題から浮かび上がるのは、ひきこもりの当事者だけでなく、世帯内で困難や生きづらさの要因が複雑に絡み合っているということである。支援が必要な世帯であっても、当事者やその家族が支援を求めつつも変化に強い不安をもつ場合や、第三者に助けを求める発想に至れずSOSの発信が難しい場合において、支援の手が届かず行き詰ってしまうことがある。世帯全体が多様で複雑な困難さや生きづらさを抱え、支援内容が多岐にわたる場合、「リンク」の支援で知恵を出し合い強みを活かすことで、地域の関係機関との協働を円滑に進めやすい。

また、多機関による支援を必要とする場合は、支援会議(p.44 参照)で分野を横断した支援や協働のあり方を検討している。「リンク」開設から3年経過し、複合的課題を抱える世帯への対応の蓄積が徐々に進み、分野の垣根を越えた重層的支援を通じ、従来型の支援や制度の狭間で支援が届きにくかった方々への、より良い支援体制の構築が少しずつ進んできている。



## 事例報告

---

1. 過去の人間関係に傷ついていた本人が居場所利用につながった事例
2. 家族面接から本人への訪問相談を導入した事例
3. 長期にひきこもっていた本人が居場所利用を通して変化のあった事例
4. 家族面接を通して、家族と本人の変化がみられた事例
5. 困窮した高齢の親から「リンク」相談につながり、本人の自立を促した事例

## VI. 事例報告

※ プライバシー保護のため、内容は加工してあります。

### 1. 過去の人間関係に傷ついていた本人が居場所利用につながった事例

・相談者：本人、母親	・性別：女性	・ひきこもり歴：あり
・年齢：20代	・主訴：外出する機会を持ちたい	

本人は20代の女性。メルクマール(以下：メルク)には、通院先の大学病院精神科の主治医に勧められて母親と来室。軽度の自閉症スペクトラムとパニック障害の診断で服薬中。メルクでの相談は2～3週間に1回の頻度。最初は母親と来室し、2回目以降は母子並行で相談を実施。母親相談では、本人のペースを大事にすること、母子の距離感が近いことがテーマに挙げられた。

一方、本人面接では、好きなゲームやアイドルの話題が中心であった。本人の好きなことをずっと喋っており、相談では笑いが絶えないが、中学の頃の話や本人の気持ちの話になると神妙な面持ちになり黙り込むことが多かった。それでも本人は、中学2年生のときにクラス内での人間関係のトラブルをきっかけに不登校になったこと、周りに合わせるのに疲れてしまったこと、通信制高校で何とか高卒認定を取得したことなどを相談員に語った。

相談員は、まずリソース（資質・資源）探しなどを通して、自己肯定感を高めることから始めた。また、自らの意思での外出先がなかったため、目的を持った外出が出来ると良いとの主治医の提案で、メルクの居場所に登録した。1対1での会話は問題ないが、大人数での雑談になると誰が何を喋っていて、何を聞かれたか分からなくなり会話に困ってしまうことがあるため、居場所利用には抵抗があった。また、長時間の電車やバスの利用は難しいため、通い続けるのも不安があった。

しかしながら、居場所に参加して最初の数回は緊張して他の利用者の話を聞いているだけであったが、居場所スタッフがいる安心感から徐々に自分の意見も言えるようになり、自ら他の利用者に質問も出来るようになって来た。相談の中で、相談員が「この間の居場所はどうか？>と聞くと、「楽しかった」「自分から質問ができた」などとポジティブな答えが返って来るが多くなった。最初は週1回のペースでの参加だったが、半年が経過した頃からフリープログラムに参加したり、外出イベントにも参加できるようになった。その頃から、母親との距離も取れるようになり、「居場所に参加して疲れたから母親の用事には付き合えない」と母親からの誘いも断れるようにもなった。

また、同年代、年上の利用者やスタッフとの関わりから「自分もここにいて良いんだ」、という安心感が得られたようである。さらには、他の利用者がアルバイトを始めたとの話を聞き、「これからアルバイトをしてみようかな」と前向きな発言も聞けるようになって来ている。

居場所での人間関係を通じて主体性を取り戻し、家族関係に変化が見られたり社会参加に対して前向きに考え始めた事例である。

## 2. 家族面接から本人への訪問相談を導入した事例

- |            |           |            |
|------------|-----------|------------|
| ・相談者：本人、両親 | ・性別：男性    | ・ひきこもり歴：あり |
| ・年齢：30代    | ・主訴：自立したい |            |

本人は30代男性。中学生の頃から不登校となり、その後公立高校へ入学するも中途退学。いくつかアルバイトを経験するがすぐに辞めた。父親がある時若者総合支援センターの出張セミナーに参加し、家族だけでも相談する大切さを知り、メルクの相談来所に至った。

両親相談では、本人がほとんど毎日を自宅で過ごし、家族以外と接する機会がないことが語られた。ふとしたタイミングを見ては、両親が「アルバイトすればいいのに」と声をかけをしてみても、本人からは煙たがられるだけだった。そんな本人に対して、両親はあきらめの気持ちと腫物に触るような思いが強いようだった。

両親からメルクの訪問相談を提案した当初、本人は全くの無反応であった。両親の理解では、本人は拒否の時ははっきり回答するタイプであるという。これをもとに、本人に訪問の日付と、本人が拒否をすれば無理に訪問相談を実施しないことを事前に伝えてもらい、メルクの訪問相談を開始した。初回訪問時、母親と共に本人が訪問相談員を出迎えた。訪問相談員はメルクの施設案内と、会ってくれたことの感謝を伝えるに留め、本人宅を後にした。その後の両親面接では「もっと本人に仕事を始めるよう説得してほしい」という思いが話されたが、本人が訪問相談員と信頼関係を築く為に焦らず見守る、本人が話しやすい環境づくりに努めることを勧めた。

訪問相談は月に1回続けられた。本人が話をしやすいように、両親は挨拶だけをして席を外すようになっていた。本人からは少しずつ雑談や表情が増え、訪問を開始して1年程経った頃、アルバイトをやろうと思ったが、怖くてできなかったと話し始めた。中高生の頃のいじめられた経験や、以前チャレンジしたアルバイト先で職員に強く叱責された経験がきっかけで、「同世代に比べて自分は何も経験がなく、落ちこぼれで何もできない」と思うようになり、ひきこもることで益々その思いが強まったという。両親に対しても「何もできない自分」でいることの申し訳なさがあり、今まで話せずに来たようであった。一方で「何か始めなければ」という思いもあったことから、メルクの訪問相談を拒否しきれなかったのだという。また「以前の親はいつ『働け』と話をしてくるかわからず、何と答えようかと怖くて話ができないときもあった。訪問相談員は無理には家に来ないと言ってくれたし、いつまでたってもアルバイトしろとは言ってこないで、自分の話を聞いてくれると思った」という。

訪問相談員は、他人と多くは関わらずにできる仕事を探す手伝いと、仕事の前に人と関わる練習を試みることの2つを提案した。また、人と関わることの苦手さがある中で、メルクの訪問相談を受け入れてくれたことを労った。その後本人から仕事探しの希望が出されたため、訪問相談を継続しつつせたがや若者サポートステーションを紹介。スムーズな利用となるよう訪問相談員の相談同行と引継ぎを行った。現在、本人は郵便の仕分けや製造工場の組み立てなどに興味を持ち、せたがや若者サポートステーションでの面接を開始している。

家族それぞれの思いをうまく伝えられず膠着状態となっていた家庭に、訪問という新たな風が通されたことで少しずつ本人の思いがくみ取られ、変化が生じた事例である。

### 3. 長期にひきこもっていた本人が居場所利用を通して変化のあった事例

- |         |                           |            |
|---------|---------------------------|------------|
| ・相談者：本人 | ・性別：男性                    | ・ひきこもり歴：あり |
| ・年齢：30代 | ・主訴：退職後ひきこもっていた。今後どうすれば良い |            |

本人は30代の男性。大学を卒業後一般企業に就職したが、1年で退職、その後8年間ほど自宅中心の生活を送っていた。通院先の主治医に勧められて来所した。

大学での成績は優秀だったが、もともと不器用で対人関係が苦手な面があり、仕事でのミスが重なって、周囲からひどく責められていると感じるようになった。恐怖を感じて出社できなくなり退職。退職してしばらく経ってから心療内科に通院し始め、最近になってやっと調子が安定してきたと言う。本人は初回相談の中で、「自分は周囲の人たちより劣っている、今でも時々死にたい気持ちになることがある。メルクには居場所というものがあると聞き、そこで対人関係の練習をしたい」と言った。本人の、相談での率直な語りや、人と関わりたいという希望に対して、担当相談員は可能性を感じつつ、一方で死にたい気持ちがあるため慎重に対応すべきと考えた。本人の了解のもと主治医と連絡を取り合い、相談で注意深く本人の状態を確認しながら、居場所の見学や体験を経て無理のないように居場所を利用することとした。

居場所利用開始当初の相談では、参加しても周囲と上手く関わらず、「勇気を出して言ったことが失敗だった」、「やはり自分はダメなんだ」という発言が多かった。居場所でのやりとりを本人から確認すると、本人が思うほど場違いな訳ではなく、もっと良くありたいという気持ちの表れのようなだった。本人の発言やその時の気持ち、発言が他の居場所利用者にはどう見えるかなどを具体的に検討した。しかし体調が整わないこともあり、コンスタントな利用には至らなかった。

利用開始から1年が経ち、居場所での会話を聞くのが楽しくなったと言うようにはなったが、自分は劣っているという思いは消えなかった。この時期本人にとって居場所は、素晴らしい人たちがいる理想的な場所で、自分にとっては、無理をして“チャレンジする場”であった。

更に数ヶ月経つと、治療の効果があって体調が整い、居場所のスポーツイベントなどにも参加できるようになった。このイベントは会話の細部にこだわることなく純粋に楽しめるようだった。次のイベントを楽しみに待つようになると、本人にとって身近に感じていた死よりも、未来の予定の実現を願うようになり、「死にたいと思うことがほとんどなくなった」と言った。普段の活動でもその場にいることが苦にならなくなったとも言い、本人にとっての居場所が“チャレンジする場”から“楽に参加できる場”へ変化したことが認められた。

居場所利用者との関係ができてくると、他の利用者から言われたことでストレスを感じることも、反対に支えられた気持ちになると変化してきた。他の利用者を理想化することが少なくなり、多様な面を持つ人として認識するようになった。同時に自分は劣っていると言うことが減り、居場所での発言にも個性が滲み出るようになった。居場所が“自分らしくいられる場”に変化したようだった。この頃から将来について意識するようになり、障害者就労について調べたり、パソコンを学び直したいとせたがや若者サポートステーションに登録するなど、動き始めた。

長期のひきこもりから本人の状態を見極めながら相談と居場所を利用したことにより、本人にとって他者との交流の場の居場所の意味が変化していった事例である。

#### 4. 家族面接を通して、家族と本人の変化がみられた事例

- |         |                    |            |
|---------|--------------------|------------|
| ・相談者：両親 | ・性別：男性             | ・ひきこもり歴：あり |
| ・年齢：20代 | ・主訴：バイトや就職活動をしてほしい |            |

本人は20代の男性。両親と本人、妹の4人で同居をしている。本人は大学2年時に休学をし、その後ひきこもりがちになった。両親は、初めは本人に外出などの働きかけや声掛けをしていたが、本人が両親を避けたり不機嫌になったりするようになり、対応を変えて声掛けなどを減らした。しかし、本人に変化が見られないこともあり、将来への不安が大きくなった両親がそろってメルクの初回相談に来所した。

両親によると、本人は出生時や成育歴上で大きな問題や病気はないようだった。学校の成績は良く、静かなタイプの子どもの友人関係もあった。小学校卒業後に中堅の中高一貫校に入学し、そのまま中学、高校を卒業。大学受験では自分で志望校を決められず、両親や塾の先生が薦めた大学を受験してそのうちの一つに合格して入学をした。大学ではサークルには入らずバイトもしていなかったが、授業にはまじめに出ていて単位も取れていたようだった。2年生になると徐々に遅刻をする日や家にいる日が増え、そのうちに家から出ない日が続くようになった。心配した両親が本人と話をすると、大学に行きたくない話し、結局大学を休学する事になった。

来所時の本人の様子は、1日のほとんどを自分の部屋でゲームをしたり動画を見たりして過ごしており、外出はコンビニに買い物に行く程度だった。身だしなみは乱れてはいなかったが、1時間以上入浴したり、外出の準備に30分以上の準備をかける様子があった。両親は様子見のために毎日本人の自室に入り、妹は仕事をしない本人に厳しい口調で責めるため、本人は家族を避けて過ごしていた。食事も家族がいない時間帯に一人で食べていた。両親は、関わり方を本などで学んでいるが、本人への心配や今後の見通しへの不安が強い様子だった。

両親相談において相談員は、まず本人を心配する両親の気持ちを受け止めるよう心掛けた。一方で、本人の自室に入ることを止めたほうが良いこと、精神科医による治療が有効な場合があることなどを指摘した。さらに、子どもたちの自立や“巣立ち”に向けた変化への準備として、両親に老後の在り方の探索や試行を促した。

その後、両親は不安を抱えながらも、自分たちの趣味や活動に集中する時間を増やしたり、本人の自室に入ることを止めるなど、本人との距離を変化させることに取り組んだ。また妹とも話し合い、妹の思いを聞く時間を作るようになった。

しばらくすると、本人が食器洗いなどをするようになったこと、両親と会話する機会が増えてきたことなどが報告されるようになった。また妹が兄を避ける様子は変わらなかったが、両親との会話で兄の苦労や辛さを理解するような言葉が表れるようになったという報告もあった。また、本人が変わらないことへの不安はあるが、以前よりもその不安があっても生活できるようになってきたという、両親らの変化も語られた。

本人の自立にはまだ時間を要するが、本人の変化や、本人を支える家族の変化が見られたことから、今後の良い経過が期待できる事例である。

## 5. 困窮した高齢の親から「リンク」相談につながり、本人の自立を促した事例

- |            |                   |            |
|------------|-------------------|------------|
| ・相談者：本人、母親 | ・性別：女性            | ・ひきこもり歴：あり |
| ・年齢：50代    | ・主訴：高齢の親が支えきれない不安 |            |

本人 50 代の女性。80 代の父親と 70 代の母親と同居。姉は遠方の他県で家庭を持っている。本人は短大卒業後に就職活動をするも正規雇用での採用を得ることができず、アルバイトや派遣で 30 代まで転々と働いてきたが、度重なる職場でのパワハラに耐え兼ね退職。そこから 20 年近く実家で必要最低限の外出しかしない状態。家では昼夜逆転した生活をしており、家族が声をかけても無視か、機嫌が悪いと両親に暴言を吐くため、なるべく関わらないような生活を送っていた。しかし、両親が高齢になったこと、父親の認知症が進行して介護が必要なこと、母親自身の体調不良等が重なり、母親は徐々に本人を支えられるか不安を感じるようになった。父親の介護のことで地域包括支援センターにつながり、そこで家庭状況を相談する中で「リンク」を知った。

メルクでの母親相談では、両親の高齢化と健康不安、さらに経済的困窮も進んでおり、母親の精神的負荷はかなり強い印象だった。母親には、今まで心細い中で耐えてきたことを労うとともに、本人の年齢が 40 歳以上であること、生活困窮もあることを考慮して、「リンク」として相談を開始することを伝えた。「リンク」での母親相談では、このまま本人を養い続けることの限界を感じている一方で、本人を変えることへの諦めと本人と関わる怖さがあり、身動きが取れない状況になっていることがわかってきた。また、母親自身が重度のうつ状態であることもわかってきて、まずは母親に心療内科への受診の必要性を心理教育し、受診につなげ、母親の薬物治療を開始した。その中で徐々に母親に前向きに動いていこうという考えが生まれ、もう一度本人と向き合ってみようと思いついた様子だった。しかし、母親が本人と話そうとしても強い拒絶で対応されるため、手紙をしたため何度か部屋の前に置いておくと、それは読んでいたようだった。その手紙の中で、このまま経済的に支えて行くことが難しいことと両親の健康不安のことを伝えた。また母親は相談の中で、本人が退職して閉居し始めた当初、姉と本人を比較してたびたび叱責してしまったことを後悔しており、そのことに関する謝罪も手紙で伝えた。並行して母親相談の中では、本人に世帯分離をしてもらって生活保護を取得してもらおう方向性で進め、期限を伝えて家から出て 1 人暮らしをしてもらいたいことも手紙で本人に伝えた。

それでも、1 人暮らしの期限の半月前まで家では顔を合わせない状況が続いていたが、ある日に本人がリビングに降りてきて、「住むならこのあたりが良い」と意見を言うようになった。それをきっかけに親子の会話が生まれるようになり、少しずつ母親の手伝いをするようになってきた。親子関係は良くなってきたものの、本人が働くにはまだ心理的抵抗感がかなり強く、やはり予定通り世帯分離をして本人は生活保護を申請し、同じ区内で生活することとなった。その中で、本人としても「働きたいが過去の経験から働くことが怖い。どこか相談できる場所はないか」と母親に話したそうで、本人も「リンク」の相談につながった。本人の担当者は 1 年程かけてじっくり過去の体験の傷つきを丁寧に傾聴していく上で、担当者とは緊張なく話せるようになってきたが依然として働くことへの不安は強い様子だった。本人にも医療での治療の必要があることと手帳を申請して障害者就労という選択肢があることを説明し、医療受診と就労支援を目指している最中である。高齢となり子どもを支えるエネルギーが枯渇していた親をまず支えつつ、家族全体を社会資源につないでいくことで本人の自立が進みつつある事例である。

# VII

## メルクマールせたがや利用者の声

---

1. アンケート結果
2. 本人の声
3. 家族・その他の声

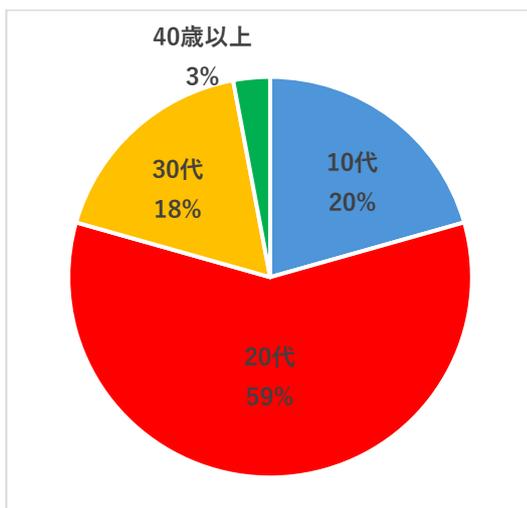
## Ⅶ. メルクマールせたがや利用者の声

### 1. アンケート結果

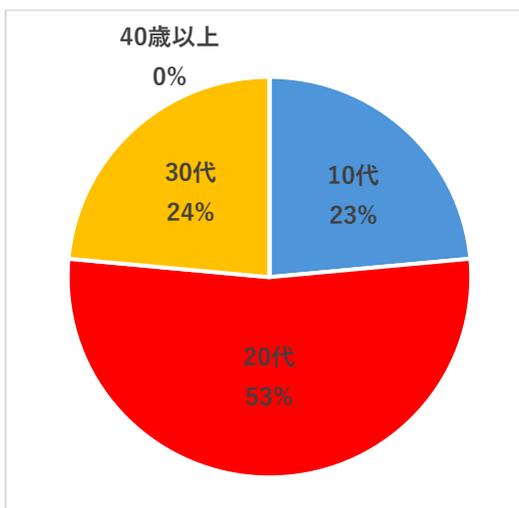
<回答者内訳>



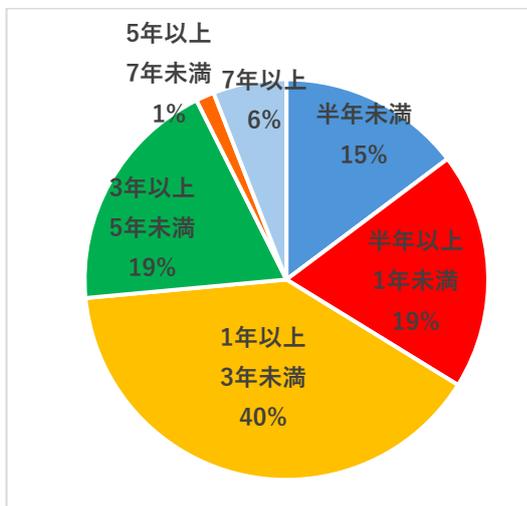
<回答者年齢内訳(本人)>



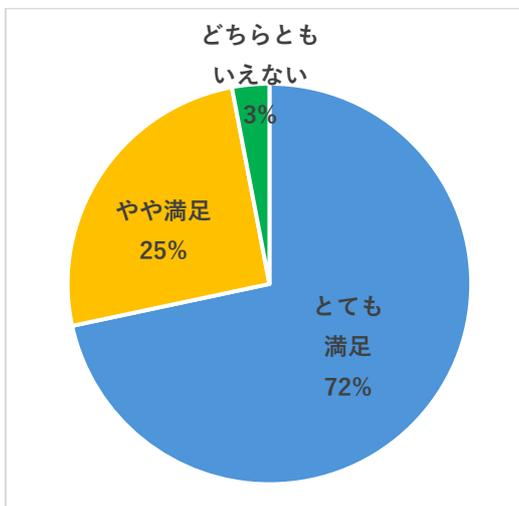
<本人年齢内訳(家族回答)>



<利用期間>



<総合的満足度>



## 2. 本人の声(一部校正あり)

<メルクマールせたがやを利用して良かったこと、役立ったこと、変化を感じたこと>

家族との付き合い方のアドバイスをもらい、適切な距離を保ちながら会話できるようになった。

毎週外に出られるきっかけになっている。

家族以外の人間関係を築くことができ、また病院以外の外出の機会が増え、とてもありがたいです。

どう生きたらいいのか路頭に迷っていたんですが、メルクマールに来てから人生の目標が定まって毎日が生きやすくなりました。

細かくお話を聞いていただけるので、自分を見つめ直し、客観視出来るようになりました。

自分の考え方は、他の人よりも偏っていること、バランスが悪いことに気づかせていただきました。もっと楽しく生きてもいいと言われ、驚きました。自分の、自分に対してだけ向けられている厳しさを、うまくコントロールして、よりよい人生を送りたいと思います。

心にひっかかったことを相談できたり、話していて楽しい気持ちになれた。

家族でも友達でもない方に話を聞いてもらえることによって、客観的な視点や安心感を得られて気持ちが整理されたり落ち着いたりする感覚があります。

話せる場所が増えた。行くのはめんどくさいが、楽しい。

大学卒業後の自分に合う働き方について、わからない事・不安な事を相談させてもらっている。

メルクで出会った人と居場所以外で交流する機会ができた。

信頼できる人が増えた。

生活リズムが良くなり、前より人と話すようになった。

以前より自分の意見を伝えることができるようになった。

色々な利用者がいるのだと思いました。少しずつプログラムに参加するようになりました。

<今後、改善してほしいこと、取り組んでほしいこと>

電話が苦手なのでネットやLINEで予約できると助かります。

LINE、メール相談が出来るようになるのもっと気軽に相談できて良いなと感じました。

実際の職場体験などの増設。

めちゃくちゃ満足しているので無いです。

居場所でのイベントをもっとしてほしい。

<初めてメルクを知ったとき、初めてメルクに来たとき、どう思ったか？>

初めてこそ不安でしたが、すぐに打ちとけあえるような空気を感じました。ここなら続けられると思いました。

しぶや若者ハローワークでメルクマールのことを知った。相談員の方は親身になって話を聞いてくれて過去の記憶の整理や新しく人生を始めるためのアドバイスを得ることができた。

一番最初はメルクマールに対して「大丈夫かな？」という不信感を抱くところもありました。

精神科での診療や、1人での対処に限界を感じ、カウンセラーを求めていましたがカウンセリングだけを受けようとすると料金が高いことや無料の電話相談では話が噛み合わないことが多く、対面で家からも近く資格を持った方に無料で相談できるというのはとても魅力的でした。

実際に相談員の方とお話ししても安心感があり、今の自分の状態にとっても合わせて話を聞いていただいたり提案をしてもらっているなと感じました。

はじめはあまり期待していなかったが、話していくうちに楽しくなった。

一度見学に行った時、利用者同士が楽しげに交流をしており、継続して通えるか多少不安に思った。

区の施設で、成人を過ぎても会話が苦手な私に寄り添った対応をもらえる場所があるということに驚きました。

両親と共に来ました。どちらかという、ただついて行っただけでした。

### 3. 家族・その他の声(一部校正あり)

<メルクマールせたがやを利用して良かったこと、役立ったこと、変化を感じたこと>

家族会では、子どもの接し方、親の対応の気をつけることなどとても参考になっています。個別相談は親自身の心配事、関わり方など話を聞いてもらい自分だけで抱えこまなくてよいので助かっています。

子供のことを相談しているが、自分自身の話も聞いてもらい振り回されていた自分にも気づけました。まだまだ出来ませんが、子供との距離感や子供も一人の個人であり、又、私も一人の個人として生きていいんだと感じるようになりました。

親では理解できない若い人特有の考えや趣味について聞いていただけるところがありありがたいと思っています。

いつもどんな細かいこともゆっくり話を聞いてくださってありがたいです。また娘の小さい時のことを聞かれて、普段あまり考えていないのですが、なかなか思い出せないことも思い出すことができました。幸せなことを沢山思い出すことも出来て嬉しかったです。

本人との会話が増え、親子関係が改善していると思う。

悩み事を開示出来る場ができ、心の浄化に役立っています。相談の日が、息子の現状の把握や家族の関わり方などを見直すきっかけとなっています。

たくさんのアドバイスをいただき心が軽くなりました。子どもとの会話の中で先生がおっしゃった事を話すと、自分の気持ちを理解してくれてすごいと本人も相談に何う様になりました。先生は常に子どもに寄り添ってくださり大変信頼し自信が持てる様になったようです。家族以外の方に相談できる機会をいただけとても良かったと思います。

私の話を否定せずに聞いていただき、失っていた母親としての自信を取り戻すことができました。また、本人への対応において、要求をのむことが愛情だと勘違いしてしまいそうになったときに、何が本人のためになるのか考えることを促していただきました。おかげさまで親子関係も改善してきており、本人も自立に向けて少しずつ進んでいます。

自分の息子に対する接し方で迷っている時に、自分の判断が、相談する事によって相手にどんな影響を与えてしまうかなど気付かせてもらえることが良かった。

話すことで自分の思いを改めて確認できた。傾聴してもらえるので話しやすかった。子どもの別な側面(良い面)に気付かせてもらえて、子どもなりにがんばっているんだなと思った。子どもへの具体的な声かけや接し方のアドバイスをもらって参考になった。

家族として心の病を抱える娘への接し方など相談させてもらえて、このような場所があると言うだけで安心出来る。継続して相談出来ていることで自分の気持ちが安定している。

<今後、改善してほしいこと、取り組んでほしいこと>

提携駐車場があると助かります。

子供の面談時の話がもう少しわかると嬉しい。

たくさんの方々にこのような相談できる場所があることを知らせていただくと悩んでいる方たちも助かると思います。

本人が家から出られない時、自分からは支援を求められない時に、自宅を訪問し、話し相手になってくださる方がいるとありがたいと思います。

引っ越してからも続けさせてほしい（有料になってもかまいません）。

ひきこもりからどんな状況で脱せられたか、逆に脱せられなかった事例を読んで参考にしたい。

<相談対象者のこと、相談対象者との関係について悩んだときに、支えになったこと>

家族会や出張セミナー講師の方から学んだことを読み返すことで心の整理ができた。子の担当の方がていねいに関わってもらっているので安心感がある。

声掛け・言葉掛けの仕方がとても助けになりました。悩んでいるのは悪いことじゃない、似た境遇の方も沢山いると知った。

本人の現在の心の状況など具体的に教えて頂けて、本人との接し方に参考になります。

暴力の対処を教えてもらえた（離れる、警察呼ぶ）。

失敗してもここで相談できるという前提があったので、思い切って本人と話し合うことができた。

他の家族は頼り／支えにならなかったのもメルクマールさんが唯一の支えでした。結局は自分で自分を支えられるようにならないといけないといけないとも気づかされました。映画観賞など気分転換になる趣味は少し無理をしてでも続けるようにしました。

とにかく冷静になる、自分自身のことも含め客観視する、決して自分自身を責めないというか責める必要ないのだということを知って頂き、心が楽になりました。

自分の行動に勇気を出せない時など、勇気の出し方、自分の気持ちのあり方を教えてもらい、支えになっている。

声のかけ方、接し方のヒントを頂きました。家族には気づきにくい変化や良い点に気づかせてもらえました。

どう対応すればいいのか、このままのコミュニケーションの取り方でいいのか不安になった時に「こんなケースもありましたよ」と他の方がどんな風にされているのか聞くことができた。

病院のカウンセラーさんに言われた専門用語をさらに噛み砕いてわかりやすく教えて頂けたり、親としての悩みを丁寧に聞いていただけた。

<相談対象者のこと、相談対象者との関係について悩んだとき、あればよいもの/もっと広まってほしいこと>

家族会がもっと充実してほしい。家族の話は参考になるし、皆さんの話を聞き、共感も得られる。

区の相談に医療関係の支援も含まれると良いと思います。

不登校なので人とのコミュニケーションや、勉強の遅れなど気になるので、その分野の支援があれば助かります。

「ひきこもり」笑顔への一歩～ご家族のためのパンフレット～ とてもわかりやすくて良かった。

緊急で相談したい時に電話での対応をしていただけるとありがたい。

多少反応が遅くてもよいので、ラインかチャットで相談できるツールもあればよいなと思いました。

悩んでいる事を気軽に話せる場所があるといい。

特性を持った人たちがどのように社会で生きているのか、どんな工夫をしているのかなど、実体験を知ることができるとても参考になります。本はあると思いますが特別な人ではなく普通にいるんだということも生きていく大きな力になると思います。

このようなサポート機関があることをもっと周知してほしい、本人が自分で見つけられるように。また、「ひきこもり」というWordは強いので、自分は違う、と思う人には入りにくいと思うので名称は考えた方がいいと思う。ビルの表札にあるのでいつも思います。

ボランティアの機会、なんらかの社会参加の機会があるといい。





## 広報・啓発活動

---

1. 広報・啓発活動
2. 視察・見学対応

## VIII. 広報・啓発活動

### 1. 広報・啓発活動

#### 1) ニュースレター

メルクマールせたがやでは、毎月居場所活動のスケジュールとあわせてニュースレターを発行している。ニュースレターでは、実施したイベントの様子や居場所プログラムの紹介など、メルクマールせたがやの活動が伝わるように作成している。ニュースレターは、利用者に配布するだけでなく関係機関にも送付している。

**3月 メルクマールせたがや ニュースレター**

メルクマールせたがやとは...?  
ひきこもり等で悩んでいる方や  
そのご家族の方への支援を行っている機関です。  
個別相談、居場所活動、家族会などに取り組んでいます。

世田谷若者総合支援センター メルクマールせたがや  
TEL: 03-3414-7867(なやむむ)  
開所日時: 月曜日~土曜日 10時~18時 ※休日は閉室  
ホームページ: <https://3cha.tokyo>

◆おしらせ◆  
メルクマールせたがやは、令和7年4月より移転します  
移転前: 東京都世田谷区太子堂4-3-1 STKハイツ5階  
移転後: 東京都世田谷区太子堂2-16-7  
世田谷区役所三軒茶屋分庁舎5階  
移転に伴う居場所の閉室: 3月28日(金)~4月6日(日)  
電話不通期間: 3月30日(日)~31日(月)  
※留守電にならない期間です

◆居場所活動報告◆ 居場所の様子は、ホームページの「ブログ」にも掲載しています。ぜひご覧ください☆

◆今月のオープンプログラム◆ 登録前にお試して参加できるプログラムの一部をご紹介します!

1月7日(火) オープンクラフト それぞれが好きな作業に取り組むこのプログラムでは、メルクにあるアイロンビーズやミニブロックで作った方や、プラバンに好きなアーティストの絵を描いた方、持参したプラモデルを作った方も! 毎月開催していますので、ものづくりが好きな方はぜひ♪	3月13日(木) こころほ 「ほめ上手になろう」クイズ形式で、どんな「褒め方」がいいのかをみんなで考え、ロールプレイも行います。お気軽にご参加ください!	3月17日(月) 趣味の時間 「謎解きゲーム~STKハイツから引越せよ~」活動ルームで脱出ゲーム!? みんなで協力して楽しくクイズを解こう!	3月19日(水) 食プロ 「ナンを作ろう」ホットケーキミックスで作り、市販のカレーやピザソースで頂きます♪ 持ち物:エプロン 予約制
1月17日(金) 第3金曜プログラム「インドアを極める会」 「~新春 書道ゲー・短歌ゲー~」として楽しく書初め! 書道が得意なスタッフも特別ゲストとして参加。コツを教わり漢字ゲームをやりました。短歌はリレー小説形式で作成し、面白い作品ができました!	3月27日(木) おさんぼくらぶ 「世田谷公園・目黒川 花見」この季節といえは桜! 桜並木の下を散歩しよう~	3月21日(金) イベントプログラム「ゆるスポseason3」 今回は、ボウリング場&バッティングセンター! 【ボウリング450~550円+貸し靴350円、バッティング23球200円】集合:メルク13:00or現地13:30、解散:現地16:00(桜3-24-1 オークラント)予約制	3月1日・22日(土) メルクサボ 世田谷区在住の中高校生世代から39歳までの方であれば、メルクの登録をしないでなくても誰でも使える居場所です。色々な人と交流してみたいという方におすすめです! ☆初めて参加される方は、詳細をご案内致しますので事前にご連絡ください☆
1月30日(木) イベントプログラム「展望せよ。渋谷スカイ。」 展望台に行く気満々でしたが、1週間前にチケットが完売...なので、サクラステージという新しい商業施設に行ってきました! イベントスペースのゲームで遊んだり、隅々まで探索したりと楽しみました!	3月25日(火) 火曜日企画 「STKお疲れさまTea Party」STKハイツとはお別れ...なので、この活動ルームでの思い出をお菓子を食べながらゆったり語り、整理したりしよう!		

ニュースレターの例(令和7年3月)

#### 2) ホームページにおけるブログ

メルクマールせたがやでは、広報の一環として居場所活動の様子をブログで発信している。



(<https://3cha.tokyo>)

ブログでは、ニュースレター同様にイベント・プログラムの内容について写真を掲載しながら紹介している。ブログの読者に、メルクマールせたがやの取組みや活動の様子が伝わるような内容を意識して作成している。なお、ホームページは居場所だけでなく家族会や出張セミナーの周知の場としても活用している。

### 3) 事業紹介（研修会・会議体講師、会合の出席など）

事業紹介は、具体的な活動内容や利用者の様子などを周知し、若者・ひきこもり支援に係る地域の支援者にメルクマールせたがやを知っていただくことを目的としており、地域に理解者が増えることが、潜在的なニーズの掘り起こしにつながると考えている。また、「リンク」を運営する一機関として、ひきこもりの課題を有する世帯を支援している支援者に、有効に「リンク」を活用していただけるよう、ぷらっとホーム世田谷とともに、「リンク」の機能や8050問題への多機関協働での支援の進め方に関して、積極的に研修などでの広報に努めている。

令和6度は学会発表を行い、全国に向けて「リンク」の活動を通じた社会課題解決のありようを提示し、参加者から意見をもらう機会を得た。

研修会・会議体（メルクマール）	研修会・会議体（リンク）
あんしんすこやかセンタースキルアップ研修	<区内>
昭和女子大学見学実習	あんしんすこやかセンタースキルアップ研修 講師
三宿・池尻まちこま会	ひきこもり（8050問題）の理解・支援力向上研修 講師
世田谷区都任用スクールカウンセラー連絡会	発達支援コーディネーター連絡会
世田谷区任用スクールカウンセラー連絡会	よりそいホットライン
子ども相談担当係長会	ヤングケアラーコーディネーターヒアリング
世田谷地域中高生支援者懇談会	北沢地域合同地区包括ケア会議
みつけばハウス主催ミドル事業報告会 パネリスト	<区外（国・都道府県など）>
野毛青少年交流センター地域懇談会	厚生労働省令和6年度社会福祉推進事業「ひきこもり支援にかかる支援ハンドブックの策定に向けた調査研究事業」ヒアリング/トーマツ
希望丘青少年交流センター地域懇談会	自治体講演会・情報交換会
<b>学会発表・雑誌投稿（リンク）</b>	
第31回日本精神障害者リハビリテーション学会	
一般演題：世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」～重層的支援体制整備事業の活用 2年間の実践報告と課題～	
自主シンポジウム：多職種アウトリーチが目指すものを共に考えよう！～医療・保健・福祉はいかにクロスオーバーできるか～	
第27回日本精神保健・予防学会	
ポスターセッション：世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」に精神科医が関わる意義	
作業療法ジャーナル 2024年12月号 【特集】訪問での精神科作業療法（58巻12号）	
コラム 世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」～重層的支援体制整備事業の活用～	

### 4) 情熱せたがや、始めました。（略してねつせた!）による情報発信

世田谷区では、若者による若者向けのソーシャルネットワークサービスを利用した情報発信を行っている。長期休暇の時期などにあわせて、メルクマールせたがやの利用を促すメッセージを発信した。

### 5) 地域と若者の交流

若者と地域の交流の機会として、野毛青少年交流センター主催の「のげ青縁日」、池之上青少年交流センター主催の「青年文化祭」、池尻児童館主催の「がやがや村祭り」にせたがや若者サポートステーションと一緒に世田谷若者総合支援センターとして「ワニたたき」という子ども向けの出店を行った。また、池尻児童館の餅つき大会にも利用者と一緒に参加した。

## 2. 視察・見学対応

メルクマールせたがやには、毎年区内外を問わず視察や施設見学の申込みがある。特に、居場所のコンセプトや機関連携など実際の運営について質問を受けることが多い。ひきこもりの方がどのようにして利用に至るのか、相談支援と居場所支援の取組みについて意見交換をすることがあり、メルクマールせたがやとしても、視察を通して他の自治体の取組みを知る貴重な機会となっている。

### 1) 視察対応

令和6年度の主な視察対応は以下の表の通りである。「リンク」が開設したことにより、メルクマールせたがやには主に若者支援施策に係る内容が多く、「リンク」には主にひきこもり支援や重層的支援体制整備事業に係る内容の依頼が多い。視察対応では、相談窓口機能だけではなく継続的な相談支援や居場所活動の他、協議会の運営や他機関連携について意見交換を行った。

視察対応（メルクマール）	視察対応（リンク）
港区生活福祉調整課ひきこもり支援担当	港区生活福祉調整課ひきこもり支援担当
金沢市議会会派みらい金沢	鹿児島県鹿屋市福祉政策課
くらしき若者サポートステーション	愛知県岡崎市議会議員団
東洋大学みんなのゼミナール	
愛知県岡崎市議会議員団	



## 支援方針に基づく取組みの進行状況

---

1. 令和6年度の取組み状況
2. 今後の課題と展望

## IX. 支援方針に基づく取組みの進行状況

令和5年度の事業報告書において、今後5年間の取組みについて以下の2つをあげた。

1. 世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」におけるぷらっとホーム世田谷との連携・協働
2. 早期支援・早期回復を目的とした中高生世代への切れ目のない支援

この方針に基づく取組みの進行状況について報告する。

### 1. 令和6年度の取組み状況

#### 1) 世田谷ひきこもり相談窓口「リンク」におけるぷらっとホーム世田谷との連携・協働

「リンク」開設から3年が経過した。「リンク」では、メルクマールセタがやとぷらっとホーム世田谷からそれぞれ担当者がついて当事者の支援にあたる。初回相談の段階から2機関が協働することで、見立てや当事者のニーズに合わせて、2機関の強みを活かした支援の進め方ができる。「リンク」には、本人や親だけでなく、兄弟や知人などからも相談申込みがある。また、高齢福祉や障害福祉等の支援機関からの問い合わせや相談も多く寄せられている。令和6年度から、世田谷区の重層的支援体制整備事業の一環で5地域の総合支所にある保健福祉センターが窓口となって多機関協働事業が区全体の動きとして始まったことで、メルクマールセタがやや「リンク」が他機関主催の支援会議、個別ケース検討会議に呼ばれる機会も増加した。多機関協働は、支援会議で展開していくような、分野を横断した重層的支援のあり方を模索しながら展開する。複合的な課題を抱える世帯への対応事例を蓄積していき、分野の垣根を越えた重層的支援が、区内で確実に根づいていくことを目指し、従来型の支援や制度の狭間にあり支援が届きづらかった層への、より良い支援体制の構築に取り組んできた。

メルクマールセタがやは、「リンク」の運営にあたり、これまでの支援活動のノウハウを活かす形でぷらっとホーム世田谷と協働体制を取ってきた。寄せられる相談内容が複雑化・複合化しており、当事者だけでなく、支援に行き詰った支援者からのニーズも寄せられるようになってきている。今後は、支援・制度の狭間にこぼれ落ちていたであろう困難を抱えた世帯に関わる1機関としてだけでなく、支援者支援の視点で地域の多機関協同事業の後方支援の役割を担っていくことになると考えられる。

#### 2) 早期支援・早期回復を目的とした中高生世代への切れ目のない支援

メルクマールセタがやは、所管課が子ども・若者支援課から生活福祉課に移管されたが、引き続き区の若者総合相談センターに位置づけられており、10代の若者への早期支援であるティーンズサポート事業を重点事業とする。令和6年度の活動実績は、新規相談登録件数における10代の割合が42%と、状態が長期化・重篤化する前に相談利用につながってきていると考えられる。

また、支援を必要とする若者が制度の狭間にこぼれ落ちないようにするためには、複数の機関が重なり合うことで年齢による切れ目をなくし、支援のタスキをつなぐことが重要である。関係機関との個別ケース検討会議の開催は、10代の若者を対象としている機関と実施する割合が増えており、子ども・若者支援協議会における指定支援機関の役割を早期支援の文脈で果たすことができつつある。中学校や高校などの教育機関、区児童相談所や子ども家庭支援課といった児童福祉の機関との連携の実績を重ねていく。令和6年度は、区内公立小中学校に配置されているス

クールカウンセラーの連絡会に参加する等、教育との連携に取り組んだ。今後も不登校支援に携わる職員や、生徒・保護者と直接つながれる機会を大切に、切れ目のない支援に取り組む。

その他、世田谷区子ども・青少年協議会では、「居場所」をキーワードにした若者の参加参画、地域と若者のつながりを主な目的として学校モデル事業を開始している。学校モデル事業では、学校内に地域の大人がカフェを開き、学校という社会生活場面に安心できる居場所を作る取り組みを行っている。令和6年度は、都立世田谷泉高校での校内カフェモデル事業に参加した。

## 2. 今後の課題と展望

### 1) 多種多様なニーズへの対応

多機関協働事業が動き始めたことで、これまで必要な支援につながれていなかったひきこもり状態にある当事者やその家族に対して支援者を通じて関わる機会が持てるようになってきた一方で、世帯に関わりのある支援者からも多種多様な支援ニーズを投げ込まれる状況にある。たしかに、「ひきこもり」は病気や障害ではなく状態像を指す言葉であり、定義が幅広いが故に一人ひとりの抱える困難さや支援ニーズは一律ではない。

メルクマールせたがやは、職員の大半が心理の専門資格を有していることから、他機関から理支援を求められることが多い。しかしながら、メルクマールは心理相談に特化したカウンセリングセンターでもなく、職員の中には社会福祉士、精神保健福祉士といった福祉の専門資格を有する者もおり、心理や福祉の専門知識を活かして個別相談や居場所活動等を行っている機関である。「生きづらさ」は大なり小なり誰もが有している主観的な感覚であり、社会参加できている人が感じていてもおかしくないものである。設立当初から生きづらさを抱えた方々を利用対象としているが、自分らしい社会参加のあり方を見つける社会参加の準備支援が目的である。実際の活動と他機関から求められる支援ニーズにずれが生じないように支援における枠組みを改めて整理する必要がある。

令和7年度を迎え、厚生労働省がひきこもり支援マニュアルの改訂版が発表された。また、世田谷区の子ども条例が改訂されるなど、区や都、国の支援施策の動向を視野に入れながら、行政における若者支援、ひきこもり支援機関として活動していく。

## 【用語解説】

- **アウトリーチ**：主に社会福祉の領域で使われる用語で、「支援者側から地域に出向いて支援を必要とする人に必要な支援と情報を届ける活動」のこと。メルクマールセタがやでは、利用者の自宅への訪問相談や地域に出向いての出張相談会などを実施している。また、他機関との連携や支援ネットワーク構築も広義のアウトリーチ活動である。
- **アセスメント**：「査定」と訳される用語で、相談者との面接場面でのやり取りの様子や聴取した情報などを基に、相談者の心理状態や力のある部分といった能力、課題などを見立て、今後の支援方針を計画すること。相談者を理解し、適切な支援を提供することを目指す。
- **インテーク訪問**：初回の相談を訪問で実施すること。通常、初回相談はメルクマールセタがやへの来所で実施するが、本人や家族が来所困難な場合は電話での相談希望を受けて訪問による初回の相談を実施している。支援を必要とする人へのアウトリーチ支援活動のひとつ。通常の訪問と同様にインテーク訪問においても、ひきこもりの本人の了承を前提としており、本人からの明確な拒否がある場合は実施しない。
- **エンパワメント**：個人や集団が本来持っている潜在能力を引き出し、湧き出させることを意味する用語。利用者が本来の力を発揮できるようになることで、自ら主体的に課題解決に取り組めるようになると考え、支援者は利用者の強みや能力を尊重した肯定的な働きかけを行う。
- **サテライト**：ここでは、「拠点」という意味で使用している。メルクマールセタがやは世田谷区の三軒茶屋が本拠地であるが、世田谷区は区役所機能が5地域に分かれており、広域で人口も多い自治体であることから、区民の身近な場所で支援を届けるためには「拠点」が各地域に必要と考えており、サテライトとして出張相談会を4地域の総合支所や希望丘青少年交流センター「アップス」で定期開催している。
- **生物・心理・社会モデル**：遺伝子や身体機能などの生物学的な面、気分や行動といった心理学的な面、生活する社会環境や文化などの社会的な面という3つの側面から、課題や困難な状況を包括的にとらえるという考え方。精神科医のエンゲルによって提唱されたモデル。
- **ピアサポート**：「同じ悩みを抱える仲間同士の支え合い」を意味する用語。メルクマールセタがやにおいては、居場所活動はひきこもりに悩む本人同士のピアサポートの場であり、家族会はひきこもりに悩む家族同士のピアサポートの場になっている。対等な関係性の中でお互いに支え合いながら成長し、課題を解決していく。
- **本人**：ここでは、「ひきこもりなど生きづらさを抱えた方」を指す用語として使用している。メルクマールセタがやはその方々の多様な自立や望む生き方をサポートする機関であり、家族が利用主体の場合も“家族を通した「本人」への支援”を実施している。



世田谷若者総合支援センター 令和 6 年度メルクマールせたがや事業報告書  
<令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月>

令和 7 年 5 月 発行

編集・発行 世田谷若者総合支援センター メルクマールせたがや  
事業運営 公益社団法人 青少年健康センター【茗荷谷クラブ】

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 2-16-7 世田谷区役所三軒茶屋分庁舎 5 階

TEL 03-3414-7867 <sup>なやむな</sup> FAX 03-6453-4750

HP <https://www.city.setagaya.lg.jp/02412/8950.html>  
<https://3cha.tokyo/>